



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 令和3年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報告書

一般財団法人地域創造



## はじめに

---

一般財団法人地域創造では、地域における創造的な文化・芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、地域における文化・芸術活動を担う人材の育成、公立文化施設の活性化支援、情報提供、調査研究などの事業を実施しています。

これらの事業の一環として、地域創造では平成 17 年度から「公共ホール現代ダンス活性化事業」（通称：ダン活）を実施しています。

この事業は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストと、コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家であるコーディネーターを地域の公共ホールに派遣し、ホールとアーティストが共同で地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）や公演を企画し実施するものです。Aプログラム（地域交流プログラム）、Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）、Cプログラム（公演プログラム）の3つのプログラムがあり、ホールが今後のダンス事業のビジョンに基づいて年度ごとに1つプログラムを選択し、翌年度以降に他のプログラムを継続して実施できます。また、コーディネーターによる企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、地域創造では、この事業を通じて、公共ホールの利活用やホールスタッフの企画・制作能力の向上、創造性豊かな地域づくりを支援しています。

令和3年度は、14 団体（Aプログラム5団体、Bプログラム2団体、Cプログラム7団体）で実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により1団体（Cプログラム）で中止となり、13 団体での実施となりました。

この報告書は、事業を実施した各地での取り組みを取りまとめたものです。実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウ、事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスはアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に実施していただいた実施団体、各地域に寄り添ったプログラムを実施していただいたアーティスト、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、その他多くの関係者の皆様方のご協力のもと、令和3年度の事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

## 目次

---

### 令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業の概要

実施概要	2
全体研修会概要	6
事業の流れ	8

### 実施内容紹介（実施日程順）・コーディネーターレポート

#### 【Aプログラム】

岐阜市文化センター（岐阜県岐阜市）	10
北九州芸術劇場（福岡県北九州市）	16
フェニーチェ堺（大阪府堺市）	22
茅ヶ崎市民文化会館（神奈川県茅ヶ崎市）	28
あすとホール（大阪府泉大津市）	34

#### 【Bプログラム】

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（愛知県豊橋市）	42
白河文化交流館コミネス（福島県白河市）	50

#### 【Cプログラム】

アィム・ユニバース てだこホール（沖縄県浦添市）	60
野々市市情報交流館カメリア / 文化会館フォルテ（石川県野々市市）	66
宮古市民文化会館（岩手県宮古市）	72
希望ホール（酒田市民会館）（山形県酒田市）	78
小牧市市民会館（愛知県小牧市）	84
あわぎんホール 徳島県郷土文化会館（徳島県）	90
荘銀タクト鶴岡（山形県鶴岡市）	96

### 事業資料

公募ワークショップチラシ／当日パンフレット	100
令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	116
コーディネータープロフィール	121



令和3年度公共ホール  
現代ダンス活性化事業の概要

# 令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業 実施概要

## 1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

## 2 実施内容

### (1) 実施団体（都道府県順）

地方公共団体	実施団体名	主会場（実施ホール名）
<b>【Aプログラム（地域交流プログラム）】</b>		
神奈川県茅ヶ崎市	（公財）茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団	茅ヶ崎市民文化会館
岐阜県岐阜市	（一財）岐阜市公共ホール管理財団	岐阜市文化センター
大阪府堺市	（公財）堺市文化振興財団	フェニーチェ堺
大阪府泉大津市	泉大津市	あすとホール
福岡県北九州市	（公財）北九州市芸術文化振興財団	北九州芸術劇場
<b>【Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）】</b>		
福島県白河市	（特非）カルチャーネットワーク	白河文化交流館コミネス
愛知県豊橋市	（公財）豊橋文化振興財団	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
<b>【Cプログラム（公演プログラム）】</b>		
岩手県宮古市	（特非）いわてアートサポートセンター	宮古市民文化会館
山形県鶴岡市※	タクトつるおか共同企業体	荘銀タクト鶴岡
山形県酒田市	酒田市	希望ホール（酒田市民会館）
石川県野々市市	（公財）野々市市情報文化振興財団	野々市市情報交流館カメリア / 文化会館 フォルテ
愛知県小牧市	（一財）こまき市民文化財団	小牧市市民会館
徳島県	（公財）徳島県文化振興財団	藍住町総合文化ホール
沖縄県浦添市	浦添市てだこホール指定管理共同企業体 ティダ・コミュニケーションズ&リレーションズ	アイム・ユニバース てだこホール

\*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

※事業中止

### (2) 開催時期

令和3年7月～令和4年3月

### (3) 事業内容

登録アーティストを地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下のいずれかのプログラムを実施。実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョンに基づいて選択し実施。

#### ① Aプログラム（地域交流プログラム）

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募によるワークショップ（4～5回）

\*アウトリーチ（3回以上）\*公募のワークショップ（1回以上）

#### ② Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

市民参加で創作した作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

#### ③ Cプログラム（公演プログラム）

登録アーティストのレパートリー作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

### (4) 研修会

#### ①全体研修会

日時：令和2年10月5日（月）～10月7日（水）

会場：オンライン（横浜赤レンガ倉庫一号館）

内容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

#### ②現地見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣

### (5) 費用負担

#### 1) 地域創造が負担する経費

##### ①登録アーティスト等派遣経費

派遣対象者の出演料等、現地移動費を除く交通費、宿泊費、日当、損害保険料

※派遣対象者

【Aプログラム】登録アーティスト、アシスタント（ソロの場合1名）

【Bプログラム】登録アーティスト、クリエイションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

【Cプログラム】登録アーティスト、共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

##### ②公演負担金（Bプログラム及びCプログラム）

実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、対象経費の2/3以内で50万円を上限に実施団体に対して負担

#### 2) 実施団体が負担する主な経費（実施するプログラムで異なる）

地域創造が負担する経費以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・照明・音響などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

### (6) 事業実施に対する支援

#### ①全体研修会の開催

#### ②コーディネーターの派遣

### (7) 主催・共催等

主催：開催地の地方公共団体等 共催：一般財団法人地域創造

### 3 令和3年度コーディネーター

小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

神前 沙織（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network チーフ・コーディネーター、ディレクター）

坂田 雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

中富 勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

中西 麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長）

宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

### 4 2020・2021 年度登録アーティスト（五十音順）



©bozzo

#### ●北尾巨

幼少期よりミュージカルを中心に舞台芸術に携わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2009年ダンスカンパニー [Baobab] を旗揚げ、全作品の振付・構成・演出を担う。振付家として、舞台作品のほか、TVドラマ、CM、映画へ多数振付。ダンサー・俳優として多くの作品に出演。WS 講師やアウトリーチ活動を全国で展開。尚美学園大学、桜美林大学、多摩美術大学非常勤講師。横浜ダンスコレクション 2018 コンペティション I 「ベストダンサー賞」、ベッシー賞（ニューヨーク・ダンス & パフォーマンス賞）「OUTSTANDING PERFORMER 部門」（2020年）ノミネートほか、多数受賞。



#### ●田村一行

舞踏家・振付家・俳優。東京都出身。1998年大駱駝艦入艦、麿赤児に師事。以降、大駱駝艦全作品に出演。2002年、『雑踏のリベルタン』を発表。同作品により第34回舞踊批評家協会新人賞受賞。2008年、文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。2011年より（一財）地域創造〈公共ホール現代ダンス活性化事業〉登録アーティストとして、地域の文化や風土を題材とした作品の創作にも意欲的に挑み、独自の作品を発表し続けている。http://www.dairakudakan.com



#### ●長井江里奈

舞台芸術集団「山猫団」主宰。「伊藤キム+輝く未来」「まことクラブ」にてダンサーとして国内・国外の様々な劇場のみならず、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、ソロアーティストとしても活動中。ダンスを通して誰もがお互いの個性と自由を認められるコミュニティを作ること目標に、日本各地で公演活動とワークショップを行う。愛鳥のセキセイインコと遊ぶのが日々の癒し。



©金子愛帆

#### ●中村蓉

早稲田大学在学時コンテンポラリーダンスを始める。ルーマニア・シビウ国際演劇祭、東アジア文化都市式典（韓国光州・横浜）など国内外で作品を上演。ロックバンド sumika「MAGIC」MVなどの振付も担当。ダンサーとして郷ひろみ「笑顔にカンパイ！」MVなど出演。2021年二期会ニューウェーブ・オペラ劇場『セルセ』では演出・振付を担当し、音楽とダンスの垣根を越えて好評を得た。横浜ダンスコレクション EX 審査員賞・シビウ国際演劇祭賞（2013）第5回エルスール財団コンテンポラリーダンス部門新人賞（2016）などを受賞。



©阿部章仁

### ●藤田善宏

振付家・演出家・ダンサー。ダンスカンパニー CAT-A-TAC(キャットアタック) 主宰。コンドルズメンバー。文化庁芸術祭舞踊部門新人賞受賞。福井国体開会式振付総合監修。群馬大学非常勤講師。身体表現と道具を駆使した台詞のない物語、柔軟な発想を生かした異ジャンルや伝統芸能とのコラボが得意。三世代間で楽しめるダンス劇や児童演劇・幼児教育教材の監修、障がい者対象 WS など多様性を重視した活動にも力をいれる。小栗旬やジャニーズ Jr. 主演舞台、TEAM NACS、NODA・M A P、山田洋次監督演出舞台、Eテレ他、振演出演ステージング多数。



©Nonoko Kameyama

### ●マニシア

「ワレワレワークス」代表/ダンスアーティスト・ダンスムーブメントセラピスト・ダンサー。長期におけるNYを拠点とした活動後、福岡で多国籍、多世代の参加者約100名とアジアの路上生活の子どもたちへの救済チャリティー公演を13年間開催。その後、障害のある人々とプロダンサーたちとのダンスグループ、ワレワレワークスを結成。難病の子ども、パーキンソン病の方、DV 被害者、不登校生、少年院のティーンを対象とした WS や作品のクリエイションなどに挑戦しながら、あらゆる場所にダンスの種を蒔き続けている。コロナ禍の現在、移民問題で出生届けを出されていないマレーシアの子どもたちとオンラインで WS を継続中。



### ●康本雅子

はじめはダンサー、いつの間にか振付家、やめられんのがダンサー。その昔バックパッカー時代にアフリカダンスに出会い、セネガルへ。ダンス漬けの半年を送るも帰国後一文なしになりバックダンサーに。食うためのダンスじゃ飽き足りず、作品を作るようになって今に至る。ライブワークは子供たちへの WS。最近は「マジな性教育マジカ」も始動中。どっちもハウツーは教えない。

## 令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業 全体研修会概要

### 1 期 日

令和2年10月5日（月）～10月7日（水）

### 2 会 場

オンライン（横浜赤レンガ倉庫一号館）

### 3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップを体験し理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

### 4 プログラム内容

10月5日（月）

時間	会場：オンライン
14:30～15:30	セッション①「事業概要説明」 講 師：コーディネーター 中西麻友

10月6日（火）

時間	会場：オンライン
13:30～14:10	セッション②「アーティストプレゼンテーション」 (登録アーティスト4組4名)
休憩	
14:30～15:00	セッション②「アーティストプレゼンテーション」 (登録アーティスト3組3名)
休憩	
15:40～18:00	セッション③「フィードバック」 講 師：コーディネーター 中富勝裕（進行）、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中西麻友、 宮久保真紀

10月7日(水)

時間	会場：オンライン
10:30～12:00	セッション④「フィードバック～企画発表」 講師：コーディネーター 小岩秀太郎（進行）、大澤苑美、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、中西麻友、 宮久保真紀
昼休憩	
13:30～15:40	セッション⑤「企画発表」 講師：コーディネーター 宮久保真紀（進行）、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、 中西麻友
15:40～15:50	事務連絡

令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業 事業の流れ (9月実施のケース)

時期	(一財) 地域創造	コーディネーター	実施団体	アーティスト
令和2年度 10/5～10/7	<b>全体研修会 (アーティストプレゼンテーション)</b>			
10/23 締切	実施計画案の確認 (仮) 日程調整		実施計画案作成・提出 (仮) 日程調整	
12月上旬	コーディネーター会議 (事業日程、アーティスト、担当コーディネーター決定)			
令和3年度 4月上旬	決定通知発送		各種準備 (内容詰め、宿泊手配、制作スケジュール打合せ等)	
4月下旬～	個別研修 (現地下見) (1回) コーディネーター アーティストの派遣			
7月上旬	計画書の内容確認 契約書作成 契約締結		実施計画書作成 実施計画書提出 (事業実施2か月前) 広報、各種調整 (全体スケジュール、フェカル、当日スタッフ体制等の調整)	契約締結
9月	<b>事業実施</b>			
10月	出演料等支払		実績報告書等提出 (事業終了後1か月以内)	出演料等請求
令和4年度 6月	事業報告書発行			



# 実 施 内 容 紹 介

(実施日程順)

コーディネーターレポート

**Aプログラム**

(地域交流プログラム)

# 岐阜市文化センター 実施データ

Aプログラム

実施団体	一般財団法人岐阜市公共ホール管理財団		
実施ホール	岐阜市文化センター		
実施期間	令和3年11月3日(水・祝)～11月6日(土)		
アーティスト等	アーティスト：長井江里奈	アシスタント：北園優	
コーディネーター	坂田雄平		
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 11月4日(木) 8:45～10:15、岐阜市立合渡小学校、4年1組、31名、体育館</p> <p>② 11月4日(木) 10:40～12:10、岐阜市立合渡小学校、4年2組、34名、体育館</p> <p>③ 11月4日(木) 15:50～17:20、聖マリア女学院中学校・高等学校、ダンス部、21名、体育館</p> <p>④ 11月5日(金) 13:50～15:25、岐阜市立白山小学校、5年1組、31名、体育館</p> <p>■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 11月6日(土) 10:30～14:30、小学校4年生～中学校3年生、10名、岐阜市文化センター舞台付和室</p>			

## スケジュール

	下見	
	7/14(水)	7/15(木)
9:00		
10:00		
11:00	アーティスト等 岐阜着	白山小
12:00		↓
13:00	下見・打合せ	
14:00	↓	聖マリア
15:00	合渡小	
16:00		振り返り
17:00	インリーチ	↓
18:00	↓	アーティスト等 岐阜発
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
11/3(水)	11/4(木)	11/5(金)	11/6(土)
	8時 合渡小入り		アーティスト等 入り
	4年1組 アウトリーチ		受付開始
	4年2組 アウトリーチ		ワークショップ
	振り返り・ インタビュー		昼食休憩
		白山小入り	ワークショップ
アーティスト等 岐阜着		5年1組 アウトリーチ	発表会
打合せ・準備	聖マリア アウトリーチ	↓	全体振り返り
↓	↓	振り返り・イン タビュー	↓
↓	振り返り		アーティスト等 岐阜発

## アウトリーチ

市内小学校2校(3クラス)と中高一貫校のダンス部に実施しました。当初は、他施設視察時のアウトリーチ先を参考とし、「ダンス」の裾野を広げる目的として、まず小学校へのアウトリーチ1回、そして中学校、高校、大学のダンス部のうち1~2回、市内の企業の職員向け(普段ダンスに縁遠い層に届ける趣旨で)に1回を候補としました。小学校は校長会にて1校公募することを決定しました。次に、中学校、高校のダンス部は今回実施した聖マリア女学院中学校・高等学校ダンス部が唯一のダンス部のため選定しました。大学のダンス部については日程調整が難航したため見送りました。市内の企業については、地元新聞社を選定しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため辞退されました。そのため、市内の企業実施分を小学校への実施とし、公募する学校数を2校に増やして実施しました。

## ①合渡小学校(4年1組、2組)

各組ともウォーミングアップを実施し、その後アーティストのパフォーマンスを入れた挨拶、準備運動を実施しました。アシスタントのピアノの北園優さんによる「ぐにゃぐにゃ」などの指示のもと、縦横無尽に創造力を働かせて体を動かすなど、自由な表現を楽しんでいる様子でした。先生方も「決まった形ではなく自由に踊れるからのびのびしていた。」「いつもおとなしい生徒も自分を表現でき、殻を破れたと思う。」など児童の普段との違いについての感想をいただきました。

## ②聖マリア女学院中学校・高等学校ダンス部

普段のダンス部のウォーミングアップから始まり、アーティストの前で部員による創作ダンス「フリージア」を披露しました。その後、パフォーマンスを入れながらアーティストの挨拶・準備体操を実施し、「舞台はお客さんのためにあり、満足してもらう必要があること」などダンスを舞台で披露する心構えをお話いただきました。ピアノの即興演奏に合わせて動くなど普段と違う創造力を働かせる身体表現のワークショップを実施しました。一通りのワークショップ実施後に最初に披露した「フリージア」を踊りました。ダンス部の顧問からは「普段は学年を気にしているが、今日はアーティストの計らいもあり年齢差を気にせず動けたことも良かったし、創作のコツを教えてもらえて良かった」などの感想をいただき、ワークショップの前後で普段練習している創作ダンスのパフォーマンスに大きな変化を読み取ることが出来ました。

## ③白山小学校 5年1組

準備体操、アーティストの自己紹介を通して、児童の緊張を解しつつ、和やかな雰囲気が始まりました。その後、アーティストの真似をして身体を動かしたり、ピアノのリズムや合図に合わせて寝転ぶ・起きるなどの表現活動を行う内容を実施しました。アシスタントのピアノの北園優さんによる「どうしても地面が嫌い」「世界初の三角」などの創造力を刺激する指示が出され、児童が楽しく指示に応じていました。先生からは「勉強が苦手、運動も苦手という子も積極的に参加できていたことが嬉しい」などの生徒が楽しんで参加している様子の感想をいただきました。そして、先生が全力でワークショップを楽しんで参加していたのが印象に残りました。



合渡小学校 4年1組



合渡小学校 4年2組



聖マリア女学院中学校・高等学校ダンス部



白山小学校 5年1組

## 公募ワークショップ

当初は、ダンス指導者向けのワークショップを実施することを計画していましたが、7月の下見時のアーティスト・コーディネーターとの打合せにおいて、普段来館されない層に来館してもらうためにはどの趣旨も込め、対象を小学4年～中学3年までとしました。参加しやすいように、チラシ作成では「楽しくダンス！ワークショップ」と題し、写真を多く使用し楽しい雰囲気を出すように工夫しました。小中学校へチラシ配布を実施しましたが、ワークショップ実施日が土曜日ということもあり、土曜授業や運動会などとも重なり、参加者数が伸び悩みました。岐阜県洋舞家協会へ依頼し、ダンス教室へチラシ配布してもらった結果、数名の参加がありましたが、最終的には定員を満たさない11名の応募となりました。当日は、応募11名のところ、10名の参加となりました。

ワークショップは、午前中はピアノ演奏に合わせて様々なワークを行い、午後から保護者の見学が可能な発表会を実施しました。決められた振り付けではなく音やテーマに合わせて自由に踊るということで、酔っぱらいのような歩き方や体がゆっくり溶けていくイメージで倒れるなど、アーティストの用意したワークに対して楽しそうにのびのびと参加している姿が見て取れました。参加者全員と順番にペアを組んで行うワークなどもみんな積極的に動くことができおり、発表会の構成を決める作成会議では、子どもたちからも次々に意見が出ていました。発表会についてはアーティストに衣装とともに大きな布を用意いただき、振り付けに組み込むことで自然に参加者同士の距離も確保できたため、新型コロナウイルス感染症対策としても大きな効果がありました。ワークショップ終了後には参加者から「次も参加したい」「今後も継続して欲しい」といった声も聞くことができたため、今後のダンス事業の継続にも期待の持てる結果となりました。





## プログラム詳細

## 11月4日(木) 聖マリア女学院中学校・高等学校、ダンス部

## ●ダンス部員によるダンス披露(ワーク実施前)

部活動で練習しているダンスの披露。「フリージア」(部員によるオリジナル振り付け)

## ●自己紹介・パフォーマンス

パフォーマンスを入れながら講師の挨拶・準備体操。その後、今回のアウトリーチの目的について講師のお話。「ダンスってなんだ」を考えてもらいたい。ダンスは動きを揃えることが目的ではない。「どうして踊っているのか」「なぜ人前で踊るのか」など生徒に問いかけ、「舞台はお客さんのためにあり、満足してもらう必要があること」「自分が楽しい踊りとお客さんのための踊りは違うこと」など、舞台上でダンスを披露するための心構えのお話。

## ●ピアノの即興演奏に合わせて動く

講師の合図に合わせて倒れて起き上がる動きから始まり、ピアノの伴奏に合わせてゆっくりと石像が解けるようなイメージの動き、脱力した状態から腕を回し、勢いをつけて手を挙げる動きなどに取り組む。踊る際にカウントをとるのではなく、音を聞いて踊れることを目指す。体育館全体を使用して、最初はピアノの即興演奏に合わせて歩くだけの動きから始まり、次第に上半身の動きや好きな曲の振り付けが加わった。その後、ペアを組んで相手の動きに合わせて自分の身体で形を作るなどの動きも加わると、音を聞いて動いている人の動きがはっきりとわかるようになり、ペアの組み合わせを自由に変える中で他の人も自分の動きを見直す姿が見られた。

## ●ダンス部員によるダンス披露(ワーク実施後)

朝起きてからの動作を一連のダンスにしていく。寝ている動作からカーテンを開ける、扉を開ける、風を受ける、静かに動く、スリッパで滑ってみる、ガラスにぶつかって倒れる、手を洗う、歯を磨くといった動作を繋げていった。これがダンスになるのか、といった反応をする参加者が多かったが、曲がかかっただけからは音に合わせて弾んでいる姿が見取れた。

## ●振り返り

ダンス部ということで普段は動きを揃えることを重視しなければいけない中で、今日はダンスの楽しさを感じてもらえたことができた。部員の中にも個性の強い自分の踊りができる子と、しっかり動きを合わせるのが得意な子がいるので、時間があればグループを分けて取り組めると良かった。市内で唯一のダンス部ということもあるので、今後財団とも連携してイベント等取り組めると良いとの講師のお話。



●この事業への応募動機

当財団では、これまで実施してこなかった「ダンス」というジャンルの自主事業として、平成 29 年度より「初心者のためのダンスワークショップ」を開始しました。この事業は、今までダンス経験がない小中高生向けの事業で、ダンスに興味を持ってもらえるように、ダンス分野の裾野を広げることができればという思いで始めた事業です。次に、ダンスの分野の裾野を広げるためには、地域のダンス指導者のレベルアップも同時に図る必要があると考え、その目的を実現するために、公共ホール現代ダンス活性化事業の A プログラムを活用し、ダンスの指導者を主な対象としたワークショップの開催と、地元の学生向けアウトリーチの実施を計画して、一昨年度に応募しました。応募が採択され、昨年度実施となりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から昨年度実施を中止し、同様の内容で今年度実施するため、再度応募して、今年度実施する運びとなりました。

●事業のねらいと企画のポイント

アーティスト、コーディネーターとの打合せを重ねていく中で、当初の目的のダンス分野の裾野を広げ、ダンス指導者のレベルアップというよりは、「文化センターの認知度を上げる」、「普段文化センターへ来館しない層への働きかけ」を課題と捉え、そういった課題解決も事業実施の意義と位置づけました。事業企画への反映を検討し、「普段、岐阜市文化センターに来館しない、そして岐阜市文化センターの認知度も低い」と思われる小中学生に向けて実施できないかと検討し、公募ワークショップの対象を小学 4 年～中学 3 年としました。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチの小学校については、アーティストとの打合せにおいて、アウトリーチの参加人数は 1 クラス単位（30 名前後）が適切ということで、募集を 1 クラス単位で依頼しました。応募があった学校から問い合わせがあり、1 クラスを選定するのが困難なので、1 学年単位で依頼できないかと相談されました。アーティスト、コーディネーターにも相談して、アウトリーチ回数の上限までは対応可能ということで、複数クラスの参加も可能として実施することとしました。学校、アーティスト、コーディネーターとのそういった調整に苦労しました。また公募ワークショップは、対象が小学 4 年～中学 3 年まで定員 20 名で応募しましたが、なかなか定員に達することが出来ず、苦戦しました。市内小中学校にチラシを配布し、岐阜県洋舞家協会協力の元、ダンス教室にもチラシを配布しましたが、最終応募は 11 名でした。土曜日の開催となり、その日が運動会又は土曜授業ということで参加できない学校もあったので、今後は実施日を慎重に選ぶべきと思いました。

●事業の成果と課題

ダンスのアウトリーチはこれまで実施したことがなく、市内小学校や市内唯一の中学・高校のダンス部へ行くことができたのは良かったです。また、普段岐阜市文化センターへ足を運ばない年齢層の小中学生を対象に実施したワークショップは、定員に達することはできませんでしたが、「次も継続してほしい」との参加者の意見もあり、一定の成果を上げることが出来ました。今回実施したコンテンポラリーダンスを通じた表現活動のワークショップでは、ダンスの優劣や技術の習得ではなく、個性豊かな創造力に力点が置かれ、普段の学校生活では評価されにくい児童も褒められるプログラム内容であり、自己肯定感が高まる事も期待できると感じました。文化施設に求められる役割として、これまで財団で実施できてこなかった文化芸術を通じた地域の課題解決に、今後繋げていければと思います。

●今後の事業展開や展望

アウトリーチ先の小学校の先生やワークショップ参加の生徒・児童からもまた参加したいと要望もあり、何らかの形で次へ繋げられるように検討していきたいです。また、今回実施したアウトリーチ先の聖マリア女学院中学校・高等学校ダンス部は市内唯一の中学・高校のダンス部のため、今後も文化施設と繋がりを持てるように関係を構築していきたいです。今回、A プログラムを実施したので、B、C プログラムへのステップアップも視野に入れていくべきではありますが、A プログラムで実施したアウトリーチ、ワークショップの回数を積み上げていくなど地道にできることから展開していくことも重要と考えています。

**●この地域のダン活の特徴**

岐阜県の県庁所在地、岐阜市。駅を降りれば高層ビルと活気にあふれた商店街、その中心地に位置するのが岐阜市文化センターだ。少し車を走らせれば、織田信長が天下統一を夢見た岐阜城や鶯飼で有名な長良川といった名所もある。岐阜市でのダン活は本来、令和2年度に長井江里奈さんによるAプログラムを開催の予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、今年度（令和3年度）へ延期開催となった。研修会からカウントすると足掛け3年となった。今年度のダン活も、下見後の9月には新型コロナウイルスの感染者数も膨れ上がり、一時は開催も危ぶまれたが、担当者の強い思いと徹底した感染症対策をもって開催することとなった。本番期間は急速な感染者の減少により、市内の感染者はほぼゼロの中、無事開催することができた。

プログラムは文化センターの利用者・来場者に高齢者が多いことを背景に、若い人にも館に足を運んでもらいたいという方針のもと、小学生や中学生、高校生と接点を育むアウトリーチと公募のワークショップが企画された。アウトリーチは小学校と、中高一貫校のダンス部で開催。小学校アウトリーチは中心市街から少し離れた小学校と、中心市街にある小学校で行われた。同じ小規模校ながら、対照的な立地にある小学校での開催は非常に対照的なものとなった。中心市街地の学校は下見の段階から、子供たちの自己肯定感・学校生活・私生活のあり方など、都市部ならではの課題があることも担任の先生から伺っていた。本番は、誰も取りこぼすことなくみんなが参加することができるダンスプログラムとなり、自己肯定感の高まりや多様な課題への一助となる可能性も垣間見られる内容となった。中高一貫校のダンス部は、岐阜市内中学校・高校で唯一のダンス部。普段は創作ダンスの活動に取り組む中高生21名がはじめてのコンテンポラリーダンスに挑んだ。ダンスのワークショップのなか、自分の身体とダンス、曲との向き合い方などの長井さんの捉え方についてのメッセージが投げかけられた。プログラムではワークショップを挟んで、最初と最後に生徒たちの同じ創作ダンスを披露する機会が設けられたが、最後のダンスは個々の自由な身体性が垣間見られ、伸びやかさを感じるものとなっていた。公募WSは小学生から中学生までの10名がコンテンポラリーダンスを午前と午後に渡って体験し、最後は保護者を招いたミニ発表を行うことができた。

**●課題とこれからに向けて**

全国各地の公立文化施設、特に歴史のある施設の多くは、長い年月、市民の文化活動の拠点である一方、市民文化団体の高齢化や人口減少に伴う文化活動の縮小、利用者の固定化などの多くの課題に直面している。今回のダン活もそうした背景を踏まえての開催となったが、コロナ禍でいっそう文化活動が停滞するなかで、どのように若い世代と接点を持つのか、あるいは岐阜市の文化拠点としてこれからどのように地域課題と向き合っていくのか、その手がかりを多く見つけることができたダン活だったのではないだろうか。市内唯一の中高ダンス部との出会いは、文化センターの新しいパートナーづくりとしての可能性を、アウトリーチではダンスを通じた子どもたちの自己肯定感の獲得や地域課題の解決への一助となる可能性を、強く感じる事ができた。担当者アーティストが築いた確かなパートナーシップは大切な財産。これからもアーティストとともに若い世代や地域と向き合う事業について意見を交わし、そして小さくとも確かな一歩を取組んでほしい。これからの岐阜市が楽しみになるダン活でした。

実施団体	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団		
実施ホール	北九州芸術劇場		
実施期間	令和3年11月17日(水)～11月20日(土)		
アーティスト等	アーティスト：藤田善宏		アシスタント：酒井大輝
コーディネーター	小岩秀太郎		
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 11月18日(木) 10:50～12:40 北九州市立東郷中学校 1年生 25名(うち1名見学) 体育館</p> <p>② 11月18日(木) 13:30～15:20 北九州市立東郷中学校 2年生 23名 体育館</p> <p>③ 11月19日(金) 13:30～15:20 北九州市立東郷中学校 3年生 28名 体育館</p> <p>■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 11月20日(土) 13:00～15:00 40歳以下の表現者 500円 7名 北九州芸術劇場(小劇場)</p>			

スケジュール

	下見	
	7/7(水)	7/8(木)
9:00	移動	
10:00	↓	移動
11:00	↓	東郷中学校 下見・打合せ
12:00		↓
13:00	事前打合せ	↓
14:00	↓	
15:00	↓	打合せ・ 小劇場下見
16:00		↓
17:00		↓
18:00		移動
19:00		↓
20:00		↓
21:00		
22:00		

実施期間			
11/17(水)	11/18(木)	11/19(金)	11/20(土)
移動	移動		
↓			
↓	東郷中学校アウト リーチ(1年生対象)		WS 事前確認
	↓	移動	
	東郷中学校アウト リーチ(2年生対象)	東郷中学校アウト リーチ(3年生対象)	WS
事前打合せ	↓	↓	↓
↓	移動		
↓	フィードバック	先生方とフィー ドバック	フィードバック
↓	↓	移動	↓
		フィードバック WS 事前打合せ	移動
			↓
			↓



## アウトリーチ

北九州芸術劇場では、これまで様々な学校アウトリーチを行ってきたが、中学生を対象としたダンスのアウトリーチは実施したことが無かった。枠にとらわれず自身を表現することで自己肯定感を高め、身体を通して他者とコミュニケーションをとることの重要性を若い世代に伝えることを目的とし、北九州市立東郷中学校の1～3年生の全学年それぞれに授業2コマの時間（100分）を使って実施した。

学校下見の際に先生方から、生徒たちが普段外部の人と出会ったり、新しい何かを見つけたりといった機会が非常に少ない環境のなか、さらに新型コロナウイルスによって一層他者とのコミュニケーションが減っているといった問題を抱えていることを伺い、藤田さんにはコミュニケーションを重視したワーク内容をお願いした。その結果今回のアウトリーチでは、「踊る」ということに意識をせず生徒同士や教師と生徒で互いに信頼し合いながら何かを行うこと・共有し合うことの重要性、楽しさを見出してもらうことができた。

当初は、中学生という多感な時期にある対象にダンスを届けるということについて、受け入れてもらえるかどうか不安要素が多かったのだが、そういった年代だからこそより強く＜自身と他人の関わり＞を感じてもらうことができ、コンテンポラリーダンスを通して身体表現の楽しさを体験していただくことができた。

実施の際の難点は、普段、当劇場で行う2日間のアウトリーチプログラムと比較して、100分（1日のみの単発プログラム）は忙しい中学校のスケジュールと調整がしやすい反面、ほぐしの時間（恥ずかしさや緊張を和らげる為のウォーミングアップ）に時間がかかる為、少し踏み込んだ内容のワークを行う場合は100分では難しかった点と、新型コロナウイルスの影響によって、教育委員会の定める「授業実施上の留意点」のなかで行わなければならない点だ。ワーク内容も「接触は避け、2メートル以内で向かい合っただけのワークは15分程度に収める」などの制限があり、今回は学校とも相談の上、参加者全員がビニール手袋を着用し実施した。



東郷中学校



東郷中学校



東郷中学校



東郷中学校

## 公募ワークショップ

### 【藤田善宏ダンスワークショップ「ヒトとオドル、モノとオドル、ココロオドル」】

普段コンテンポラリーダンスに触れる機会が少ない若年層にも体験していただき、新たな価値観や自身の可能性を発見してもらうこと、演劇・ダンス・音楽・ものづくりなど様々な表現活動を行っている表現者たちが集い、普段の活動ではなかなか出会うことのないジャンルの人とコミュニケーションをとることで新たな繋がりが生まれることを期待して実施した。対象は「40歳以下の表現者」に絞り、チラシやポスター、劇場HP、SNS等で募集を行った。集まったのは18歳～39歳の様々な表現のジャンルで活動している人々で、フラダンスや競技ダンスを長年している人や、書道教室の講師をしている人、コスプレイヤー（コスプレ）の衣装を制作している人など多様な経歴を持った表現者の参加となった。ダンスを全く踊ったことがない初心者も数名いたが、ダンス経験の有無に関係なく、それぞれが持ち合わせた個性や発想力を生かしながら、ペアワークやグループワークを通じ他者と協力しながら作り上げるプログラム内容となった。

ワークショップ終了後、参加者同士で自身の活動について詳しく語り合ったり、今後の為に連絡先を交換したりといった積極的なコミュニケーションがみられた。ジャンルに縛られず、一つの場を通じて色々な表現者が出会い、活躍する場を今後も増やしていきたい。



## プログラム詳細

## 11月20日(土)「ヒトとオドル、モノとオドル、ココロオドル」

## ●言葉を使わずに自己紹介→指を指し鬼ごっこ

受付や着替えを終えると、参加者は元々付けていたマスクの上から更に顔の上半分を覆うようにマスクをつけ、お互いに素顔が見えない状態で会場に入った。初めに1人ずつ前に出て、他の参加者に向けて言葉を使わず自身の名前と普段活動しているジャンルをジェスチャーで表し、見ている人はそれを当てるクイズを行った。お互いの素性を当て合った後は、他の人に呼ばれたい名前を決め、名前を覚えるために鬼ごっこを行った。代表者が1名鬼となり、狙った対象に指を指しながら近づく。逃げている対象者はタッチされるまでに他の人の名前を呼ぶことで対象をその人に移す、といったタイミングやとっさの判断が必要なウォーミングアップとなった。

## ●イス取りゲーム

東郷中学校のアウトリーチでも同様に行ったゲーム。代表者(鬼)を1名決め、他の参加者は全員イスに座った状態でスタート。イスからイスへ移動することで、1つだけ空いたイスに座ろうとする代表者(鬼)からイスを守るゲーム。考えながら、互いに呼びかけ合ったり協力し合ったり、コミュニケーションが重要となるゲームとなった。

## ●ティッシュの受け渡し

ペアになり、1人がティッシュを1枚持ち、無重力空間にいるようにゆっくりと一定に動かす。もう一人が相手の身体(腕や脚)を触って操りながら動きの向きを変え、その動きに合わせてティッシュを受け取る。ペアを次々交代していき、最終的には全員で受け渡しを行った。会場の一部にだけ照明を当て、1つの空間を作ることでより幻想的なものになった。

## ●イスを奪い合うペアワーク&amp;発表

ペアで1つのイスを使い、交互に座っている人を押しのけたりして奪い合うというワーク(力づくではなく演技で大げさに転がったり)を行った。それらを応用して、ペアで1つテーマを決め、自身の経歴や特技を反映させながらストーリー性のあるイスの奪い合いを通じた表現を行い、参加者同士で成果発表を行った。





●この事業への応募動機

北九州芸術劇場では、以前からダンスの公演、ワークショップ、アウトリーチ事業を実施してきているが、若い世代、特に学生など、まだ十分にアプローチできていない層があるため、この事業の力を借りていつもとは違った対象や方法で行うことで、これまでに劇場が出会ったことのない方々と繋がることへの新たな挑戦と、北九州市で活動する表現者の育成を図りたいという思いで応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

「若者」ということを1つのテーマに、他者との繋がりを持つ楽しさや喜びを感じてもらうこと、そして新規の劇場ユーザーの開拓を狙いとして企画を考えた。特に学生へのアプローチを考えたとき、小～大学生という対象の中で、思春期ならではの悩みや、迷いを持つ多感な時期にある中学生という年代が良いのではないかと考え中学生対象を第一希望とした。公募ワークショップでは、普段の生活や活動ではなかなか出会うことのない地元のアーティスト同士を結びつけることで、影響しあい、新たな化学変化が起きることを狙って今回の企画が生まれた。

●企画実施にあたり苦労した点

昨年度の実施延期の判断から今年度実施までの中で1番苦労したことは、アウトリーチの受け入れ先がなかなか見つからなかったことだ。企画案の中には大学生・専門学校生や就活生などいくつか候補先を挙げていたが、新型コロナウイルスの影響で施設の休館や大学が休校になる等、候補先へのアプローチ自体が難しかった。アウトリーチ先の対象を中学校に絞った後も、普段から当劇場が学芸事業でご協力頂いている北九州市教育委員会に相談したが、緊急事態宣言ということもあり各学校の状況やスケジュールの見通しがなかなか立たなかった。結果的には、中学校教員の親族がいる当劇場のスタッフの協力で、今回の東郷中学校とのご縁に結びついた。

ワークショップは、表現者がなかなか集まらなかったことが挙げられる。チラシ・ポスター・ラジオ・SNS 広告…と様々な方法で広報を行ったが、実施が芸術活動の盛んな11月中旬であることや土曜日ということもあるのか、それぞれの表現活動が忙しく、興味を持ってもらえてもなかなか参加までに繋がらなかった。

●事業の成果と課題

中学校アウトリーチでは、実施前は生徒たちの中で「踊る」ということに非常に抵抗があった様子だった。しかし、枠にはまった動きをしなくても良い・自由な発想で良いというコンテンポラリーダンスの特性を生かした内容で他者とのコミュニケーションや、自身と向き合うことができることの重要性を実感してもらえた。ワーク中でも次第に声を掛け合ったり、話し合ったりといった積極的なコミュニケーションが見られるようになっていった。

ワークショップは、今回の参加者（表現者）の方々にとって普段の活動範囲から1歩飛び出して、異ジャンルに触れてみるきっかけとなった。実施後のアンケートでは「日頃は個人で創作することが多いのでとても刺激的な1日になった」との感想を頂いた。今後の課題は先にも述べたように、ワークショップの集客面が挙げられる。対象が集まりやすい時期（日程）を企画の段階で検討していく必要があると感じた。

●今後の事業展開や展望

今回のアウトリーチとワークショップで得られた経験や情報、繋がりを劇場内部でも共有しながら、今後の企画に活かしていけたらと思う。「様々なジャンルの若い表現者向け」のように、若者に興味を持ってもらい、足を運んで貰えるよう、他では体験できないワークショップ等を今後も継続的に企画・実施していきたい。また地元アーティストを時に支援し、時には力を借りながら北九州市の芸術文化を共に盛り上げていきたい。

●この地域のダン活の特徴

北九州芸術劇場は、様々な企画、貸し館業務もあり、また立地も市中心部にあることで、北九州のみならず、九州全体の芸術文化発信地として知られるところである。アーティスト藤田善宏氏によるAプロであったが、昨年度はコロナ禍によって実施できず、コーディネーター、地域創造担当者が入れ替わった上で改めて再始動した今年度であった。昨年度から引き続きのホール担当者は入館2年目、コロナで現場や企画づくりを経験する機会がなかったという。そのような中で、自分なりに「若者に芸術が届いていない」「ホールに若者が足を運んでくれない」という北九州市の芸術文化界の課題にたどり着き、それを起点として、アウトリーチ（OR）先を検討した。結果、「中学校」をOR先に定めて募集をかけ、コロナ禍でなかなか受け入れ学校の手が挙がらない、ペンディング状態でもがきながら、ようやく市内から離れた中学校の全学年へのORが決定した。学校事情をリサーチすると、学区内の3つの小学校から生徒が集まっているが、その3つの小学校児童の多くが当中学ではなく、市街地に近い学校や私学を目指し、当中学に通う生徒は校長曰く「向上心や興味が薄い生徒が集まっている」とのこと。地元にも外にも興味が薄く、コロナ禍による例年の学校行事が実施できず、生徒間の交流や信頼関係の構築ができていないことで、バラバラな感じがあると先生方は言う。館側の「若者に芸術への興味をもってもらい」ことに加え、この学校が現在抱える課題、さらに多感な中学生を相手に、アーティスト藤田氏がどう打開していくのかが期待された。

藤田氏は、「引っ込み思案」「静か」など、事前リサーチしていた生徒事情を鑑み、各学年カスタマイズしながら、ダンスを“やらせる”のではなく、椅子とりゲームのようなアイスブレイクに時間をかけ、いつの間にか体を動かし、互いの距離感が縮まり相手に向き合う、力を借りるようなゲームをしているうちに踊らされているという見事な進め方だった。最後に、地域の特徴を表すキーワードを生徒からあげてもらい、振り付け、学年ごとのダンスを創作して皆で踊った。

先生方によるフィードバックでは、普段トラブルメイカーの生徒が、授業に参加はしなかったがかなり興味を示していたこと（覗き見したり他学年ORの際ちょっかいをかけにきた）、普段積極的ではない生徒も踊っていたこと、コロナなどで距離感があった生徒たちが力を合わせてダンスに取り組む姿が見られて感動したことなどが挙げられた。そして何より、ダンス授業に懐疑的だった体育科の男性教諭が最終的に最大の協力者となり、自ら体を動かし、生徒の変化に驚き感激していた姿を目の当たりにすることができた。ダンスが持つ可能性を改めて感じさせられた一場面であった。

公募WSでは、市内在住「表現者」をターゲットとした。多方面多分野でのWS実施が豊富な当館だが、表現者向けは初めてのこと。ダンスを通じた異ジャンルとの出会いとコミュニケーションを通して、表現活動の幅を広げてもらえることを目的とした企画であった。参加者はダンス経験者や書道家、コスプレイヤーなど、芸術に力を入れている北九州らしい多彩な顔ぶれであった。この新しい出会いをWS一回で終わらせない、今後も続いていくよう連絡先交換を促すなど、工夫がなされていた。

●課題とこれからに向けて

本ダン活の振り返りで見えてきた、芸術経験値が高いホールならではの課題がある。都市型の当館には多くの企画実績と成功体験があり、それを元に作り上げられた円滑な実施のためのマニュアルが、少し人間関係を機械的、一方通行的にさせているのではないかという点だ。予算や時間の管理徹底は、文化事業の企画完遂においても雇用面においても遵守すべき点である。しかしながら、事業を実施していく上で、担当者自身がアーティストとの出会いを楽しみ、きちんとコミュニケーションを取ることが大切であり、そこで得られる喜びや気付きなどが担当者やホールの大きな財産になるのではないだろうか。

担当者には、ORでの男性教諭の心変わりを目の当たりにしたことや、WS参加者である「表現者」をつなげるきっかけ作りができたという経験、そしてコロナ禍というマニュアルのない対応を求められた中での実施経験を活かし、担当者とアーティスト間のコミュニケーションの大切さを実感するとともに、ダンスにさらなる希望と、熱のある楽しい企画を今後も期待している。

## フェニーチェ堺 実施データ

Aプログラム

実施団体	公益財団法人堺市文化振興財団		
実施ホール	フェニーチェ堺		
実施期間	令和4年1月20日(木)～1月23日(日)		
アーティスト等	アーティスト：マニシア	アシスタント(パーカッショニスト)：DAI	
コーディネーター	神前沙織		
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 1月20日(木)18:45～20:15 SAKAIsons 同チームメイト及び見学者 19名 堺市立健康福祉プラザ体育室</p> <p>② 1月21日(金)11:00～12:00 さかいっこひろば 1歳児とその保護者 4組8名 同ひろば</p> <p>③ 1月21日(金)14:00～15:00 さかいっこひろば 0～4歳児とその保護者 7組15名 同ひろば</p> <p>■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 1月23日(日)10:00～12:30 広く一般 20名 フェニーチェ堺大スタジオ</p>			

## スケジュール

	下見	
	9/10(金)	9/11(土)
9:00		
10:00		
11:00	集合	さかいっこひろば打合せ
12:00	全体打合せ	
13:00	ベルデさかい打合せ	アーティストインタビュー
14:00	移動	
15:00		英彰子ども食堂 ここなら下見
16:00	さかいっこひろば下見	まとめ・全体打合せ
17:00		
18:00	SAKAIsons 打合せ	解散
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
1/20(木)	1/21(金)	1/22(土)	1/23(日)
			公募WS
	さかいっこひろば OR ①		
		市内視察	
			全体振り返り
集合	さかいっこひろば OR ②	公募WS 最終打合せ	大阪市内視察
最終打合せ	ひろば振り返り		
SAKAIsons OR			解散
↓			
インタビュー撮影			
解散			

## アウトリーチ

堺市が掲げる文化施策の一つとして、地域に入りその課題解決のため芸術の力を活用する、社会包摂型アウトリーチへの注力が当財団には課されている。通常は学校園での音楽、造形アウトリーチなどを実施しているものの、初めてのコンテンポラリーダンスという分野を届ける先はどうすべきかと担当者間でも相談し、マニシアさんの活動や信条としているところから、障害者および親子と選定した。

### ①車いすバスケットボールチーム SAKAISuns (サカイサンズ)

最初に話を持ち掛けたのは市内の障害者福祉施設で、担当者とは毎年、施設内でのコンサートを行っていた関係もあり、当人が運営する車いすバスケットボールチームでの実施が決定した。

当日まで参加者数が読めない状況が続いたが、メンバー 15 名と財団関係者 4 名でのワークが実現した。

チームからの希望で、マニシアさんも含めた全員が競技用車いすに乗ったままのワークである。

最初に腕の曲げ伸ばしなど各々ができる範囲の動きを確認し合った後、グループに分かれてチーム名から振りを作る。全員が真剣に考え、バスケ経験や障害の有無、互いの持つ特性に合わせるよう、各自ができる動きを丁寧に確認し合いながら動きを広げる。ボールを取り出し、バスケの動きを取り入れるグループもあった。

元々、障害者、健常者が入り混じるチームで、それぞれができる範囲で参加することに抵抗も強制力もない。ダンスとの親和性も高かった。

### ②さかいつこひろば

ホールからほど近い子育てひろば。午前午後の2回で設定したが、事前申込が始まるとすぐに枠が埋まった。

1 回目は1 歳児とママ4 組。2 回目はキャンセルが多く、急遽その場にいた 0 ～ 4 歳の親子に参加していただいた。

普段と違う様子に不機嫌になる子どもも多く、そんな子どもを気にしてなんとか参加させようとしていた母も、ウォームアップ、普段の動きを踊りにするワークと進む内に、自分が踊っている様子を子どもが見つめていることに気付き、場に参加することで子どもの参加を促すような場面も見られた。



SAKAISuns



SAKAISuns



さかいつこひろば



さかいつこひろば



## 公募ワークショップ

指定管理を行うフェニーチェ堺事業としては2020年、2021年と2年に渡り8回のコンテンポラリーダンスワークショップを実施している。担当である財団本部事業課では初の試みであった。

広報については一貫して「ダンス」という部分を前面に出さずにチラシ、ホームページを作成した。同施設でコンテンポラリーの実績がある分、差別化を図りたかったことと、ダンスという括りを作るとどうしても敷居が高くなって敬遠してしまうことが予想され、そういった層にこそ、体験してほしい機会と考えたためである。これに伴い、全体を通して、集う参加者の全員が何にも阻害されない自由に表現できる時間と場所の提供をすること、表現すること、伝え合うことの大切さを考える機会とすることをコンセプトとした。

参加者の募集は、大変苦戦したものの、別事業である学校アウトリーチ先や堺市を通じて高齢者のチアダンスワークショップへの参加者への広報を行ったこともあり、申し込みは定員20名に上り、締め切った。

当日は感染状況の拡大の影響もあり、参加者は16名となったが、3歳から68歳までの多世代が集った。

ダンス経験者、「子どもが踊ることがすきだから」と参加してくれた親子連れなど、初心者経験者も入り混じり、穏やかな雰囲気の中進行した。

開始時から参加者はあまり緊張している様子がなく、アーティストの指示ですぐに動きが広がっていった。年代も性別もばらばら、それぞれに違う体が、互いのできる範囲で同じ動きをして、それが広がっていくことを存分に楽しんでいただいていた様子であった。

ジャンベ（西アフリカの打楽器）の生演奏も、参加者のボルテージを上げていくことに非常に効果的で、本人たちが一番らしく踊れるように手助けしてくれた。





## プログラム詳細

## 1月23日(日) 公募ワークショップ 対象: 広く市民

## ●導入・自己紹介、体ほぐし

円になり、配った紐を使って名前に動きをつけ、自己紹介をしていく。

そのまま体ほぐしをして、紐の端を掴んで歩き回る。

ジグザグに歩くと紐が絡まるので、足や脇の下を通していくと、会場のそこかしこで笑い声が上がる。

## ●ストップ・アンド・ゴー、列になってついていく

スタジオを自由に歩く、出されたお題の形に音楽と合わせて止まる。お題は「怒り狂うイチゴケーキ」「酔いどれカモメ」「しかめっ面の床タイル」…お題を重ねていく毎に徐々にお題の形を意識しながら歩くようになって、ステップから変化が見えてくる。

5人程度のグループになり、先頭の動きを真似しながら列になって進んでいく。良いところで先頭が追い越され、最後の人まで続けて交代していく。

## ●イニシャルで振りをつくる

2人組になって、お互いのイニシャルの動きを作る。

腕や足で文字の形をなぞるだけでなく、どんどん動きを広げ、回る、寝ころぶ、フロアを全力疾走で横切ったりするペアもあった。

## ●ショーイング・鑑賞

グループを2つに分け、ショーイングと観客になる。

スポットライトの周りを踊りながら歩き、音楽が止まるごとに各ペアが中心に来て踊るワーク。

講師から提示された順番で、音の間はグループ全員で歩き、止まるタイミングで発表組がスポットに入り、音を待つ。即興の音に合わせて踊り切り、また全員が動き出す。中央で踊っている間は、グループの他の組は動かずに「人の森」のなかで踊る。

それぞれの動きに合わせて、ジャンベのリズムが少しずつ異なる。生演奏ならではの即興がさらに参加者のテンションを上げていた。

## ●クールダウン・振り返り

全員が踊り終わって互いを讃え合った後、フリーで音が続く中、それぞれ思い思いに踊り続けた。

振り返りでは「疲れました」と笑う人や、「楽しかった」と破顔する子どももいて、皆笑顔で解散した。



●この事業への応募動機

財団本部事業課として、音楽や美術分野でのアウトリーチ等の実績はあるものの、ダンス分野は未開拓であったこと、市の基本方針として広く地域に入っていくアウトリーチを推奨する動きが大きくなったことから、体一つで飛び込んでいくことのできるダンスに可能性を感じ、新たな試みとして手を挙げた。

指定管理施設であるフェニーチェ堺では、コンテンポラリーダンスワークショップを開催しており、開館2年目を迎えリピーターや経験者の参加も散見されたことから、フェニーチェ堺でのダンスというものが定着しつつある一方で、初めて踊りに触れる層をもっと増やしたいという狙いもあった。

●事業のねらいと企画のポイント

参加者に、障害の有無や年齢、ダンス経験に関係なく、集まった全員が「体で遊ぶこと」や「イメージの世界を広げる」といったコンテンポラリーダンスの持つ即興や表現の力を感じてもらうこと、保護者と子ども、障害者とスタッフ、チームメイト同士など、普段の生活で決まった関係性で結ばれている人々がダンスを通して、普段の関係性とは違った形でその喜びや表現の違いにふれ、お互いや他者に向けたコミュニケーションについて考える機会とすることを目的とした。

そのため障害者と健常者の入り混じる車いすバスケットボールチーム、子育てひろば、重症心身障害者施設でのアウトリーチ、多世代を対象としたワークショップの実施を決めた。

●企画実施にあたり苦労した点

各アウトリーチ先及び参加者募集における広報である。どうしても「ダンス」とすると苦手意識や恥ずかしさから敬遠されてしまう。企画立案時から一貫して、参加者にダンスをしてもらいたいのではなく、ダンスを通して自分や他者に会ってもらって体験してほしいという点を強く意識し、チラシにもダンスという言葉を使わずに広報をしたため、結局は何をするのか分かりづらいものになってしまった。

幸い、アウトリーチ先は元々関係性のあった場所が多いこともあり、経験になるのであればと受け入れていただき、公募ワークショップも地道な営業が実を結んで実施できたが、目的の言語化と分かりやすい資料を提供することは今後も意識しなければならない。

●事業の成果と課題

アウトリーチについては、振り返りの際に「次回はこうできる」と提案をいただいたり、参加者から「次もきつとやってほしい」とのコメントもあり、次年度のCプログラムを含め、今後の自主事業としてもダンス分野での企画を広げられる裾野が広がったと感じている。

同時に、今回参加してくれた方々からさらに横に広がりを持たせ、ふだん劇場に足を運ばない人々や障害者や高齢者など普段の事業のターゲットとは違う層にも働きかけをするきっかけにしていきたい。

ダンスワークショップの全容が分からないことによる打合せ不足や、準備不足があり、課題としてしっかりと受け止めて調整の際には役立てたい。

●今後の事業展開や展望

今回、新型コロナウイルス感染予防のために中止とした施設とも、次年度以降の実施に向け、尽力したい。一方で、次回も是非やりたいと声をかけていただいている施設には、参加者の様子などを丁寧に聞き取り、場所に合った課題解決の方法としてダンスを届けるような発展ができればと考えている。

アウトリーチを数日かけて複数回行うこと、地方からアーティストを招聘すること、ダンス分野、すべてが初めての試みであったが、身体を通したコミュニケーションがなによりも雄弁であることを目の当たりにし、感動的な場面を沢山経験させていただいた。アーティストの思いや活動、実施団体とのマッチングなど、自主事業でもしっかりと活かしていきたい。

### ●この地域のダン活の特徴

堺市は、大阪市の次に人口の集中する政令指定都市で、中世から文化商業都市として栄えてきた街。仁徳天皇陵をはじめとする世界遺産の古墳群でも知られている他、地域資源はたくさんある。この地域のトピックは、R2年に「堺アーツカウンシル」が発足し、文化芸術の振興を図る地域づくりが始まったばかりであることだ。

堺市文化振興財団は、堺市がR3年に策定した「第2期堺文化芸術推進計画」に沿った文化活動の振興及び地域文化の創造に資する事業を行い、市民文化生活的の向上と地域の発展に寄与することをめざしておられ、R1年秋にグランドオープンした「フェニーチェ堺（堺市民芸術文化ホール）」の指定管理も担っている。しかし今回ダン活に応募されたのは、フェニーチェ堺の運営部門とは別の、当財団の事業本部で、本年度Aプログラムでは事業本部の役割であるアートと地域社会の接点を生み出す社会包摂的な事業のモデルとなる事業を計画しておられた。

アウトリーチ先は、車いすバスケットチーム「SAKAIsuns」（障がいの有無に関わりなく誰もが楽しめるコミュニティスポーツを目指す団体）、重症心身障害者（児）支援センター「ベルデさかい」、子育て支援施設「さかいっこひろば」（0～12歳までの子どもと保護者のための支援施設）。他に、ダン活枠外で子ども食堂2か所にも赴く予定がコロナで中止。「ベルデさかい」も直前まで前向きに検討されていたものの、オミクロン株の急激な増加のため残念ながら中止となった。このように、初めてのダンスのアウトリーチ事業ではあっても、市内の横のつながりを駆使して、障がいの有無に関わらず多様な市民の方にダンスが届くよう、そして、どちらかというと普段から文化的なことに触れにくい、触れるのが困難な方々に届ける事を意識されていた。こうした財団事業部の姿勢やねらいを、市民の方々が「フェニーチェ堺」のホール事業とまた違うプロジェクトとして認識されやすくするため、何か活動名をつけようという話になり『まるくわをかく』という名前がついた。

アウトリーチは「SAKAIsuns」と「さかいっこひろば」の2カ所のみになったが、どちらも貴重な出会いとなった。特に「SAKAIsuns」は代表・大内さんのご自身の活動に対する考え方が、私たちの考えととても近く、ジャンルは違っても目指すところが同じで、お互いが新たな挑戦に刺激を得る機会となったと思う。「さかいっこひろば」では、参加した母子の笑顔が見られた。所長の池田さんは元教職の方で、子どもの成長の上で豊かな経験をさせる事が大事だという信念を持ち、「さかいっこひろば」を利用する若いお母さんたちを温かく見守り続ける気骨のある方だ。両者とも、今後もつながりは続いていくと思う。

### ●課題とこれからに向けて

Aプロ事業担当のお一人が任期満了で4月から別の職に就かれる事になり、他の事業本部職員さんも皆が有期雇用職員である事が課題のひとつだ。文化で地域社会とつながりを作っていく素晴らしい目標に対して、組織運営体制が伴っていないと感じる。アートを地域に届けるにはそのジャンルの文化やアートにある程度精通し、地域とアーティストの間に入って調整役を行うコーディネーターの経験が必要で、経験を積みばできるようになるけれども、担当者が3年程度で入れ替わる体制では、経験が組織側に積みあがらず、引継ぎがうまくできない。せっかくつながった地域の人とも数年ごとに「初めまして」を繰り返すわけにはいかないだろう。『まるくわをかく』プロジェクトが真に市民に頼りにされるプロジェクトに育つよう、改革を目指してほしい。

実施団体	公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団		
実施ホール	茅ヶ崎市民文化会館		
実施期間	令和4年2月4日(金)～2月5日(土)、3月23日(水)		
アーティスト等	アーティスト：藤田善宏		アシスタント：渡邊未有
コーディネーター	小岩秀太郎		
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>①3月23日(水)15:00～16:00                  社会福祉法人翔の会 茅ヶ崎タンブー東海岸(放課後等デイサービス)、通所者、11名、                  茅ヶ崎タンブー東海岸ダイルーム</p> <p>■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>①2月5日(土)14:00～16:30 小学4年生以上、500円、11名、大ホール舞台上</p>			

スケジュール

	下見	
	10/14(木)	10/15(金)
9:00		
10:00		
11:00		
12:00		打合せ
13:00	茅ヶ崎駅集合	ホール下見
14:00	小学校下見 (ORは中止)	市内見学
15:00		茅ヶ崎駅着
16:00	打合せ	
17:00	退館・ホテル	
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
2/4(金)	2/5(土)		3/23(水)
	打合せ・仕込み 調整・昼食		
	ウォームアップ		
	受付開始		茅ヶ崎駅集合
	公募WS		茅ヶ崎タンブー東海岸到着打合せ・準備
打合せ・ 舞台確認	↓		アウトリーチ
↓	↓		振り返り
↓	振り返り		茅ヶ崎駅着
退館・ホテル	退館		



## アウトリーチ

茅ヶ崎市でのアウトリーチは、当初小学校での実施に向け、回数追加の調整も経ながら綿密に準備を重ねていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い残念ながら開催直前で中止が決まり、そこから再度の検討・調整を図って3月に放課後等デイサービス「茅ヶ崎タンブー東海岸」での実施がかなった。同事業所を運営する社会福祉法人とはこれまで複数の運営事業所にて音楽を主としたアウトリーチを続けてきたが、新型コロナウイルスの影響により2年前から実施が途絶えていた。これまで文化芸術活動を介して築いてきた繋がりを絶やさぬよう、また今回の訪問先では初となるダンスのワークショップという切り口から、今後に繋がる新たな連携を目指した。

参加されるお子さん達の集中力や疲労度を鑑み最長40分間を予定し、会場の様子によっては短縮もという計画で進めていたが、当日会場は大いに盛り上がり、様々なチャレンジが生まれる60分の充実したワークショップとなった。事業所の方々からは「子ども達にこんなことや、あんな表現ができるんだと気付けた場面があった。」「今後子ども達の間で今日やったことが独自の遊びとして発展するかもしれない。」という言葉があり、それぞれの個性や発想、達成感を大事にしつつ、ダンスのようなアートのことも取り入れていきたいという思いが語られた。

今回藤田さんの同事業所への訪問は初であったが、事前に弊館が持参した参考チラシ（藤田さんが大きく写っている公募ワークショップのもの）を事業所の方々が複数の窓に貼って毎日お子さん達の目に入るよう配慮くださっていた。このようなアウトリーチ先からのご協力も、当日の場の温まりや、一層の充実感につながるキーポイントであったと考える。実施決定～当日までの期間が短くコロナの動向も含めハラハラしたが、コーディネーターの小岩さんや地域創造の方々にもご助言をいただきながらアーティスト、ホール、アウトリーチ先それぞれができることで連携し態勢を整えた結果、会場から「たのしー！！」と声上がる素敵なアウトリーチとなった。



茅ヶ崎タンブー東海岸



茅ヶ崎タンブー東海岸



茅ヶ崎タンブー東海岸



茅ヶ崎タンブー東海岸

## 公募ワークショップ

参加者同士の出会いから、身近なところにはいろいろな人がいて、自分を含むみんながいるからこそ、その“場”や“空間”ができていくことへの気付きに繋がるワークショップを目指した。

募集対象の年齢幅を広く設定し、世代間交流が生まれる仕組みづくりを図った広報・周知の結果、30代を除く10代～60代の各層から申込が得られ、参加者からは「知らない人とコミュニケーションがとれてよかった」「普段お話しすることが少ない年齢の方達とも話せてよかった」という感想がいただけた。

また、ダンス経験の有無にかかわらず、一緒に同じ時間を過ごしているうちにいつの間にか踊っていることに気付くような、多様な背景の参加者が構えずに取り組める企画を意図した。参加者同士は初対面で、普段身体を動かす機会が少ないという方や「ダンスは初めてのため勇気をもって参加します。」とお申し込みくださった方もいたが、自分の身体の動きに意識を向ける時間と、他者の動きにも注目したコミュニケーション的要素を含む展開の双方がバランスよく取り入れられたことにより、周囲との仲間意識が芽生えるにつれて緊張していた各々の表現が徐々に生き生きと、大きくなった。最後には参加者同士が驚きをもって相互に鑑賞できる舞台作品の形となり、大きな感動と達成感が会場を包んでいた。ダンス未経験の参加者達からは「初めてだったが一つの仕草や日常の動きの延長でダンスに見えるのが面白かった。参加してよかった。」と好評を得られた。

今回のコロナ禍での実施にあたっては、各参加者にも随所で協力をいただきながら感染症対策を強化・徹底したことで、「手袋の支給もあり、より安心してワークショップを受けることができました。」「コロナ禍で大変な時期にリスクを背負っての開催に心から感謝を申し上げます。」といった言葉をいただけ、現在の社会が直面している課題の実感と、地域住民のニーズに対し文化会館としてできること、果たせる役割を模索する機会ともなった。



## プログラム詳細

## 2月5日(土) 公募WS(小学校4年生以上)

## ●挨拶・準備体操

アーティスト・会館からの挨拶の中で、感染症対策への協力をお願いも行った。続いて身体をほぐすストレッチからワークショップがスタートした。

## ●エア習字

自身の腕を筆に見立て、舞台の端から空中に自分の名前を書いて進む。「名前」という書き慣れたテーマにより参加者全員が自然と動き出せる仕組みとなっていた。やがて脚や頭等いろいろな部分を使い名前を書いていく頃には、こわばりがほぐれ身体全体の動きが大きくなっていた。

## ●紙を使ったワーク

紙を身体に貼り付け、紙が落ちないように会場の端から端までを進んだり、掌に付けた紙が床に落ちないように手と身体を動かして紙との密着状態を保つ。(足でも実施。)参加者の集中力が増し、笑顔で夢中になる様子が見えた。

## ●イスを使ったワーク

イスにいろいろな向きで座ったり、乗ったり、寝転んだり、スポットライトの円周をグループの人達がぐるぐると回る中心で椅子を用いた即興の動きを披露したりと、段階的にオリジナリティが出せるワークを展開。序盤には緊張が見て取れた参加者が、一筋のスポットライトに照らされて堂々とソロの動きを披露する様子が印象的であった。

## ●決闘シーン

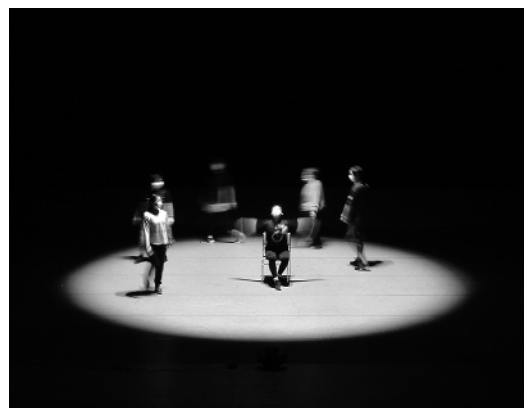
二人が向かい合い、一人がパンチやキックの動作をスローモーションで繰り返す、もう一人は相手の動きやその軌道に意識を向けて、自分の身体に触れないよう動きを止めずに避けてゆくの。暗くしたステージの正面下方からライトを当てることにより、バックに影が生じて決闘シーンがよりリアルになり、参加者の気持ちも高まっていった。

## ●発表・鑑賞

これまでの動きを結び付けた場面展開の確認後、舞台と客席の二グループに分かれて発表と鑑賞を行った。自分達の動きが実際にどのように見えるかという視点も持てることで、舞台上での表現がより大きく大胆になっていた。それぞれの参加者が自分と周りの動きに意識を向け、開始直後とは別人のような生き生きとしたエモーショナルな表現をしており、驚きと感動のある発表であった。

## ●クールダウン・挨拶

ワークショップの最後にゆったりとしたクールダウンの運動を行い、再びアーティストと会館からの挨拶を実施。参加者の表情には思いっきり身体を動かした後の清々しさが見て取れた。(感染症対策の一環で、感想はアンケート返送の形式で実施。)





●この事業への応募動機

弊館ではこれまで音楽によるコンサート形式のアウトリーチ事業を中心に実施してきたが、鑑賞するだけでなく、アーティストと共に作品を創る体験の必要性やニーズが感じられていた。

今回はこれまで巻き込めていなかった新しい世代へのアプローチということで応募していたが、私自身はダン活の実施決定後に前任から引き継ぐ形で担当となり、参加者の方々の世代間交流を通じた周りとのつながりの中で、自分達の可能性が広がってゆくワクワク感やダンスへの関心の醸成を目指して進めてきた。

●事業のねらいと企画のポイント

- ・募集対象の年齢幅を広く設定し、世代間交流が生まれるワークショップを目的とした。
- ・ダンス経験の有無にかかわらず、一緒に同じ時間を過ごしているうちにいつの間にか踊っていることに気付くような、多様な参加者が構えずに取り組める企画を目指した。
- ・参加者同士の出会いから、身近なところには色々な人がいて、自分を含むみんながいるからこそ、その“場”や“空間”ができていくことへの気付きにつながるワークショップを目指した。
- ・コロナ禍で市内4大まつりが複数年開催できない状況となり、世代を超えた交流機会の減少、行き場のないエネルギーの蓄積といった地域課題の顕在に対する公共ホールならではのアプローチを目指した。

●企画実施にあたり苦労した点

入職後、ダン活の内容や仕組み、コーディネートについて具体的なイメージが持てないまま事業を引き継いだこともあり、漠然とした不安を抱きながら、時に当館の職員やコーディネーターの小岩さん、地域創造の方々にアドバイスを求めつつ、一つひとつの事務を進めてきた。

特にコロナ禍におけるアウトリーチ実施先の決定や、実施形態の変更に伴う調整には困難を抱えた。

アウトリーチ先の募集開始後、応募のないなかからスタートし、小学校へ直接説明に伺ったり、下見時の変更で急遽追加のアウトリーチを調整し実施態勢を整えるも、感染拡大状況の深刻化に伴い実施間際に中止となった。

再度別機関にて実施可否の検討とスケジュールの調整を行い、3月に社会福祉法人が運営する放課後等デイサービスでの実施をするに至った。

●事業の成果と課題

公募ワークショップについてはコロナ禍に公共ホールが果たせる役割として、鬱積した感情の放出や顔の見える関係作りの機会をダンスを通して創造したいという思いがあったが、参加者からいただいた「沢山の過去から解き放たれ『もっと自由でいいんだ!!』と感じさせられた。」という言葉に、当館がやりたいと考えたワークショップの姿の実現が果たせたことの実感を得られた一方で、そのような経験ができる体験型の企画は決して多いとは言えず、地域の潜在需要に対する機会供給・情報提供の課題も浮かび上がった。

社会福祉法人でのアウトリーチは2年ぶりの連携が実現できたと共に、中止せざるを得なかった小学校でのアウトリーチについても、実施までの過程で先生方と繰り返しコンタクトを図る中で、ダン活への理解と期待、そして「子ども達にプロのアーティストとの出会いや生の文化芸術に触れる経験をさせてあげたい。」という先生方の強い思いを伺うことができ、新たに文化会館と学校との強いパイプができたと思う。

●今後の事業展開や展望

小学校でのアウトリーチが中止となってしまった課題については、学校ともアーティストの藤田さんとも、ダン活に限らず状況が落ち着いたらぜひ改めてワークショップを実施したいという意思共有ができたため、今後の弊館自主事業として展開してゆく新たな可能性が増えた。



●この地域のダン活の特徴

茅ヶ崎市民文化会館は平成30年にリニューアルオープンし、見た目も設備も新しい。また、当該館近くは再開発が進行中で、大きな公園もあり、たくさんの市民の集いの場となっている。親子連れの姿も多く見られ、さらに海の開放的なイメージが街の雰囲気を活発にさせている感があり、文化人が多いのも肯ける。

当該館では「子供向け事業（キッズ応援★プログラム）」を継続的に実施してきたが、今回は「子供向けアウトリーチ（以下OR）」と「多世代交流ワークショップ（以下WS）」を、アーティスト藤田善宏氏と共に取り組んだ。ORは、会館に足を運ぶ機会や関心が少ない子供をターゲットとし、コロナ禍中でありながらも（コロナ禍で体験ができないからこそなおさら）、アーティストとの出会いや体験を求める学校教員や子供への効果を、館担当者は懇切丁寧に説明をし、茅ヶ崎小学校の理解を得て実施にこぎつけることができた。ところが、ダン活規定の「実施コマ数」の説明不足による一部実施見直し（課題の項参照）と、加えて実施開催直前、当該校でコロナ感染が拡大し中止となってしまった。OR先の新規開拓、事業見直しは年度末に近いということもあり困難を極めることが予想され、またOR先が見つからない場合はダン活規定に則り未実施とみなされるものであったが、当該館が日頃から付き合いがあった児童発達支援の福祉施設「茅ヶ崎タンブー」の協力を得ることができた。この福祉施設は、当該ホールからの音楽ORや施設利用者による美術展をホールで開催するなど、相互に深く友好的な文化的関係を築いているようだ。ダン活事業としてイレギュラーであるが、学校側の熱心な思いに応えた館の対応と、今後の期待も込めて今年度の事業としては、対応した旨などを加えた報告をすることで、事業成立と見做すことになった。

WSでは、“ダンスを通じた多世代市民の交流”を設定した。例年4回ほどある“祭り”が多世代交流や結束力、地域の魅力発信を促進していたが、コロナ禍による中止がそれを妨げている。WSを通じて市民が顔馴染みになり、地域への愛着や安心感を育むことを目的に公募がなされた。茅ヶ崎を代表する海岸スポットでジャンプする、アーティスト然とした藤田氏のビジュアルを中心とした明るいチランは、コロナ禍の重い空気感や外に出たい、動きたいという人々の心を喚起させ、未経験者や若い世代の参加にもつながったようだ。藤田氏とアシスタントによる柔らかな語り口や、身近な「モノ」を使っての動き、自分の「名前」を書いているだけでいつの間にかダンスになり、最終的にスポットライトが射す本格的なステージで発表（発表者以外の参加者は客席から鑑賞）がなされた。参加者にとっては、日常的な動きがダンスになること、自己肯定感の高まり、普通の人であっても何かの能力があることを互いに確認しあえる機会となったのではないだろうか。WS開始時、写真に写ることさえも拒んでいた方が、最後には楽しかったと明るい表情になって帰っていった姿には、皆が驚き、感動した。

●課題とこれからに向けて

コロナ禍で日々刻々と変化する状況の中、ダン活規定の「実施コマ数」の認識不足による、実施先再調整という問題が起きた。OR回数は、コマ数ではなく対象先ごとのカウントであるが、今回の小学校では、コロナ禍の中でより充実した内容で、時間をしっかり取れるという点を優先し、2クラス合同で2コマ続けて実施とした。当初の予定では、1クラス1コマ×2日で計4回で規定に沿っていたが、下見の際に「2クラス合同で2コマ続ける」ことがよりよいことを先生方含め決定したのであった。ダン活規定ではOR3回以上であるが、私も含め認識の不足があり混乱を招いてしまった。またダン活実施要綱・募集案内等での実施回数表記の方法の再検討を要する。

そのような中で、担当者は粘り強く新たなOR先を探し出し、福祉施設の特徴である音楽や美術を取り入れた福祉サービスに、“ダンス”を引き合わせることができたことは、今後ホールと福祉施設との新たな展開に期待するものである。また、小学校へのORは実施できなかったが、これまで関係が築けていなかった小学校と、ダンス教育に熱心な教員や校長がいることがわかり、ギリギリまで実施に向け調整や相談に乗ってもらったという関係性を大事にしていってほしい。

そして、本ダン活を通して最も印象的だったのが、制作担当者と舞台スタッフの関係性が非常によいという点である。スタッフ皆が「ダンス」を始めとした文化・芸術の魅力や面白さ、人間関係を潤滑にすることを理解し、共感し合い、語り合い、知恵を出し合うという雰囲気がホール全体に漲っていた。制作担当者も初めてのダンス対応とはいえ、ダンスに混ざり体験してみて、考え実行するという積極性があり、今後のBCプログラムに期待したい。

## あすとホール 実施データ

Aプログラム

実施団体	泉大津市		
実施ホール	あすとホール		
実施期間	令和4年3月4日(金)～3月6日(日)		
アーティスト等	アーティスト：康本雅子		アシスタント：野村香子
コーディネーター	坂田雄平、神前沙織		
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 3月4日(金)9:00～11:30、泉大津市立旭小学校(新型コロナウイルス感染拡大により中止)</p> <p>② 3月5日(土)9:20～11:45 総合型地域スポーツクラブ OZU スポ 24名 総合体育館          《ダン活枠外》 大阪府立久米田高校ダンス部 14:00～17:00 24名 羽衣国際ユースホテル体育館</p> <p>■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 3月6日(日)10:00～12:00 あすとホール ダンス経験者 小学生～60代 14名          《ダン活枠外》</p> <p>3月4日(金)19:00～21:00、あすとホール ダンス経験者 小学高学年～30歳 13名</p>			

## スケジュール

	下見	
	10/1(金)	10/2(土)
9:00		泉大津駅集合
10:00		市内案内
11:00		移動
12:00	ホール集合	OZU スポ視察
13:00	打合せ	泉大津駅にて打合せ
14:00	市内案内	泉大津駅発
15:00	旭小学校	
16:00	移動	
17:00	久米田高校	
18:00	移動	
19:00	地域ダンスチーム視察	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
3/4(金)	3/5(土)	3/6(日)	3/20(日)
	泉大津駅集合	ホール集合	
	OZU スポ OR	公募 WS	
	↓	↓	
	昼食	昼食	
	フィードバック	フィードバック	浜寺公園駅集合
		泉大津駅発	《ダン活枠外》 久米田高校 OR
			↓
	ホール集合		
	打合せ		フィードバック
			泉大津駅発
	《ダン活枠外》 公募 WS		

## アウトリーチ

「決められた振付を踊るだけがダンスじゃない！自分を自由に表現するダンスを知ってほしい！」

ダンス人口の多い大阪・泉州地域にある当館では、次世代育成として、地域のダンス文化を担う若い世代に普段触れる機会の少ないコンテンポラリーダンスを経験してほしいという思いがあった。

そこで、アウトリーチに訪れたのは「OZU スポ」という地域のスポーツクラブのキッズダンス部門だ。ダンスをスポーツとして捉え、基礎体力づくりや振付を覚えることを中心に楽しんでいる子どもたちが多く、多様なジャンルのダンスに触れる機会に乏しい。また地域の若い指導者への指導にも繋がると考えた。

### ①年少～小学校低学年クラス

子ども達は、知らない大人がたくさんいる、いつもの教室との違いにかなり戸惑っているようだった。1人で踊る際は恥ずかしそうにアーティストの真似をしていたが、2人1組になって互いの身体を使って遊ぶうちにだんだんと笑顔が見られるようになった。見学していた保護者からも「いつもと違う一面が見えた」と感想を頂いた。

### ②小学校高学年クラス

最初は体育館の端に固まってしまう子もいたが、ティッシュを使ったワークなど、初めての動きを新鮮に感じてくれたようで、徐々に楽しみ始めた。普段の練習時間より長いワークに集中力が続かないなどの課題もあったが、他者との関わりの中、自分で考えながら表現する経験をしてもらった。

また、どちらの回にも大学生の講師が参加しており、「やったことのない表現がとても楽しく、自分が教えるときにも取り入れたい動きを見つけた」と弾けるような笑顔を見せてくれたのが印象的だった。地域のダンス文化を豊かにしていくためには、指導者育成が不可欠だと改めて感じる時間となった。



総合型地域スポーツクラブ OZU スポ



総合型地域スポーツクラブ OZU スポ



総合型地域スポーツクラブ OZU スポ



総合型地域スポーツクラブ OZU スポ



## 公募ワークショップ

アウトリーチに続き、小学校高学年以上のダンス経験者を対象にワークショップを実施した。

当初は中学生～25歳までのダンス経験者が対象だったが、新型コロナウイルスによる日程変更に伴い、急遽、年齢層を広げて参加者を再募集することになった。結果的に地元のダンス教室に通う小中学生と、若い頃から趣味としてダンスを続けている50歳以上の方という構成で開催した。

「普段のダンスレッスンで行わないワークを」ということで、全身を使って360度方向に踊り、身体の新しい使い方を模索するところからスタートした。子ども達は決められた振付ではなく、自分で考えて「自由に」踊ることが初めてだったそうで、戸惑いも見られたが、アーティストや他の参加者の動きから学び、どんどん動きがよくなった。大人も子どもに負けまいとヒートアップしていき、最終的には全員が汗だくになりながら、新しいダンスを通して自分の知らない自分の身体を発見し、溢れる感情を表現することに今までにない楽しさを感じているようだった。

また、日程変更により参加できなかった20歳前後のダンス上級者に同様の自主事業（ダン活枠外）を開催した。こちらは参加者たちが、液体のように滑らかに床を這うアーティストをぎこちなく真似するフロアワークから始まり、最終的には自分だけのダンスを自由に、気持ちよく踊る姿が見られた。それはまさに、ダンスの豊かな可能性を感じてもらえたと確信した瞬間だった。「踊りたくて、踊りたくて仕方なくて！」とSNSでイベントを知った遠方の学生が参加してくれるなど、新しい出会いを作ることもでき、嬉しい限りだった。

ワークショップ開催前は参加者全員、名前しか知らなかったコンテンポラリーダンス。それが「また踊りたい！」と言っていただける選択肢になったのが地域のダンス文化にとって大きな一歩になったと考えている。



## プログラム詳細

### 3月5日（日）公募WS 対象：ダンス経験者中学以上

#### ●導入

会場全体を早歩きし、お互いを観察し合う。人と目があつたら並んで歩き、誰かが歩くのをやめると全員が止まるなど、周りを広く見ながら不規則な動きを感じる中で、参加者の関係性が自然と築かれていった。

#### ●新しい身体の使い方を見つける

康本さんからの「踊らなくていい」という声掛けのもと、ゆったりとした音楽に合わせて、身体の正面や重心のかけ方を様々な方向へ変え、まわりつくハエを想像して避ける仕草など、想像力を膨らませながら普段と違う身体の使い方を探す。

#### ●球体リズムダンス

球体をイメージして身体を360度多方面に動かし、リズムに緩急をつけて踊る。決められた振付を客席に向けて踊ることが「普通」の子ども達は、自分で考える「自由」なダンスに苦戦していた。

#### ●手の平合わせ

ペアで手の平を合わせ、進みたい方向へ相手を誘導するワーク。押し合う感触や表情から気持ちを読み取り、身体でコミュニケーションを取る。ペアを入れ替え、それぞれ異なる動きを感じる。

#### ●振付ワーク

自分の名前を身体で表現する振付を考える。円になって、1人ずつ発表し、他の人はそのダンスを真似していく。

#### ●しりとりダンス

5人グループで輪になり、音楽に合わせて1人8カウントずつ即興で踊る。前の人の最後のポーズから踊り始めるしり通りのルールで、自分ない動きを学び、対話の中で新しい踊りが生まれていった。





●この事業への応募動機

「文化のじぶん化創造館」をコンセプトとする当館では、小規模ホールならではの地域との強い繋がりを活かした地域の文化・芸術の振興を主な使命としている。

近年、大阪・泉州地域ではダンスが盛んで、人口約7万人の当市にも30を超えるキッズダンスチームがあり、当館のイベント等でも関わりが深い。そのような盛り上がりを見せる一方で「身体を動かす」「決められた振付を踊る」といった画一的な目的でダンスを捉えている人の多さを感じるようになった。そこで、次世代育成事業に力をいれている当館として、特に未来を担う地域の子どもたちに、地域で触れる機会の少ない、固定観念にとらわれず、自己表現力を培うコンテンポラリーダンスを経験してほしい、また、事業のノウハウを学び、地域のダンス文化をより多様にしたいという思いから応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

まず、自己表現が苦手な子どもの多い地域性から、体育の授業で経験するスポーツとしてのダンスではなく、表現力、コミュニケーション能力向上に繋がるダンスを経験してもらいたいと小学校へのアウトリーチを計画した。次に、ダンス経験者を対象に、アーティストの表現力に触れ、本物の技術、感性を学び、多様な可能性に挑戦してもらうきっかけを作るため、地域のダンス教室や高校ダンス部選手権全国2位の強豪校を対象にアウトリーチを計画した。

●企画実施にあたり苦労した点

当初、漠然と考えていたダンス経験者向けというターゲットをより明確化し、ワークショップを組み立てていくプロセスに苦労した。対象が決まった後も、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、学校や全国トップレベルの高校ダンス部とのスケジュール調整は難航を極めた。

結果として、開催を1年延期したものの今年度も開催直前に日程変更や小学校・高校へのアウトリーチが中止となった。だが、その都度、アーティストを始めとする関係者の方々に迅速に調整いただき、中止となった対象は自主事業へ切り替えるなど、リカバリー力が培われる経験となった。

また、公募ワークショップでは、コンテンポラリーダンスの知名度が全くない地域ということで主催者の思いをどのように伝えたらいいか表現に悩んだ。特にチラシに落とし込む難しさを痛感したが、SNSを活用した広報が市外の学生が参加するきっかけになるなど、うれしい結果も得られた。

●事業の成果と課題

当初、主な対象をダンス経験者にしたことで自分の知っているダンスと違うと拒否反応が出るのでは、と不安だったが、最終的には参加者が自分だけのダンスを素直に楽しみ、解き放たれたように気持ちよく踊る姿が見られた。ワークの導入として、アーティストと参加者でダンスへの思いやキャリアについて話す時間を持ったことで、より深くメッセージを伝えることができた。ワークショップ後、参加者が疲れた身体で一生懸命アンケートを書く姿からもその意味が感じられた。

今後の課題としては、今回はダンス経験者にターゲットを絞ったものだったので、より幅広く、たくさんの人に伝えていくことが必要になると考える。

だが、コンテンポラリーダンスの知名度が低い地域でダンス経験者に自己表現としてのダンスを経験してもらい、ジャンルを広げるという目的がおおよそ達成できたことは大きな成果だった。

●今後の事業展開や展望

今後はダンス未経験者や高齢者など、より視野を広げたダンス事業を開催していきたい。

ダンスがますます人気を帯び、高校ダンス部など、ポピュラーな潮流ができつつある中、今回の事業を通して、地域でダンスに携わる人たちに芸術としてのダンスやその歴史、ジャンルの豊かさを多面的に感じてもらったこと、その魅力を伝えるノウハウを得た経験を、ホールとして今後の地域の文化力向上に繋げていきたい。

## コーディネーターレポート

※延期日程との都合により、事前準備を坂田コーディネーター、現場を神前コーディネーターが担当したため、2名による総評を掲載。

坂田雄平・神前沙織

### ●この地域のダン活の特徴

泉大津市は日本一の毛布生産地であり、大阪市内や関西国際空港へも20分圏内と、アクセスの良いコンパクトシティだ。ダンスが盛んなことが大きな特徴のひとつで、あすとホールを拠点にするダンス団体も多い。泉大津市のAプログラムは、泉大津固有のダンス生態系にコンテンポラリーダンスを届けるということが貫いた「企画の軸」となった。プログラムは、小学校（特別支援学級）でのアウトリーチに加えて、ダンスに特化した企画として、全国でも屈指のダンス強豪校である久米田高校ダンス部、地域の子どもたちにダンスを学べる場を提供したいという指導者の熱い気持ちから立ち上がったダンススクール（総合型地域スポーツクラブOZUスポ）でのアウトリーチ、あすとホールでの公募ワークショップが行われることとなった。その中にはダンスを学ぶ子どもたちにコンテンポラリーダンスを届けると同時に、熱心な指導者たちにも触れてもらいたいという担当者の想いもあった。康本雅子さんは、こうした企画の意図や下見時の状況を踏まえ、高校生に対してはアウトリーチ前に自身のダンスにまつわる仕事内容や、国内外の多様なコンテンポラリーダンスの動画を紹介し、多角的にダンスのイメージを拡張する取り組みも行った。

当初令和3年1月に実施予定だった泉大津のダン活は、コロナ禍の影響を受け令和4年1月に延期となった。さらに令和4年1月も直前に3月へと延期。実施プログラムも直前に小学校のアウトリーチが中止、高校へのアウトリーチが3月末にダン活枠外のプログラムとして延期になるなど、感染症に伴う各種制限等に翻弄されながらの開催となった。

公募ワークショップの参加者は、みな真剣に取り組んでいたし、初めて自らの身体で表現する事や動きを考えるという事にチャレンジし、全身で吸収しようとする様子が初々しかった。事後に行った参加者のアンケート結果からもそのインパクトが伝わった。アウトリーチで訪れたOZUスポの子どもたちは、やや集中力に欠けるものの、公募ワークショップと同じように「初めて」を楽しんでくれたと思う。ただ、ホール担当者から事前に伺っていたダンスの経験者というよりは、楽しみのひとつにダンスがあるという子どもたちだったので、ワークショップのプログラムも遊びの中から動きを発見する方向のものが適していた。事前のヒアリングで分かる事と分からない事があり、やってみて気づいた事だ。

### ●課題とこれからのに向けて

今回は対象をダンス経験者に絞った公募ワークショップだったが、同じ狙いでも、経験者と初心者を混ぜる方が双方にとってより効果的なワークショップになる場合がある（アーティストのプログラムにもよる）ので、次はぜひチャレンジしてみたい。特定のジャンルのダンスを習い続けている人ほど、身体に踊り方のパターンが刻み込まれていて、それ以外の踊り方、ボキャブラリーがなかなか生まれにくい一方で、年齢に関わらずダンステクニックが身につけていない人の方が、自由な発想で思いもよらない身体の使い方がその人なりのボキャブラリーを生み出すことがある。ワークショップで一つの指示から自分とまったく違う踊り方をする集団に身を置くのと、似たような集団に身を置くのでは得られる刺激が違う。若い彼らだからこそ、「こんな踊りもあったのか」と気づく経験をたくさん積むと、より効果的だと思う。

泉大津市のダン活は、コロナ禍含め紆余曲折ありながらも、常に「企画の軸」に立ち返りながらプログラムが進められた。まずはこの経験をこれからの事業に活かしたいと思う。また今回は、あすとホールの担当者とともに、泉大津市の担当者たちがワンチームとなって事業を行なった。ホールと市が課題意識や目標を共有しつつ、企画内容の精査や実施先のブッキングなどを行なったことは大きな成果のひとつだ。属人的な部分があったとは思いますが、これを一つの館と市のパートナーシップ・スキームとして継続させていけるかが、これからの泉大津市のまちづくりや文化推進を考える上で重要だと考える。最後に、下見時に国指定重要文化財でもある泉穴師神社を訪ね、平成30年台風第21号により倒木した樹齢600年のご神木などをみる事ができた。巨大な倒木を養分に新たに育つ草木の美しさに圧倒された。ダン活を通じて、泉大津の多様な魅力を引き出す取り組みにも期待したい。



# Bプログラム

(市民参加作品創作プログラム)

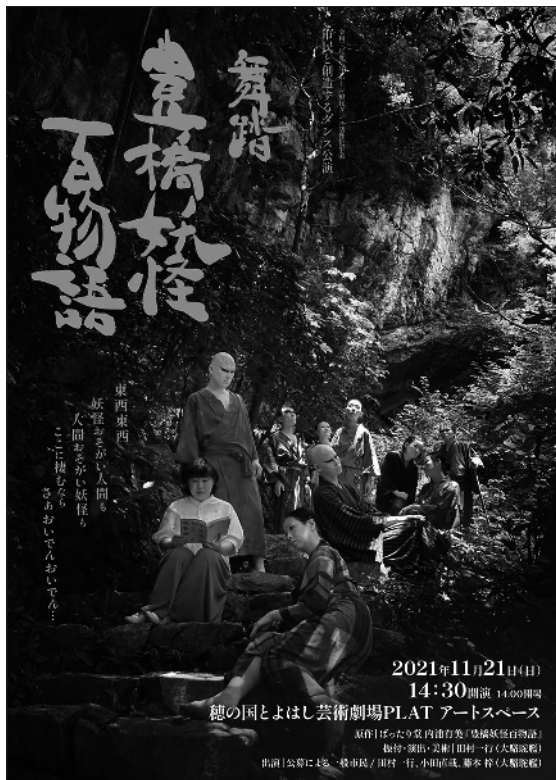
実施団体	公益財団法人豊橋文化振興財団
実施ホール	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
実施期間	令和3年7月9日(金)～令和3年7月11日(日) 令和3年11月16日(火)～令和3年11月21日(日)
アーティスト等	アーティスト： 田村一行 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：小田直哉、藤本梓 テクニカルスタッフ等：阿蘇尊(演出助手)
コーディネーター	中西麻友

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 7月10日(土)10:30～11:30、3歳以上の子どもとその保護者、無料、保護者9名・子ども12名 計:9組21名、PLAT アートスペース

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 市民と創造するダンス公演『舞踏 豊橋妖怪百物語』
- 11月21日(日)14:30開演(14:00開場)
- 田村一行、小田直哉、藤本梓(以上、大駱駝艦)  
荒川マスティ、上松義和、かとうとしえ、加藤真紀子、眞田信三、鈴井永遠、竹下ちえ子、棗れな、野澤夏来、古田久子、森川理文、築瀬万里子/内浦有美、村田青水(薩摩琵琶)
- 一般:1,000円、U25:500円
- 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース
- 187名



【料金】  
一般1,000円 U25 500円  
(公演日由 友船前分付 税込)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)

【チケット】  
公演日 2021年11月21日(日)14:30開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)

【チケット】  
公演日 2021年11月21日(日)14:30開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)

【チケット】  
公演日 2021年11月21日(日)14:30開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)  
09/27開演(14:00開場) 10/18開演(14:00開場) 11/21開演(14:00開場)



# スケジュール

Bプログラム 愛知県豊橋市／穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

	下見	
	6/11 (金)	6/12 (土)
9:00		集合
10:00		妖怪リサーチ
11:00		↓
12:00	豊橋着	移動・昼食
13:00	舞台打合せ	撮影場所下見 @石巻山
14:00	↓	
15:00	制作打合せ	下山
16:00	↓	妖怪リサーチ
17:00	解散	移動
18:00		豊橋発
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①		
7/9 (金)	7/10 (土)	7/11 (日)
		メイク・準備
	【公募 WS】	移動・撮影 @石巻山
	↓	↓
豊橋着	昼食・準備	↓
打合せ	クリエイション②	昼食・準備
↓	↓	クリエイション③
準備	↓	↓
チェックイン	↓	↓
理事長挨拶	(休憩)	(休憩)
クリエイション①	↓	↓
↓	↓	↓
↓	取材	終了・退館
終了・退館	終了・退館	豊橋発

	実施期間②					
	11/16 (火)	11/17 (水)	11/18 (木)	11/19 (金)	11/20 (土)	11/21 (日)
9:00		仕込み	仕込み			アップ
10:00		↓	フォーカス		舞台稽古	通し稽古
11:00		↓	↓		↓	↓
12:00		(昼食)	(昼食)		昼食	昼食・メイク・準備
13:00	豊橋着	↓	明かりづくり	場当たり	舞台稽古	↓
14:00	打合せ	位置決め	↓	↓	テクニカルリハーサル	【公演】
15:00	仕込み	舞台稽古	↓	↓	↓	↓
16:00	↓	↓	準備	準備	クリエイション⑧	フォトコール
17:00	夕食	夕食	舞台稽古	舞台稽古	↓	片付け
18:00	クリエイション④	クリエイション⑤	クリエイション⑥	クリエイション⑦	休憩	↓
19:00	↓	↓	↓	↓	ゲネプロ	振り返り
20:00	↓	↓	↓	通し稽古	↓	
21:00	終了・退館	終了・退館	終了・退館	終了・退館	終了・退館	終了
22:00	チェックイン					

### 公募ワークショップ

公募ワークショップではクリエイションに参加することのできない子どもとその親（または保護者）を対象としたワークショップを実施した。コロナ禍で他者との接触が最小限となっている今、触れ合いに重きを置き、ダンスを通して親子のコミュニケーションが取れる機会をつくることを目的とした。

会場はアートスペースの移動観覧席を全て格納し、平土間の状態で開催。壁際には各家族が荷物を置き、待機できるように間隔を置いてクッションマットで島を作り、参加者同士で距離を取れるように工夫した。

会場には白い繫ぎを着た人が2人（小田、藤本）、力なく座っている。子ども達は異様な光景に好奇心を持ちながらも、遠巻きに見ながら会場に入ってきた。やがてワークショップが始まり、田村さんによる簡単な舞踏の説明からスタート。ダラリと座った二人を使ったり、ホワイトボードに貼りつけた風船や水の入った風船を使いながら丁寧に解説。一通り終わるとテンポの速い音楽がかかり、田村さんも大急ぎで白い繫ぎを着て3人の短いショーイングが行われた。

しっかりと子どもと大人の心をわしづかみにしたら、それぞれの家族で動いてみることに。大人が子どもを動かしたり、子どもが大人を揺らしたり、お互いの動きを観察してどうだったかを話し合ったり、動きを真似しながら舞踏を身体に落とし込んでいった。ワークショップの後半では列になって、音楽に合わせてながら指定の動きで会場を横断するワークを行った。

1時間という短い時間ながらも丁寧に舞踏を体験できる内容となっていたため、大人も充実した時間が過ごせたという感想があった。当劇場では、親子で参加できる企画が限られているが、ダンスの企画は年齢に関係なく参加できる可能性を広げることができるので、近隣の子ども・親子向けの公共施設と差別化を図りながら今後も親子参加型のダンスワークショップを定期的の実施していきたい。



## クリエイションの様子

### ●顔合わせと舞踏の基礎（第1次稽古：7月9日～11日）

公募で集まった17名の内、14名が出演者として決定。うち、ダンス未経験者が7名集まった。また劇場の企画に初参加する人も7名。緊張感が漂う初日はまず輪になって自己紹介から始まった。前半は大駱駝艦でお馴染みの「らくだ体操」を一通り行い身体をほぐし、後半は舞踏についての歴史や背景、大駱駝艦の様式”天賦（てんぷ）典式（てんしき）”についてのレクチャーを映像も交えながら実施。笑いが飛び交う1日目となった。

2日目、3日目はすり足など基礎的な動きを習得しつつ、作品の振付も開始。マスクをつけながら踊るという苦しい環境の中、こまめに休憩をとりつつ、ひたすら振付を繰り返し、基礎を身につけていく1次稽古となった。

### ●チラシ撮影も全力で（7月11日）

今回は市民参加型の企画という事で絶対に市民参加者とチラシ用の写真を撮影したいという制作の強い希望から、『豊橋妖怪百物語』にも登場する豊橋市内の石巻山で撮影を行った。スケジュールの合う参加者が集い、白塗りをし、衣装を着た状態で山を登る姿はまるで妖怪たちが山に現れたかのような時間だった。

### ●コロナ対策と辞退者

稽古期間中は毎日の検温、マスク着用の徹底、こまめな手指の消毒を実施。参加者には感染症対策のガイドラインを配るなど、安心して参加できるように、そして感染症対策の意識を高めてもらうために気を配った。

しかし7月の1次稽古から11月の2次稽古にかけて、新型コロナウイルス感染症の第5波が訪れたため、2名の辞退者が出た。結果、公募の出演者は12名となった。

### ●オンライン稽古と自主練習

第2次稽古まで4カ月近く空中中、中間にあたる9月にオンライン稽古を実施した。久しぶりに集う参加者にまず辞退者の事を伝え、それぞれに不安が無いかの聞き取りを行った。制作が想定していたよりも前のめりな参加者に背中を押され、稽古を開始した。初のオンライン稽古だったが、動きや振付のおさらいができ、非常に有意義な時間となった。また第2次稽古が始まる前の自主練習に向けて参加者同士が協力し合う、良い機会となった。



撮影：萩原ヤスオ





●仕込みと稽古の同時進行（第2次稽古：11月16日～19日）

事前にオンラインで打合せした内容を元に仕込みが始まる。別室では田村さんと本作の原作となる『豊橋妖怪百物語』の著者・内浦有美さん、そして琵琶奏者の村田青水先生の打合せを実施。そこで初めて琵琶の演奏を村田先生に依頼した。最初は戸惑われつつも内浦さんの熱意に触発され、出演を了承いただく。予定を調整して、リハーサルに参加していただくことになった。

稽古は久しぶりの対面ではあったが、初日から猛スピードで振り写しを行った。というのも、ダン活経験豊富な田村さんでさえBプログラムで90分の作品を創るのが初めてであったからだ。限られた稽古時間の中、複雑な構成とパート分け、参加者の出来ること出来ない事を判断しながら創作を行っていくのは至難の業であった。

また今回は劇場の技術スタッフが照明・音響・舞台を担っており四六時中現場に付いた。アーティストと密に連携を取りながら、稽古と同時に随時プランを更新していきクリエイションを行う経験は劇場スタッフにとっても貴重な機会となった。稽古も最初から本番と同じ会場で実施。舞台照明や音響があり、本番と近い状況を用意出来たので参加者にとっても非常に良い環境が作れた。

また平日の日中も都合のつく参加者が劇場に集まり、明かりづくり・振りづくりに参加してもらえたことで、短いスケジュールの中で効率的に作業が進められたことは非常に良かった。

●初めての通し稽古とゲネプロ（11月20日）

日々更新される振付を必死に覚えながら、何とか通し稽古に漕ぎつける。通し稽古では、演出の田村さんの代役を演出助手の阿蘇さんが務め、実施。衣装や琵琶の演奏も本格的に入り、緊張感が高まっていく。

ゲネプロでは本番同様に田村さんが舞台上に立てるのかの瀬戸際だったが、無事に全員で通すことができた。出演者が全員揃い、やっと作品の流れをそれぞれ身体に落とし込めたように見えた。

●そして本番へ（11月21日）

ついに本番を向かえた当日。朝いちばんで軽く通し稽古をし、初めて全員で白塗りをして入念に準備をする。ホワイエでは制作がチラシで使われた題字の展示と『豊橋妖怪百物語』原作本の物販コーナーの設置をして、お客様を迎える準備が整った。14：00に開場。14：30に幕が上がった。



## 公演

## 市民と創造するダンス公演 『 舞踏 豊橋妖怪百物語 』



撮影：萩原ヤスオ

『豊橋妖怪百物語』とは 230 話以上あると言われている、豊橋に古くから伝わる民話や妖怪の話を紹介した本である。本公演では本書の「腕借り天狗」「石巻山の背比べ」「嵩山の蛇穴」「みちびき提灯」「十三本塚悲話」「ごひんさま」など、数多くの物語が盛り込まれており、11 のシーンからなる 90 分の作品である。舞台美術は会場であるアートスペース舞台奥中央の扉を開放し、戸板を左右に 6 つずつ並べ、センターに人が立った時に 13 本の塚が表現される作りになっていた。

企画立ち上げ当初から原作者である内浦有美さんによる朗読は取り入れる予定であった。同じく『豊橋妖怪百物語』を題材に唄を創作している琵琶奏者の村田青水先生を紹介して貰ったことで、琵琶の生演奏を急遽入れることに。そのため本公演は舞踏、朗読、琵琶の生演奏のコラボレーションが実現した濃厚な 90 分となった。また、豊橋市民に馴染みのある和菓子屋で作られているアマビエのお菓子も登場し、笑いが起きた場面もあった。

これまで当劇場では数多くの市民参加型公演を行ってきたが、ここまで内浦さんのような地元の方と協力しながら創作を行ったのは初めてだった。原作者として協力していただくだけでなく、チラシの撮影、作中の朗読、最終的には白塗りをし重要な役回りを演じてもらうまでになった。また村田先生の生演奏も、内浦さんのご縁がなければ実現はしなかった。田村さんの作品に対する真摯な姿勢と、内浦さんのパワフルさが、どんどん周りの人を巻き込み作品を大きくしていったのが印象的であった。劇場としても田村さんや内浦さんと双方向的な関係性が築けた公演となった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・大変、面白く拝見させていただきました。時間もちょうどよく、続編が楽しみです。（女性・60代）
- ・豊橋の妖怪話を読み直したくなりました。一時間半の長さを感じないメリハリのある演出で面白く楽しく観ました！（女性・50代）
- ・口承伝承をうまく舞台化していると感銘を受けました（男性・60代）
- ・長年、田村一行さんのファンなので、豊橋市民創造するダンス公演（しかも原作も豊橋在住のぼったり堂の内浦有美さんの創作）は、豊橋の方々にも田村一行さんの魅力が浸透した！と、とても感慨深いです。（中略）舞台に立つ1人1人の佇まいが皆素敵でした。老若男女、それぞれがそれぞれに美しい。大駱駝艦のいう「天賦典式」＝ひとりひとり生まれ出たことが才能である。を感じる舞台でした。ぼったり堂の内浦さんの舞台での存在も凝ってるなあと感じました。豊橋の妖怪物語だったこともあり、ちょうど、この公演の前に豊橋に PLAT を建てる活動に尽力された方が亡くなったのですが、その方が客席で観ているような・・・舞台のどこかにいるような・・・そんな想いを感じた公演でした。（女性・60代）
- ・舞踏を観るのは初めてでしたが、大変面白かったです。（男性・30代）
- ・一般の市民がこういった特殊なパフォーマンスに参加するのが、意義があると思う。（男性・60代）



●この事業への応募動機

当劇場は2017年度よりダンス・レジデンス事業（豊橋アーティスト・イン・レジデンス）を開始し、継続的に成果発表会やワークショップを実施しており、ダンス事業はある一定層に根付いたと考える。しかし、これまでは単発の企画が多く、また、客層を広げられるほど大きな参加型企画を実施できていなかった。そこで本格的に出演者を募り、公演形式の創作活動を行うことはダンスの企画をより広い範囲へ周知する機会となり、さらにこれまで蓄積されてきた参加者層をより深くダンスの世界へと誘い、創作活動を通して身体表現や舞台芸術への理解をより一層深める契機になるのではと考え、本事業に応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

2017年にCプログラム、2018年にAプログラムを実施した当劇場は、新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期したのち、今年度ようやくBプログラムの実施にたどり着いた。

Bプログラムは事業のボリュームに対して日数が圧倒的に少ないため、短期間で良質な作品を創る環境を整える必要があった。そのためアーティストはこれまで関わりのある方をお願いするのは必須であった。田村さんを希望したのは、2018年のAプログラムで『豊橋妖怪百物語』と出会うきっかけがあり、原作者の内浦さんと豊橋妖怪ツアーを行う機会があったためである。3年前に蒔いた種を芽吹かせる機会を逃す手はなかった。郷土の物語と親和性が高い「舞踏」を扱った本公演が、ダンスが身近でない人にも届きやすい内容でありながら、多くの観客が新しい表現と出会うきっかけとなると期待した。

●企画実施にあたり苦労した点

オーディションから本番までの期間が長かったため、各参加者のモチベーションを維持するのに気を使った。それに対し稽古日数は非常に短かったため、身体的にも精神的にも参加者がついていけるかが非常に心配であった。新型コロナウイルス感染症が拡大している中ででのクリエイションは慣れるものではないが、各参加者が感染予防対策に気を配っていたので、体調不良者もなく終えられたのは幸運であった。

テクニカル面では田村さんが劇場とのやりとり非常に慣れているため、大きな問題なく上演まで実施できた。唯一、リノリウムや楽屋エリアについてしまった白塗りを落とすのに苦労をしたため、次回はしっかりと養生をすることを心がけようと思う。

●事業の成果と課題

本公演はコロナ禍にも関わらず早い段階で満席となり、当日はキャンセル待ちが出るほどの盛況となった。妖怪そのものに興味がある層、郷土物（今回は「豊橋妖怪」）に興味がある層、舞踏に興味がある層など各方面から観客が集まり、今回の「豊橋妖怪×舞踏」というコンテンツの強さを実感するとともに、公演日近くに見たいと思った方に席を用意できなかったのが悔やまれた。公演を2日間かけて2公演上演できれば良かったが、ダン活の枠組みでは日数的にも、市民参加者の体力的にも2公演は厳しいと思われる。短期集中型の企画だからこそ参加できたという声もあるため、今後市民参加型のダンス作品を創作する場合は、稽古期間をどのように設定するか検討する必要があると感じた。

●今後の事業展開や展望

市民参加型のダンス公演は3年に1度程度の頻度で実施できたらと考えている。今回のようにテーマがハッキリしている作品だと、コンテンツとして強いメッセージ性があることを実感した。

また、舞踏は毎年劇場が主催する大道芸のイベントで招聘しているが、今回の事業を通して改めて三河地域では舞踏に対する関心が強いと感じたため、今後舞踏の公演を招聘する可能性を探る機会となった。

●この地域のダン活の特徴

公演に限らずダンス関連企画を多数実践されている劇場だが、市民参加型のダンス公演創作は、意外にも今回が初めてということだった。

アーティストは、Aプロから継続の田村一行さん。Aプロ滞在時の出会いが発端で『豊橋妖怪百物語』（著者：ぼったり堂）をモチーフにした作品をつくることとなった。市民参加者は、既存の市民劇経験者、Cプロ時の公募WSに参加して以来ダンス企画に通っている方、バレエ経験者、舞台経験が無く劇場の企画は初参加の方々など、それぞれの想いを身体に秘めた魅力的なメンバーが揃った。

1回目のクリエイション（7月）では、舞踏の身体の使い方、振付の考え方などが、映像資料やレクチャーの時間も交えて丁寧に伝えられた。力を抜くこと、下半身を使うこと、テンポのある動きではなくゆっくり耐えるような動きなど、現代の西洋式の生活で使う身体とは異なる身体に出会う時間になっていたと思う。

2回目のクリエイション（11月）は短期間、平日連夜で仕事との両立など大変だったと思うが、日中から自主的に参加する方もいて、田村さんたちへの質問も途絶えず参加者の熱量はどんどん高まっていた。稽古がない期間も、一度オンライン稽古を設けたほか、LINEやYouTubeを活用した情報共有など、関係性を途切れさせない工夫が功を奏した。

「表現し過ぎない」こと、「踊らされている」という感覚や、一方では激しく全身を使う動きなど、難しかったり身体的に負担がかかったりすることもあったとは思いますが、田村さんたちと一つ一つの動きや作品に込めた想いを丁寧に共有して創作する過程は、参加者にとって実り多い時間となったことと思う。

作品は、様々な妖怪が登場し、現実とも夢ともわからぬ時空の中を彷徨う世界観が、舞踏の身体性を用いて、時にユーモラスに、時に神秘的に表現されていた。観客が観ていたのは人間なのか妖怪なのか、見えていなくてもきっと劇場に妖怪がやって来ていただろう、という豊かな余韻が残り満席の会場からカーテンコールが鳴り止まなかった。また、著者本人が語り部として登場したことや、琵琶の先生の生演奏が作品に彩と深みを持たせ、地域の魅力を存分に取り込んだ作品となった。

7月の公募WSは、親子のふれあいを楽しめるよう、未就学児を含む親子対象とした。デモンストレーションでは怯える子もいたが、最後には、嬉々として牛や鳥になって踊っていた。親子で身体をゆする、相手を操るなどのワークは、家に帰ってからも楽しんでいただけたのではないかなと思う。

●課題とこれからに向けて

公演チケットは早々に売り切れ、舞踏や豊橋妖怪に興味がある方など、普段と違う顔ぶれの観客が多数来場して下さったようだ。今回ほど「豊橋」を明らかに打ち出したことが意外と無いということで、地域の物語が舞踏との出会いを通して再び息づいたようにも感じられた。市民参加者も、初参加の方が半数くらいいたので、新しい層へアプローチしたいという劇場担当者の想いが叶ったのではないだろうか。

また、劇場のテクニカルスタッフの方々が稽古にずっとついてくださり、田村さんの意図を汲みながら日々音響や照明に手が加えられていた。貸し館事業などでは、プランからつくることがあまり無いそうだが、手厚い態勢で臨んでくださり、技術部内のコミュニケーションも深まったということだった。

豊橋は、今回でA、B、C全て終えたが、ダン活支援の活用や、劇場全体としてダンスにどう取り組むかを今後改めて考えていかれることと思う。今回出会った参加者や観客とのつながりを途絶えさせないよう、もちろん、ダンスだけに限らず、多様な形態の企画をバランスよく展開して欲しい。

舞台芸術はただ一つの正解があるわけではなく、劇場でアーティストや作品、共演者、ホールスタッフなど、様々なこと、人に出会うことで、一人ひとりの人生が豊かになっていく。そのことを、白塗りされることで見えてくる出演者一人ひとりの身体の美しさを眺めながら改めて感じる事ができた。

実施団体	特定非営利活動法人カルチャーネットワーク
実施ホール	白河文化交流館コミネス
実施期間	令和3年12月2日(木)～12月5日(日) 令和4年1月12日(水)～1月16日(日)
アーティスト等	アーティスト：康本雅子 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：小山まさし、ミウラ1号(音楽) テクニカルスタッフ等：奥野将徳(制作)
コーディネーター	宮久保真紀

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 12月2日(木) 18:30～20:30、小学生以上、500円、12名、小ホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■高校生と一緒に創るダンス公演『Taiwanwan』

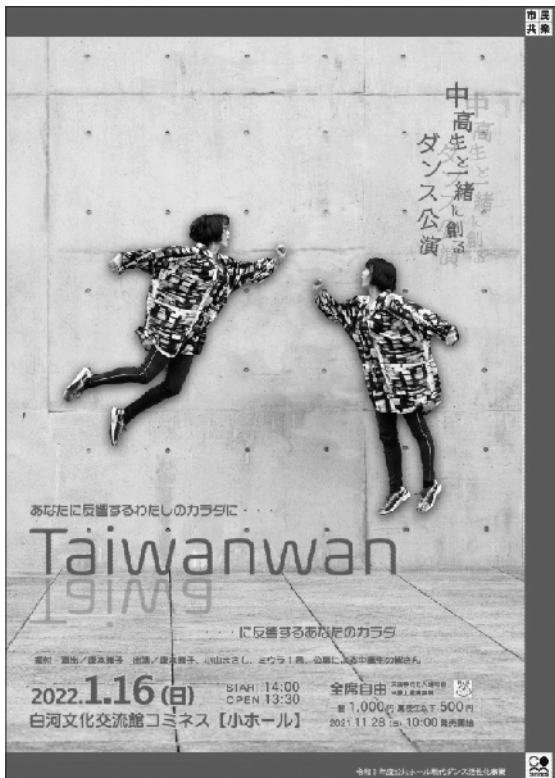
■1月16日(日) 14:00開演(13:30開場)

■康本雅子、小山まさし、ミウラ1号、奥野将徳、高校生(9名)出演者

■一般1,000円、高校生以下500円

■白河文化交流館コミネス 小ホール

■61名



ダンサー・振付家の康本雅子も中学生が、「コミュニケーション」をテーマに創りあげるダンス作品! 公演名の「Taiwanwan」には、身体ごとの「対話」によって、お互いの身体が反響していくイメージが込められています。コミネスに集まった一人ひとりの身体性や、創造性を生かして生み出される、ここでしか見られない一回きりのスペシャルな時間をどうぞお楽しみください。

振付・演出 / 康本雅子

出演 / 康本雅子(ダンス)・奥野将徳(制作)・小山まさし(ダンス)・ミウラ1号(音楽)

公演による中学生の皆さん、結婚前にお出向される方へのアフタートークを準備します。

「おひね」 原案提供 / Mavis Yamamoto

身体が互いの反響を促す「対話」の場。身体がダンスの作品を舞台内で舞臺する。多岐に渡るジャンルで活動し、心電図や身体測定器のデータを用いて、身体が互いの反響を促す。ダンス、ミュージック、パフォーマンスの融合。身体が互いの反響を促す。ダンス、ミュージック、パフォーマンスの融合。身体が互いの反響を促す。ダンス、ミュージック、パフォーマンスの融合。

公演入場券	観覧券
全席自由 2022/12/02(木) 18:30～20:30 2022/12/03(金) 18:30～20:30 2022/12/04(土) 18:30～20:30 2022/12/05(日) 18:30～20:30 2022/01/12(水) 14:00～16:30	小学生以上 500円 中学生以上 1,000円 高校生以上 1,000円 一般 1,000円 2022/01/16(日) 14:00～16:30

申込方法 コミネス内観覧券を印刷してご来場ください。

お問い合わせ 0248-23-5300

ネット予約 <http://www.comines.jp/ticket>

白河文化交流館 コミネス

〒974-8572 白河市本町1-1-1

TEL: 0248-23-5300 FAX: 0248-23-5311

主催 特定非営利活動法人カルチャーネットワーク

共催 白河文化芸術振興会 白河市文化芸術振興課 白河市文化芸術振興会 白河市文化芸術振興会

協力 コミネス・カナル・MMP&N

新型コロナウィルス感染症対策におかれましては、ご来場の際は、マスクの着用、手洗いや消毒、体温検閲をお願いいたします。

お急ぎの方のご予約は、お電話にてお願いいたします。

お急ぎの方のご予約は、お電話にてお願いいたします。

# スケジュール

Bプログラム 福島県白河市／白河文化交流館コミネス

	下見	
	6/13 (日)	6/14 (月)
9:00		テク打合せ
10:00		
11:00		
12:00	白河着	昼食
13:00	打合せ	打合せ
14:00	ホール下見	宣材撮影
15:00	語りの会	
16:00	地域映像	
17:00	エマノン	
18:00		退館
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①			
12/2 (木)	12/3 (金)	12/4 (土)	12/5 (日)
			テク打合せ
			昼食
		クリエイション②	クリエイション③
		↓	↓
白河着	打合せ		
打合せ			
WS 準備	準備		
公募 WS	クリエイション①	↓	↓
↓	↓	交流会	退館
退館			
	退館		

	実施期間②				
	1/12 (水)	1/13 (木)	1/14 (金)	1/15 (土)	1/16 (日)
9:00	舞台設営		照明仕込み		
10:00					舞台稽古
11:00					手直し
12:00					昼食
13:00		照明仕込み図作成		クリエイション⑦	休憩・準備
14:00	白河着		アーティスト稽古	映像撮影	公演
15:00	テクニカル打合せ	アーティスト稽古	映像撮影	場当たり	
16:00					フィードバック
17:00	クリエイション④	クリエイション⑤	クリエイション⑥		
18:00	↓	映像撮影	↓	通し稽古	
19:00		↓	↓	↓	退館
20:00	↓	↓	↓	↓	
21:00					
22:00	退館	退館	退館	退館	



### 公募ワークショップ

昨年度 C プログラムでは、コロナ感染症防止の観点から、小学生以上のお子様とご家族を対象としたが、今年度は、昨年度同様に感染症対策をとりながら、小学生以上どなたでも参加できるように、対象の幅を広げた。参加者は小学生から 70 代まで、各年代の人々が参加した。

音楽は、民族楽器を演奏するミウラ 1 号さんが、参加者の動きをみながら、即興で演奏した。生の音楽を聴きながら、体を動かす贅沢な取り合わせになった。ブレイクタイムには、各国の民族楽器を紹介していただき、普段聞きなれない音色に参加者も興味津々で聞き入っていた。

歩くなど日常的な動きから始まり、誰かが止まったら全員が止まる。周りを見ながら、自分の体をコントロールしていく。次に、球体の中に入っているイメージで、体全体を使って、その球体を手や足でなぞるというワークをした。このようにルールを決めるだけで、あとは、各々で好きなように体を動かしていく。振付があるわけではないので、最初はこうしたらよいか戸惑う様子が見られたが、徐々に慣れ、思い思いの動きになっていった。

後半は、2 人一組になって動くワークが多かった。背中を合わせて相手を感じながら動いたり、手と手をあわせ、主導者の動きに自分の体をゆだねたりした。床に座って骨盤を動かしながら後ろに歩く、最後はティッシュを手のひらにのせ、手を動かしながら、落とさないように歩いていく。人間は、体の使い方に癖や特徴があると思うが、相手の動きにあわせたり、ワークで行わなければ動かせないような動きをすることで、普段動かせない部位を無意識に動かすことが出来るようになってきているようである。

参加者からは、「普段動かせないところまで、動かして、思ったよりも運動量があり、良い運動になった。日常に取り入れたい。」小学生からは「もっとやりたい！」との声があり、とても楽しかった様子が伝わってきた。





## クリエイションの様子

### ●前半 クリエーション1日目(12月3日)

参加者5名が自己紹介をし、応募した理由、家族について話をした。その後制作チームとダンスチームと一緒に、2人1組になり、手を合わせて主導者の動きに相手が合わせる(同期する)ワークなどを行った。

### ●クリエイション2日目(12月4日)

参加者全員に、ファシリテーターの奥野さんから、今回の制作チームの担う事、又、チームとして主体的に考えること、建設的に物事を進めていくことなど、一緒に公演を創る心構えについて話があった。次に「哲学カフェ」と称して、「家族の好きなどころ、嫌いなどころ、良いところ、悪いところ」をテーマに話をしてもらった。最初に出演者が本音で正直に語っていたことで、参加者の気持ちに取り繕わなくても良いのだという気持ちが芽生えていった。それぞれの人柄や人生観がかいまみられ、参加者とアーティスト達のお互いを知る良い機会になり、ぐっと距離が近づいた印象だった。発言に慣れさせる効果もあった。

ダンスチームは、ストレッチをしながら、自分の体をどのように使ったら柔らかく動かせるか、また、オフバランス(バランスを崩す)、脱力(体の力を抜く)ワークを行った。

制作チームは、広報とは、何のために、何を、誰に、どうやって伝えるかの話し合いをした。

### ●クリエイション3日目(12月5日)

広報誌の表紙用写真撮影が行われた。

制作チームは、広報誌『コミネス通信』の表紙コピーと特集記事のインタビューの内容について考えた。その方法として、この企画を知ってもらうために、ターゲットを絞り人物像(パルソナ)を作っていく作業を行った。人物を想定するという思考のプロセスのレクチャーを受け、その人に情報を知ってもらうために何をすれば良いか、どうしたらホールに来てもらえるかを具体的に考え答えを導き出していった。

ダンスチームは、「しりとりダンス」で相手の動きを真似るところから始まり、自分の動きに繋げていった。そしてその動きを次の人が引き継ぐ。このダンスによって、康本さん、小山さん、他者の体の使い方(動き)も観て取り入れることも出来るようになっていた。ミウラ1号さんの即興で演奏される音に合わせて、それぞれが、即興で踊ることを身につけているようだった。



#### ●後半 クリエーション4日目 (1月12日)

舞台になる場所にリノが敷かれ、それを囲むように客席が設置された。後半からダンスチームに参加者が4名加わった。最初に簡単な自己紹介の後、ダンスチームは「球体ダンス」で球体の中にあるイメージを持ち、体の色々な部位を使って、その球体をなぞるワークを行った。制作チームは、ワークショップ、前半クリエーションの様子を、Twitter などSNSに載せる写真、文章を作成しアップした。康本さんは、最後に参加者にワークの感想を記入してもらい、話を聞くだけではなく、書いてもらうことで、参加者がどのように感じているかを読み解き、次のワークの参考にし、フォローアップできるように丁寧な対応をしてくださっていた。また、公演を知るという意味で、制作チームもダンスチームにまぎってワークを行った。舞台上を歩き、誰かと目が合ったら止まる、倒れる、ジャンプする、というルールの中かで、言葉だけではない対話や、人との関りを意識させる内容だった。

#### ●クリエーション5日目 (1月13日)

公演の中で上映する映像をひとりずつ、撮影した。

衣装は、日曜日に友達と出かける服装に決定した。

制作チームは当日パンフレットの内容を決め、原稿を作成した。出演者、参加者の紹介は、それぞれの人柄を漢字ひと文字で表現し、他者が紹介する形式にした。

ダンスチームは、公演のプログラムのパフォーマンスの基礎となる腕ダンス、こんにちは(お腹から声を出す練習)、バランスを崩す(オフバランス)、脱力、ミラー、しりとりダンスなどワークを行った。

#### ●クリエーション6日目 (1月14日)

プログラム構成が発表され、それに伴い、公演の流れや動きをシーンごとに分けてやってみた。太鼓をたたく、歌を歌う、司会、映像、机に座って手紙を書く、歩く、腕ダンス、しりとりダンス 康本さんが、参加者の個性や得意なところをうまく引き出しながら、作品の構成、演出を試しながら、創りあげていった。参加者も徐々に作品のイメージが掴めはじめ、最初の動きからは見違えるほど、それぞれ個性のある動きとなり、躍動感あふれるダンスになっていて驚いた。

#### ●クリエーション7日目 (1月15日)

場あたり、ゲネプロを通して、作品を観客に見せる為には、恥ずかしがっているのはダメで自分が楽しめなければ、観客は楽しめないこと、自分の体にどこまで集中しているか、体のひとつひとつのパーツに意識を向けることなど、体の解像度をあげる指導をしてくださった。制作チームは当日パンフレットの最終仕上げをした。



## 公演

## 令和3年度ダンス活性化事業 市民参加公演「Taiwanwan」



市民参加型コンテンポラリーダンス公演は当館にとっても初めての試みとなった。参加者には、普段ホールを利用する機会の少ない10代の若者を主に募集し、公演スタッフも同時に募集したところ、高校生9名が集結。ダンス経験がほぼないというメンバーだったが、康本雅子さんの「ダンスの発表会にはしたくない」との発言のとおり、各自が言葉ではない身体同士の対話を、ミウラ1号さんの民族楽器による即興の演奏にあわせて、表情、声のトーン、ダンス、歌、姿勢、距離でタイトルの『Taiwanwan』（身体同士の「対話」によって、お互いの身体が反響していくイメージ）を見事に表現、予定調和にならないスリリングな舞台が展開された。パフォーマンスの中には、映像や寸劇が用いられ、制作チームがどのようなことを考え、広報をしていったかという過程も挿入された。制作チームの1人が童謡を歌い始め、ダンスチームが、その歌に合わせて踊っていくというシーンもあり、五感に訴えかける演出が随所に見られた。

舞台は小ホールを平土間にし、それを取り囲むように客席を配置したことにより、出演者と観客の距離も縮まり、観客もさまざまな角度からパフォーマンスを楽しみ、作品の中に身を委ねる効果もあった。公演終了後にはアフタートークも行き、観客との対話も実現した。

康本さん、小山さん、ミウラさん、奥野さんは、「哲学カフェ」などのクリエイションを通して、最初はどちらかと言うと、引っ込み思案で恥ずかしがり屋タイプのメンバーから、個性や主体性を引き出し、良好な人間関係を築いていった。仲間としての結束や絆も生まれ、互いに刺激し合い、本番では全ての力を出し切るパフォーマンスを見ることができた。彼らにとって新しい世界が開かれ、今後の人生にもわずかだが影響を与えられたのではないかと思え、感無量であった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・企画、作品共に白河の未来に意識が向けられていてとても胸が熱くなって、心地良かったです。
- ・コンテンポラリーダンスも高校生企画のダンスも初めて見ましたが、クオリティが高く、びっくりしました。また見に来たいです。
- ・非日常的な動きで、人間って色々な動きができるんですね。生命の原点を観ているようでした。顔の表情は無いけれど体全体で表現するところがすごいと感じました。感動しました。
- ・ダンスだけでなく、その後のアフタートークでひとりひとりの思いがわかって良いなと思った。
- ・ダンスで言葉、対話を表現素晴らしい。
- ・生身の「からだ」を見つめ、味わい、気づくと触れ合っているような、繊細さ躍動を感じる素晴らしい舞台でした。
- ・最近、対話できてなかったかもと気づきました。面白かったです。
- ・ホール全体を使った大迫力のダンスで観ていて、とても楽しく、新鮮な気持ちになれました。
- ・外出する時間がないため、久しぶりの楽しい時間を心からありがとうございます。



●この事業への応募動機

地域の人々とアーティスト及びホールの交流を通じて、ホールとかかわりを持つ層を新しく開拓し、ダンスを楽しむ文化を広く地域で育てていく。また、個性が尊重されるコンテンポラリーダンスを通じて、身体を使ったコミュニケーション能力を高め、市民同士の交流や、表現する面白さを参加者が実感できる機会にしたいと思い応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

開館5周年を迎え、ホールを訪れる市民が固定化してきた感があった。新たな利用者層の獲得の手段の一つとして、ホールを普段、利用することが少ない中高生を対象を絞って、参加者を募集した。参加者にとって、企画に参加し、アーティスト達と出会い一緒にクリエーションすることで、学校以外の場で、新しい世界に触れてもらいたいと考えた。出演に躊躇する生徒も多いのではと懸念したことから、公演スタッフとして、広報や制作の仕事に興味のある人も同時に募集し、選択肢に幅を持たせた。また、このことにより、出演する側、制作する側の双方の交流が図れ、互いの役割への理解が深められることもねらいとした。また若者が出演することで同世代の集客につながるのではないかという思いもあった。

●企画実施にあたり苦労した点

苦労した点は、コミネスとあまり繋がりのない中高生に、どのようにしたら公演に興味をもってもらい、参加してもらえるかという点だった。

まず、地域の高校生を応援する「コミュニティ・カフェ・EMANON」の協力を仰ぎ、カフェで説明会も開いたが、前半クリエーションでの参加者は5名だった。模試など学生ならではの行事と重なり、すべての日程への参加は難しく応募できないという声が多く、後半からの参加もできるよう柔軟に対応した。高校などに出向き、直接、学生に前半の動画を観てもらいながら内容を説明し、これが功を奏し4名増え、高校生9名が参加することとなった。後半からの参加者や、欠席があった参加者は、参加できなかった時間に対して不安があったので、動画を見てもらったり、皆が同じグループLINEに入ることで、安心して、スムーズに参加できるように努めた。

前売り券が売れず、集客にも苦戦したが、制作チームを中心に、広報誌の記事を作成したり、SNSでの発信、参加者からの声掛け、EMANONでのチケット委託販売、公演のレビューを書いてくれる方を無料で招待する企画等も実施し、結果、当日券が売れ満席にすることができた。

●事業の成果と課題

今回の事業を通して、高校生の実情を知り、学校関係者や高校の演劇部顧問との繋がりができたことは、非常に大きな成果だった。

決まった振付がない中で、はじめは、自分を出せず不安も感じていたようだったが、各自で感じたままに表現する楽しさを徐々に感じてもらうことができ、表現の主体性の大切さや、多様な表現の魅力に気付いてもらうことができた。ダンスを通じて新しい価値観に出会う場となった。

出演チームと制作チームを設けながらも、お互いのやっていることを共有していったことで、色々な役割があることを知ることができ、公演を皆で創っているという意識が芽生えた。制作側は、間近でクリエーションを観て、時には参加し、どんな作品を作っているのか、どんな人に届けたいのかということを考えることができた。また、交流することで、参加者をより理解し、参加者の個性や魅力をSNSや会館広報誌、当日パンフレットなどで伝え、面白い広報をすることができた。そうした制作の過程自体が、作品に取り入れられ、作品の創造性にも広がり生まれたことも良い成果となった。

公演来場者の学生の割合は、全体の2割程度だったことは、残念であった。若者が公演に観にきてもらえる仕掛けや、仕組み作りをより検討する必要性を感じた。

●今後の事業展開や展望

3年間のダン活事業でできたアーティスト、参加者、関係各所の方々とつながりを大切に生かし、若者をはじめホールとかかわりが少ない人達が、来やすい、参加しやすい方法を模索していきたい。ダン活支援事業などを利用し、今回のように、公演スタッフも同時に募集し、若者と一緒に公演を創るコンテンポラリーダンス事業を、今後も定期的の実施し広めていきたい。

●この地域のダン活の特徴

アーティスト：康本雅子（前年度：康本雅子 [C プロ] 前々年度：田畑真希 [A プロ] ）

公演観客数：61 名

アンケート回収数：45 枚

公募ワークショップ：13 名（8 才～60 代）

東北の玄関口、白河市。東北新幹線で東京から 80 分の距離にあり、那須連山の東側に位置する。歴史や文学に覚えが深くなくても「おくのほそ道」「松平定信」「戊辰戦争」というワードから身近に感じる方も多いのではないだろうか。劇場名の「コミネス」は、この地を長く見守ってきた白河小峰城とコミュニティから由来する。

コミネスでの B プログラムは、6 月中旬に実施した下見打合せの際、市内に高校生が集まる古民家カフェの存在を知り、それをきっかけとして白河市内の中高生を対象に組み立てることが決まった。2020 年から続くコロナ禍の影響で減少してしまった身体でのコミュニケーションと対話を軸にし、出演者だけではなく制作者での参加も公募することになった。康本雅子氏にとっても、ダン活 B プログラムにとっても初めての試みである。制作側の講師として康本氏の公演に携わっている奥野将徳氏に依頼。さらに様々な楽器を演奏・自作する風景音楽家のミウラ 1 号氏とアシスタントダンサーとして康本作品にも度々出演している小山まさし氏がメンバーとして加わるようになった。

夏休み前から高校の演劇部などを中心に広く声がけをして 12 月上旬と 1 月中旬のクリエイション参加者募集がスタートした。秋には Zoom を使った参加者向けのオンライン説明会も実施。順調に進んでいるように思えたが、1 回目のクリエイション時期に高校演劇の大会や大学推薦入試が重なり、実施日直前まで参加表明者がほんの数名、、、という事態に。しかしながらコミネスの中沢氏、佐々木氏はぎりぎりまで諦めず、例の古民家カフェで制作に関心のある高校 2 年生男子に出会うことができた。前半のクリエイションは出演希望が 3 名、制作希望が 2 名の計 5 名の参加者。クリエイションは全員参加の身体ワークショップを含めつつ、出演組は動きや声出しの稽古、制作組は制作の基本の説明を受け、その中でも広報計画や月 1 で発行している劇場広報紙への掲載内容を決めるなど、具体的な内容で進んでいく。

1 月の後半クリエイションからの途中参加も認めようということになり、年明けから再度声がけをしたところ、さらに 4 名の高校生が増え、計 9 名のチームとなった。康本氏の構成で制作組の 2 名もいくつかのシーンに出演することも決まる。平日の水・木・金のクリエイション日は学校があるため、どうしても夕方以降から 3 時間ほどしか創作ができない。新メンバーとの新たなコミュニケーションをはかりつつの各シーンづくり。冬の悪天候の影響での電車運休や、コロナ禍の影響も混ざり、毎日全員が集まることの難しい中、日曜日の公演当日を迎えることになった。

縦長の劇場空間を舞台面の幅が横に広い形で使用し、その舞台面を 3 方向に囲んで設置した 60 席が満席となる中で上演。直前まで細かな指導を受けた高校生たちの驚くほどの集中力と、躊躇なきパフォーマンスは連日クリエイションに関わった私たちはもちろん、観客の方々の心を大きく揺さぶる素晴らしい大作となった。アフタートークも制作組が取り仕切り、出演者全員へそれぞれ違う質疑応答で上演だけでは伝わらない部分が肉付けされた。

「出演する」以外の部分をダン活 B プログラムに組み込むことは簡単ではないが、学びも多く、日頃から制作やプロデュースしている私自身も「舞台作品を人に届ける」ということについて改めて考える貴重な時間となった。今回の企画に携わった大人たちも皆同じ思いのはずだ。康本氏のダン活 B プロのレポーターとして、今後も各地でこの企画が広がっていくことを想像するだけでワクワクしてくる。上演だけで終わらない、次への活力が備わった企画だった。

●課題とこれからに向けて

今回の大きな特徴は、出演だけでなく「制作を行う」という視点が入ったこと。劇場担当者も指導する側と指導される側の両方を短期間でやったことは通常のダン活以上の会得があったはずだ。

若い世代が出演するから同世代が観にくるということを求めがちだが、すぐに結果はでない。少しずつでも長く継続することで少しずつ浸透していくのが文化事業というものだ、と私は考える。地元高校生たちとの貴重な繋がりになった今回のプログラムを発端とし、観客としてだけでなく、コミネスの今後を盛り立てサポートしてくれる人材として、また彼らの文化のふるさととなる劇場であり続けてもらいたい。





# Cプログラム

(公演プログラム)

# アイム・ユニバース てだこホール 実施データ

Cプログラム

実施団体	浦添市てだこホール指定管理共同企業体 ティダ・コミュニケーションズ&リレーションズ
実施ホール	アイム・ユニバース てだこホール
実施期間	令和3年7月1日(木)～7月4日(日)
アーティスト等	アーティスト：北尾亘 共演者：米田沙織、伊藤まこと テクニカルスタッフ等：中瀬俊介(映像)
コーディネーター	神前沙織

## ■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 7月1日(木) 18:00～20:00、ダンサー・俳優対象(年齢・経験不問)、1,000円、9名、市民交流室

## ■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

### ■『アンバランス』

■ 7月4日(日) 14:00開演(13:30開場)

■ 北尾 亘 (Baobab)、米田沙織 (Baobab)、伊藤まこと (Baobab)、河内優太郎、山田茉琳

■ 一般2,000円、高校生以下1,500円(当日各500円増)

■ アイム・ユニバース てだこホール 小ホール

■ 105名

**2021/7/4 (Sun)**  
開演14:00(開場13:30)  
アイム・ユニバース てだこホール  
小ホール

料金 一般2,000円 高校生以下1,500円(当日各500円増・全席自由)  
プレイガイド てだこホール管理事務室  
098-942-4360(営業時間 9:00-17:00)  
※当日は目録販売 ※休演日が祝日の場合は翌日休演日

振付・構成・演出 北尾 亘  
出演 北尾 亘 米田沙織 河内優太郎  
伊藤まこと 山田茉琳  
主催 アイム・ユニバース てだこホール  
共催 一般財団法人地域創造

北尾亘ダンスカンパニー「Baobab」沖繩公演

北尾亘ダンス・クリエイションワークショップ参加者募集中! (裏面参照) >>>

—北尾亘ダンスカンパニー「Baobab」沖繩公演— 『アンバランス』

【コンテンポラリーダンス×A】北尾亘が導くBaobab最新作。時代を貫く近未来SFダンスが特徴的。  
「ワークショップやアワードで賞状の方と別々」に、演劇ユニット等スタッフで構成されたチーム。非政府系非営利団体である事をとても誇りに思っています。最新のダンスとダンス制作の最新情報。  
Baobab主宰 北尾 亘

【Baobabパフォーマンス】2019年獲得した、上海北尾亘ダンスカンパニーの制作・演出・演出、主要アーティストによる最新の最新作を制作。11例の最新作を制作。過去12回の公演公演のほか、KYOTO EXPERIMENT 2019公式プログラム、Dance New Air、San Francisco International Arts Festival 2019など、国内外様々なフェスティバルに参加。若手アーティストによるダンスパフォーマンス「DANCE SCREEN」を毎年開催するなどダンス界の活性化に貢献する活動も積極的に行っています。  
スタッフ/映像/カメラマン/中瀬俊介 (演出) ナラティブデザイン 村本真樹 (パフォーマンス) 振付助手 米田沙織 (演出)

**北尾亘ダンス・クリエイションワークショップ**

新たな表現へのヒントを手に入れるためのダンスワークショップ。北尾氏自身による、「アンバランス」作品内の振付や創作の過程に触れ、最終的には【オリジナルの振付を創作する入り口に立つ】創造的な取り組みにチャレンジします。

日時 令和3年7月1日(木)19:00(18:30受付開始)  
場所 アイムユニバース てだこホール 市民交流室  
対象 現在、ダンスや演劇等の舞台芸術に関心がある方、新しい表現を手に入れたい方。また、クリエイティブな活動に興味を持っている方。演出・振付等の創作活動を行っている方。年齢・ダンス経験は問わない。

定員 20名  
参加料 1,000円(参加料含む)  
申し込み方法 6/25(金)まで、てだこホール管理事務室(098-942-4300)までお電話でお申し込みください。  
ご準備いただくもの 当日はタオル、飲料をご持参いただき、動きやすい服装でご参加ください。  
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員・中止となる可能性があります。あらかじめご了承ください。

北尾亘/振付家・演出家  
幼少期よりダンスとしてミュージカルを中心に舞台芸術に関わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なダンスを鑑賞。2009年、ダンスカンパニー「Baobab」を創設。自作作品の振付・構成・演出を行う。振付家として、舞踏や、KUNITO、水ノ下俊博などとの共同制作作品のほか、NHK連続テレビ朝日「半空、音」などTVドラマ、CM、映画にも振付を提供。ダンサー仲間として、北尾良平、多田洋之介、杉原亮生、中塚貴弘、山本康史などの作品に出演。舞臺人の仲間として「なんなん」メンバーとしても活動。表現は多岐にわたる。また、日本全国でWS活動やアワード活動を展開し、ダンスの普及活動にも積極的に関わり、島根県スチオアートアーティスト、鹿児島県大学、筑波大学、多摩美術大学、東京芸術大学、2018年「パシフィック」(ベストパフォーマンス)、ベトナム「ニューマーケットダンスパフォーマンス」(OUTSTANDING PERFORMER) (2020年) ノーブル賞、多数受賞。

【お問い合わせ】  
アイム・ユニバース てだこホール  
〒901-2103 沖縄県浦添市件内1-8-3  
TEL 098-942-4300 FAX 098-942-4338  
E-mail tedako@tedakohall.jp  
https://www.tedakohall.jp/  
営業時間9:00～17:00(第2・4曜休演)  
※月曜日の場合は翌休演日の場合となります。

開催中のコロナ対策もつおまひ

【駐車場は近隣施設との共有駐車場となります】

# スケジュール

Cプログラム 沖縄県浦添市/アイム・ユニバース てだこホール

	下見	
	4/5 (月)	4/6 (火)
9:00		
10:00		広報打合せ
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	集合	広報撮影
14:00	ホール下見 テコ加打合せ	↓
15:00	↓	↓
16:00	↓	現地演劇人と 交流
17:00		移動
18:00	移動	解散
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
7/1 (木)	7/2 (金)	7/3 (土)	7/4 (日)
仕込み	音響・照明 チェック	集合	手直し
↓	↓	場当たり	↓
↓	↓	↓	↓
映像仕込み	場当たり		開場
↓	↓	↓	公演
↓	↓	↓	↓
打合せ			アフタートーク
公募 WS 準備		↓	バラシ
公募 WS		ゲネプロ	フィードバック
↓	↓	↓	↓
移動	移動	移動	移動

## 公募ワークショップ

平成30年度のAプロに続き、2度目のダン活実施となった今回は、ダンサーや演劇人へ向けて「新たな表現を手に入れる」「オリジナルの振付を創作する入口に立つ」ことを目的に、スキルアップワークショップとして企画した。年齢やダンス経験は不問としたが「クリエイティブな活動に熱心に取り組んでいる方・演出や振付等の創作活動を行っている方」という基準を設け募集した。応募は当初伸び悩んだが、10名の申込があり、最終的には9名が参加した。

参加者の多くは、バレエやストリートダンス経験のある10代～30代までの若い層。市内キッズダンスの子どもたちも多く参加しており、みな柔軟に、新しい表現を習得しようと取り組んでいたのが印象的だった。初めは、小学生の参加については、内容的に難しいだろうか……と思ってお断りしようかとも思ったが、次代を担う子どもたちには少しでも貴重な経験をしてもらいたいとの思いも強くあったため、北尾氏に相談の上、受け入れていただいた。結果的には、引率の親御さんたちも見学しつつ参加していただけるなど、親子で楽しんでいただけたので良かった。

入念なストレッチから始まり、前半は「朝起きてからの日常動作をダンスにしていこう」、「一つのキーワードから自由に身体を動かす」など、北尾亘流の創作のアプローチを体験した。後半は、参加者それぞれ自由にキーワードを決め、前半で学んだアプローチを使い、各自、短めの創作を行った。

最後には『アンバランス』の振付の一部をカンパニーの皆さまが披露し、公演のプロモーションも行っていただいた。これが大成功で、ワークショップ後に会場で公演のチケット販売を行ったが、参加者のほぼ全員が購入・来場してくださった。また、アンケートの回答率も高く、内容も「ダンスのイメージが大きく変わり、すごく楽しかったです（参加者）」「自分でもよく分かっていないコンテンポラリーの世界を楽しく分かりやすく教えていただいた（参加者）」「自由に踊っているんだということを知ってもらえたようで良かったです（保護者）」など大変好評で、満足度の高いワークショップになった。





## 公演

## 北尾亘・ダンスカンパニー“Baobab” 沖縄公演『アンバランス』



開催の2週間前に緊急事態宣言が延長となり、ぎりぎりまで開催の判断に迷ったが、「こんな時期だからこそ、地域へ生のダンスを届けよう!」と、実施に踏み切った。当初は、前売チケットの販売数が伸びず集客に苦戦したが、開催3日前から急に伸び始め、結果150名キャバの会場で105名の方々にご来場いただいた。

主に若い観客層へ「攻めた作品・挑発的な作品」「圧倒的なライブ感とエネルギー」を届けたいとの思いから、上演作品は北尾さんと協議の上『アンバランス』を選定した。共演者については「作品の魅力を伝えるにはカンパニー公演としての上演が良いだろう」との判断から、ダン活枠2名にプラスしてダン活枠外で2名のダンサーをお招きした。会場となった小ホールは、すり鉢型で舞台面と客席がフラットにつながっており、演者と観客との一体感を得やすい。このことが、作品の「AIが空間を支配していく」内容と大変相性が良かった。上演後は、北尾氏と同世代の、県内で活動するダンサーお二人をお招きし、コンテンポラリーダンスの見方や楽しみ方をお伺いするアフタートークを実施した。アフタートークについては「求められてなかったらどうしよう」と、はじまるまで不安だったが、来場者は、みなメモを取るなど終始真剣に聴いてくださっていた。

アンケートの回収率も高く、内容も大変好評で、コロナ禍の今なぜ実施するのか、「ダンスを上演する意義」について改めて考えさせられた公演だった。本公演の持つエネルギーが、観客の皆さま方の日々の活力になってくれたのなら、とてもうれしい。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・ダンスに対する考え方が変わり、もっとダンスを楽しもうと思いました。自分らしく踊って良いんだと思えました（10代・女性）
- ・この時期に劇場主催で公演すること、意義、息づかいが聞こえ舞台を見ていることが嬉しかった（30代・女性）
- ・観せるよりも、踊っている人がどう感じるかっていう考え方を初めて知って斬新でした。でも観客との温度差や、コミュニケーションはどういう風にとられるかとかも気になりました（20代・女性）
- ・みんな、はく力があってカッコ良かった。自分もみんな（わたるん・まりんちゃん・まこちゃん・よねちゃん・ゆうち）みたいにカッコ良くおどれるようにがんばろうとおもったから（9歳・女性）
- ・検温や消毒だけでなく、チケットを自身で切るなど対策がしっかり取られていた為安心して楽しく、最後まで見る事ができました。ありがとうございます。（20代・女性）
- ・コンテンポラリーダンスを初めて観ました。何と言葉にしていいいのか、まだまとまってないので決めきれませんが、一言でいうと多くのことを考える時間をもらえました（20代・男性）

**●この事業への応募動機**

もともとは、Aプロ、Bプロでダンスの魅力を広め、Cプロで集客につなげる……という計画だったが、Bプロがコロナの影響でR4年度に延期になってしまい、先にCプロを実施することになってしまった。しかし、結果的にはアーティスト自身や作品が持つエネルギーを、ライブで体感してもらうことで、観に来た方へダイレクトにダンスの魅力を伝えることができたと思う。

**●事業のねらいと企画のポイント**

WS・公演ともに、主に若手のダンサーの感性を刺激し、新たな発想を生み出すきっかけづくりになることをねらいとした。そのため、上演作品は、表現方法やコンセプトなどが先鋭的な作品を選定。広報も、ホールのHPおよびSNSの活用、コミュニティラジオ各局へ出演しての公演告知を重点的に行った。結果的に、WSでは市内で活動するキッズダンスチームや、若手のダンサーとの出会いもあった。

**●企画実施にあたり苦労した点**

担当者の私が事業について不慣れであり、広報物の校正、テクニカル面での折衝などのスケジュールが全体的に遅く、皆さまに多々ご迷惑をかけてしまったことが反省点だった。北尾さん、神前さん、畑さんには、事業を実施する上でたくさんのご指摘・激励をいただいた。今後は、反省を活かして、早めに気づき、進行するよう心掛けたい。

また、ダン活の直前に実施を予定していた、北尾さんを講師に迎えてのアウトリーチが、実施校の意向で急遽延期になり、ホテルとの減泊の調整や予算のやりくりなどをしなければならなかった。ワークショップの実施時間も、緊急事態宣言の期間延長に伴い、前倒しかつ時間短縮で行わざるを得なく、カンパニーの皆さまには負担をおかけしてしまった。

**●事業の成果と課題**

緊急事態宣言によって、公演直前に様々な変更が発生し慌ただしくなったが、館長をはじめとする自主事業班や事務所スタッフのみんなが助けてくださり、何とか乗り切ることができた。また、本番当日のレセプションスタッフが足りず、コーディネーターの神前さんや地域創造の畑さんにも手伝っていただいた。おかげで円滑な当日運営ができ大変助かった。レセプションスタッフの確保は、今後も課題となってくるはずなので、早めに対策を打ちたい。私自身の課題として、人に業務をお願いすることが申し訳ない……と感じ、なかなかお願いできないところがあるので、風通しのいいコミュニケーションができるよう、普段より意識したい。また、今後は全館あげて事業に取り組むために、公演の魅力を都度全スタッフに語り、伝えることで盛りあげていくよう工夫して行きたい。

**●今後の事業展開や展望**

Aプロ・Cプロの実施を経て、地域の方々へ着実にコンテンポラリーダンスが浸透してきた実感がある。次年度は、R2年度から延期になったBプロの実施があるが、Bプロでは地域の老人会や子ども会、通り会とも連携していく予定なので、そこにAプロ・Cプロでつながりを作ったダンサーの方々にもぜひ参加していただき、地域からコンテンポラリーダンスの魅力を発信していきたい。また、ダン活終了後は支援事業を活用するなど継続してダンス事業を行い、「てだこホールといえばダンスだよね」と県民の皆さまに思ってもらえるような親しみの持てるホールにしていきたい。

●この地域のダン活の特徴

浦添市は沖縄本島、中心部である那覇から車で15分〜20分ほど北に位置する。沖縄県ではコンテンポラリーダンスの公演を観られる機会がこれまではほとんどなかった。したがってコンテンポラリーダンスの観客は、ほぼ存在しないし、その公演だけで集客を行うのは島であることから、たいへんハードルが高いことである。そのような中、てだこホールでは、「ダン活」を通して経験と実績を積み、ダンスを地域に届けているホールと認識されるよう、継続的な事業展開を試みておられる。具体的には、文化庁の子ども育成総合事業にて、浦添地域の小中学校アウトリーチに音楽だけでなくダンスのアーティスト（H30年度にAプロで関わった北尾さん）を入れるようになっている。

R3年度はC公演プログラムで、2年ぶりにAプログラムと同じアーティスト・北尾さんのカンパニー作品を上演する事になった。経緯として、前述の文化庁アウトリーチ事業と日程を兼ねて行う事で、ダン活の出演者枠を超える部分をホールが負担する方法で実施された（コロナのため、残念ながら文化庁アウトリーチ事業は直前に中止になったが、ホール側でダン活枠外の費用を負担された）。上演作品は『アンバランス』という北尾さんがR3年度に他地域でも再演を重ねて育てていく予定の作品で、出演者5名+映像・ドラマトゥルグ1名のダン活にしては大人数の公演となった。

ダン活枠外の事ではあるものの、コンテンポラリーダンスの作品を観る機会もほとんどない地域でカンパニー作品を上演できるとあって、広報においてもその点を特に強調して行われた。公演チラシ・ポスターは、それまでホール職員が手作りで製作されていたが、デザイナーを入れてアートに関心が深い層に訴えられるよう工夫された。このデザイナーの方には、R4年度のダンス事業でも関わっていただいている。

折り悪く新型コロナが蔓延し始め、緊急事態宣言下で公演日を迎える事となったが、延期ではなく実施を決意されたのは、それまでの経験から、これからもっと感染者が増える事が予想されたからと伺った（実際にその通りになった）。やはりお客さんの出足は通常時ほど良くはないものの、招待券も合わせて100名近くの来場者となり、広報努力が実った結果となった。観客の反応はホール報告書をご覧ください。

公募ワークショップでは、県内の表現者のスキルアップを目指し、ダンスまたはパフォーマンスの経験者を対象に北尾作品のレパトリーのほか、創作にチャレンジする時間を設けた。ヒップホップやバレエなどの経験者に集まっていただく良い機会になったと思う。

●課題とこれからに向けて

R4年度はB市民参加作品の上演に向けて、準備中であるが、このタイミングで隣接する那覇市に文化芸術劇場がオープンした。沖縄本島のモノレールは那覇から最近になって浦添のホール近くまで延長されたものの、最寄駅からてだこホールまでの距離を考えると、やはり車で移動する人がほとんどであると聞く。集客の面から考えると、今後、内地からのコンテンポラリーダンス作品のツアー先として想定される公共ホールは、浦添から那覇に移っていく可能性が高く、プログラムによっては地域の捉え方を沖縄県全域に広げ、県内のホール同士が連携する取り組みを行っていかれると良いと思う。

てだこホールの良さは、地域密着である点にあると思う。稼働率も高く、事業担当者のほかにも、常駐のテクニカルスタッフさんがホール利用者顔見知り仕事で温かい空気に包まれている。他の劇場との連携を取りながらも、浦添のホールでしかできないプログラムを発信して欲しい。そのひとつが、R4年度に上演する市民参加作品になると思う。

実施団体	公益財団法人野々市市情報文化振興財団
実施ホール	野々市市情報交流館カメラア ホール椿 / 野々市市文化会館フォルテ 大ホール
実施期間	令和3年12月16日(木)～12月19日(日)
アーティスト等	アーティスト：藤田善宏 共演者：村田正樹、酒井大輝 テクニカルスタッフ等：相川貴【音響】、株式会社金沢舞台
コーディネーター	神前沙織

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 12月16日(木) 18:00～20:00、小学5年生以上、500円、22名、情報交流館カメラア ホール椿

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『クリスマス』

■ 12月19日(日) 14:00～15:00 (13:30開場)

■ ニヴァンテ(藤田善宏&村田正樹)

■ 一般1,000円 高校生以下(4歳以上入場可) 500円 ファミリーペア割 1,300円 ※当日券は300円増

■ 文化会館フォルテ 大ホール 舞台上舞台

■ 112名

野々市市 市制施行 10 周年記念公演  
令和3年度 公民ホール現代ダンス活性化事業

絵本のような世界観をカラフルに演出する  
ユーモアたっぷりのちょっぴり不思議な物語  
子どもも大人も楽しめるダンス劇公演  
ニヴァンテ クリスマス  
野々市市文化会館フォルテ 大ホール  
2021.12/19 [日] 14:00～(13:30開場)

作・演出  
藤田善宏  
共演  
ニヴァンテ  
【藤田善宏&村田正樹】

ニヴァンテ  
クリスマス  
子どもの願いを叶えるため  
サンタ見習いのクリスマスは魔法のツツを盗み取る

ようやく届いたその魔法には  
ある重大なヒミツが隠されていて……

時として突きつけられるリアルな選択 揺れる心の情景を  
ファンタジックに描いたサンタの弟子たちのおはなし

ニヴァンテとは？  
藤田善宏と村田正樹が演じた、コンテンポラリーダンスとタップダンスが融合したパフォーマンスユニット。独特の世界観を持つ2人の掛け合いが、まるで子供の想像世界を再現したかのようなファンタジーとした世界観を演出します。舞台のなかから立ち上るサウンドトラックが盛り上がり、心と体を揺らす。舞台が終わるとさあもう即行ワールド全開！

出演者  
藤田善宏  
村田正樹  
ニヴァンテ

チケット料金  
全席自由 ※前日券は各300円増し  
●一般→1,000円 ●高校生以下(4歳以上入場可)→500円  
●ファミリーペア割(一般と子ども)→1,300円  
※ファミリーペア割は1組1名限定です。  
※小学生4歳以上の申込は、3人組の申込必須。

チケット取扱  
野々市市情報交流館カメラア / 野々市市文化会館フォルテ

野々市市情報交流館カメラア  
☎076-227-6200  
住所 野々市市南町1-1-1 野々市市情報交流館カメラア1階  
アクセス  
JR野々市駅より徒歩10分  
地下鉄野々市駅より徒歩10分  
バス「野々市駅前」下車徒歩10分

公演日 2021.12/16 [木] 18:00～20:00  
会場 野々市市情報交流館カメラア ホール椿  
対象 小学5年生以上から大人まで 20人前後  
参加費 500円  
申込 カメラアホームページから専用フォーム  
お問い合わせ 11:30～17:00 (土日・祭日も受付)



# スケジュール

Cプログラム 石川県野々市市／野々市市情報交流館カメラア / 文化会館フォルテ

	下見	
	7/27 (火)	7/28 (水)
9:00		市長表敬訪問
10:00		打合せと 宣材撮影
11:00		↓
12:00	集合	昼食
13:00	市内視察	テクニカル 打合せ
14:00	↓	↓
15:00	↓	↓
16:00	↓	↓
17:00	インリーチ	全体打合せ
18:00	↓	退館
19:00	退館	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
12/16 (木)	12/17 (金)	12/18 (土)	12/19 (日)
	ホール入		ホール入
	テクニカル確認		最終調整
	↓	ホール入 ストレッチ等	昼食
	昼食	昼食	開場準備
	全体打合せ・各 セッション確認	各セッション 調整等	開場
集合	↓	ゲネプロ準備	公演
全体打合せ 会場確認	場当たり・部分 通し・修正等	ゲネプロ	終演・客出し
公募 WS 準備	↓	修正	撤収・ 振り返り会
↓	↓	全体打合せ	↓
公募 WS	↓	退館	退館
↓	退館		
片付け	顔合わせ		
退館	↓		

## 公募ワークショップ

野々市市 市制施行 10 周年記念

コンテンポラリーダンスワークショップ 野々市オリジナルダンスをつくろう！

コロナ禍のため直接の接触は極力控えつつも、自己表現や言葉を越えたコミュニケーションを楽しむことを主眼に開催。今年は当市が町から市になり 10 周年の節目の年にあたるため、野々市に関するオリジナルダンスづくりに挑戦し、野々市をダンスを通して表現することで、当市の魅力を広く発信することに繋げることも目的とした。藤田さんからの「頭をからっぽにして、脳を柔らかく身体も柔らかく」の呼びかけから始まり、ジョークを交えながらの軽快なトークで進行。ウォーミングアップの後は、ペアとなり両手を合わせて運転するイメージで相手の進路をコントロールするというワークを実施（感染症対策として手袋着用）。その後、道具（椅子）を使ったダンスの前段として、変則型椅子取りゲーム（鬼 vs 参加者全員）を実施。鬼役の藤田さんのコミカルな動きと、鬼に椅子を取られまいとコミュニケーションしながら必死に移動するドキドキ感で参加者同士の一体感が生まれ、大いに盛り上がった。ゲームを通して道具に慣れた後、ペアで椅子を取り合う動作を工夫し、考えた動きを発表した。後半は野々市オリジナルダンスづくり。野々市にまつわるキーワードを挙げ、その中からじょんから踊り、椿、のっティ、ヤーコン、チャンピオンカレー、カレード（図書館）、縄文土器を選定し、その動きのイメージをみんなで出し合い、椿が開花する、カレーを食べて汗ばむ等の振付を藤田さんが即興で考案して音楽（野々市に伝わる富樫略史音頭のサンバ調アレンジ曲「じょんから・la」）に合わせて踊った。撮影した動画は後日 HP で公開予定。あっという間の 2 時間、盛りだくさんな内容だったが参加者の集中力は途切れることなく、達成感に満ちた表情だったのが印象的。「遊びながらするダンスはとても楽しかった」、「なんでもダンスにできるんだと思った」などの感想が参加者から挙げられ、ダンスは特別な存在ではなく気軽に日常に取り入れられることができること、身体を使って表現することやコミュニケーションすることのおもしろさを実感いただけた様子だった。



## 公演

野々市市 市制施行 10 周年記念 ダンス劇公演 ニヴァンテ『クリスとスマス』



当初は昨年度に開催予定だったが、コロナ禍の影響で延期を経てようやくの開催。コンテンポラリーダンスとタップダンスが融合したパフォーマンスユニット「ニヴァンテ（藤田氏&村田氏）」の演目「クリスとスマス」は、サンタの弟子二人による、ドタバタしながらもユーモアたっぷり、ちょっぴり不思議なダンス劇。当初は情報交流館ホール椿での開催を予定したが、機材設備も充実していて、パフォーマンスの息づかいやタップダンスの音も間近に感じていただける文化会館フォルテ大ホールの舞台上舞台を会場とした。コロナ禍で自粛を余儀なくされた期間が長引き、子どもも大人も不安やストレスが募ってしまっている今、クリスマスにちなんだダンス劇公演を開催することで、市民の疲れた心を癒すとともに、生の舞台の魅力や表現の多様性に触れ、豊かな感性や寛容性を喚起することを主目的に実施。ニヴァンテのお二人の圧巻のパフォーマンスは1時間の公演の中に様々な要素が詰まっていて、コンテンポラリーダンスの身体表現に観客は魅せられた。言葉をほとんど使わないが小物を巧みに使い、タップダンスも効果的に取り入れられていて、様々な情景や心情を表現。観客は想像力掻き立てられる、感情揺さぶられるひとときとなった。ニヴァンテの動きに対して、子どもたちがたくさん反応してくれていたことも嬉しい。チケットは公演一週間以前に完売したため残念ながら当日券をお出しすることはできなかったが、完売後にキャンセル待ち受付した20名弱の方々には、急遽調整した追加席で観ていただくことができた。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・子供が喜ぶしかけがたくさんあったり、大人もどうなるの？とドキドキする話の展開でとても楽しめました。タップダンスのときのお二人の迫力のあるダンスに胸アツで感動しました！とてもよかったです。また野々市にきて下さい！
- ・距離も近くとっても楽しかったです！素敵な時間をありがとうございました。子どもたちもとっても楽しんでいました。また野々市に来てください。まっています！
- ・話の内容がクリスマス+心をなごませる内容で子どもたちにとっても勉強になる内容だったと思います。また違う内容でもみたいと思いました。ありがとうございます。
- ・息づかいや細かな身体の動きの音が聞こえて、ライブの臨場感を楽しめとても感動しました！！内容もすばらしく、笑いあり涙ありのとてもおもしろい演出で最高でした。本当にありがとうございました！！私も体幹きたえます！！
- ・言葉が少なくても表情や手などで気持ちが伝わってきてすてきでした。楽しい場面、せつない思いの場面があり、考えさせられる内容でした。
- ・楽しい劇なのかなと思っていたのですが、想像を超えて、とても感動し、心がゆさぶられました。色々な感情を感じることができ、素敵な劇を見せていただきありがとうございました。
- ・4歳の子どもの笑いがわかって大笑いしていました。内容が壮大で最後涙が出ました。タップダンスがすばらしかったです。
- ・またお正月にきてほしいです
- ・ハロとウィンをしてほしい。

### ●この事業への応募動機

ダンスを通じた「新しい自分の発見」や「新しい関係性の構築」、「生活にダンスを取り入れてより豊かに」等を目的に実施した初年度の地域交流プログラム。アウトリーチとワークショップにより、身体さえあればいつでもどこでも誰でも楽しめるダンスの可能性を市民に感じていただき、確かな手ごたえがあった。2年目となる今回は、今後、集大成として目標にしたい市民参加作品創作プログラムに向けて、プロの公演を観てダンスに触れる層を厚くしつつ市民の踊りたい熱を高め、地域の特性を活かした作品に繋げるべく、公演プログラムに応募。担当職員は舞台企画の経験がないため、職員の企画制作ノウハウの取得や、舞台関連の知識向上とスキルアップも目指した。なお、住みやすいまち日本一に選ばれた当市が、町から市になって10周年の節目のため、今後も住みやすいまち、訪れて楽しいまちであることを願って周年の冠を付けて開催。

### ●事業のねらいと企画のポイント

子育て世代が多いため、公演は子どもから大人まで幅広い世代で楽しめる演目を選定。親子連れ層の集客を見込み、できるだけ子どもは前列で観てほしい、感染症対策として座席間隔を一定距離空けるが家族単位は間隔を空けずに配置することで一席でも客席を増やしたい、セット割引でお得感を出したい、という想いから「ファミリーペア割席」を1・2列目限定で販売したところ、早々に売り切れた。来場者のほとんどが市内及び近隣市在住の親子連れで、当初の狙い通りの客層となった。公募型ワークショップでは、感染症対策の制限がある中でも、新しい表現や言葉を越えたコミュニケーションのおもしろさに触れつつ、ダンスを通じた地域資源の掘り起こしを目的とした作品づくりに挑んだ。普段何気なく触れている地元の名産や名所が、参加者みんなで出したアイデアとアーティストのセンスによって即興的にダンスとして形になり、自分たちが住むまちの魅力を身体を動かしながら感じて、更には広く発信するという稀有な経験に繋がった。

### ●企画実施にあたり苦労した点

幸い公演集客の懸念はなかったが、チケット完売後は、こんな状況でも観に来たいと言ってくれる方のために一席でも客席を増やしたい、けれども感染症対策を考慮すると無理はできない、というジレンマに陥った。ガイドラインをベースにしつつ、関係者それぞれの立場、地域性、考え方に温度差がある中で、安全な環境で安心してご参加いただける感染症対策のラインはどこなのかを探ることに苦慮した。また、当初公演を予定していた会場の情報交流館ホールは機材が簡素、感染症対策を考慮すると空間を取りにくい等の理由から姉妹館の文化会館での開催となったが、慣れない会場での調整に戸惑った。加えて、舞台公演の担当は初めての経験だったため、全体的な流れや役割分担、人員配置含めて手探り状態だったため至らない点が多々あったかと思うが、関係者のみなさんに教えていただき、支えていただきながらなんとか進行できた。

### ●事業の成果と課題

公演後に「号泣した」との声を多数聞き、演目の結末にも関連するが、困難な状況でも前を向いて立ち上がろう、光を見つけて進んでいこう。というメッセージが物語に込められていて、未だコロナ禍にいて様々な我慢や制限がある今だからこそ、いつも以上に観客のみなさんの感動が大きかったように思う。このような状況下で、この公演を市民のみなさんにクリスマスプレゼントとして無事に届けることができたこと、先の見通しが立たない中でも協議を重ね、工夫しながら関係者が一丸となって取り組めたことが大きな成果。今回のダン活を通して、地元テクニカルスタッフや職員と一緒に試行錯誤しながら公演に関わることで新たな関係性を築けたと思う。ワークショップでは終始笑いが絶えない環境で、楽しみながら地域の魅力をダンスを糸口にして掘り下げることができたのは、ひとえに担当いただいたアーティストの藤田さんの力だと感じた。潜在的に眠っている地域の魅力を更に掘り下げ、どのような形でダンスを継続していけるかが課題。

### ●今後の事業展開や展望

情報交流館（市役所併設）が市の機構改革に伴い行政棟になるため今年度で閉館となる。これによりこれからの事業方針、組織体制も変化するため不透明な状況ではあるが、ダン活事業は大変好評で、アンケートでもダンスに興味がある方が多数いらっしゃるため、今後もダンスを通じた多様な表現の可能性を探りたい。



●この地域のダン活の特徴

石川県野々市市は、金沢市の西側に位置する人口 54,000 人の市で、金沢のベッドタウンとしても人気があり、2 年連続で住みやすい街日本一となるなど、若い家族が多い。

10 年前に町から市になるタイミングで地域創造の助成により行った市民劇の担当・古源さんが、その後も市民劇を育てつつ、ジュニアオーケストラを立ち上げて育成され、次はダンスを行いたいと、3 年前にダン活に申し込まれた。ダン活の担当になった松田さんは、これまで舞台芸術の制作を担当した経験がなく、全てが初めての中で、古源さんや他のフォルテの職員さんとも連携しながら事業を進めていかれた。当初は心配もあったが、対面での下見以降は舞台技術スタッフ（金沢舞台）さんとしっかり相談しながら受け入れ準備を整え、楽しみながらこのダン活を担当されていた。

昨年 R2 年度に実施予定だった C プロでは、親子で楽しめるクリスマスを題材にしたダンス作品「クリスマス」をクリスマスの時期に設定し、ターゲットを絞って広報を行われた。初めはコロナ禍の影響も大きく反応が鈍かったそうだが、全小学校にチラシを配布したところ申し込みが殺到し、約 100 席の前売りが公演の一週間前に売り切れ（テクニカルな点を考慮して、大ホールに舞台上舞台を組んだ。最終的に 20 席ほど増席）。特に「親子席」が人気だったと伺った。当日の様子は微笑ましいもので、2-3 組の大人を除き、ほぼ全ての観客が親子（家族）でご来場され、サンタの衣装を着てきた子も何人かいた。コンテンポラリーダンスには、子ども対象や親子で楽しめるといった作品はあまり多くないか、アーティストのレパートリーにあっても、劇場で上演する機会がなく目に触れないことが多いため、親子対象の公演は私にとっても新鮮でヒントになることが多々あった。

また、公募ワークショップでは、野々市市政 10 周年記念のオリジナルダンスを創作してほしいという松田さんの希望に、アーティストの藤田さんが応えてくださった。短いワークショップの中で、参加者から出された「野々市と言えば「〇〇」」を振付の素材にして、野々市のサンバの拍子に合わせ、あっという間に 1 曲分が完成、小学生—50 代まで約 20 名と一緒に踊るダンスムービーを撮影した。ちなみに、上述の市民劇団の役者でもあり、最近、劇作も行うようになったという若い人たちが参加していて、ここでも野々市市情報文化振興財団が育ててこられたコミュニティの芽の成長を感じた。他にも、市の文化課長で野々市市のプラタモリと呼ばれる田村さんなど、ユニークな方々が参加され、楽しく温かい時間だった。

●課題とこれからに向けて

R4 年度から市の組織運営体制が変更され、これまで市役所の中にあった財団の事務所も、担当者も配置換えになる可能性があるとのこと。残るダン活 B プロは体制が整うまでお休みされる。古源さんから松田さんに引き継がれたパフォーマンスの制作のノウハウを、ぜひとも定着させていってほしいと思う。他にも、フォルテホールを管理運営する部署のスタッフさんにもお会いしたが、皆さん仲が良くチームで楽しんで取り組まれているのが印象に残っている。C プロから、ターゲットを絞ったかたちのダンス公演の行い方や、そこに潜在的なお客さんがいる手ごたえをつかんだはず。その手ごたえをヒントに、これからも「こうしたら面白いかも」と思うことを事業スタッフそれぞれが出し合い、楽しみながら地域にダンスを紹介していってほしい。

実施団体	特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
実施ホール	宮古市民文化会館
実施期間	令和4年1月20日(木)～1月23日(日)
アーティスト等	アーティスト：田村一行 共演者：高桑晶子、梁鐘馨 テクニカルスタッフ等：阿蘇尊
コーディネーター	中西麻友

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 1月20日(木) 19:00～21:00、高校生以上、無料、5名、宮古市民文化会館展示室

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『宮古仄聞記』
- 1月23日(日) 14:00開演(13:30開場)
- 田村一行、高桑晶子、梁鐘馨
- 一般1,000円、高校生以下500円(当日は各500円増)
- 宮古市民文化会館 大ホール
- 67名



# スケジュール

Cプログラム 岩手県宮古市／宮古市民文化会館

	下見	
	5/27 (木)	5/28 (金)
9:00		宣材撮影
10:00		↓
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	宮古着・昼食	図書館にて資料検索
14:00	会場下見	↓
15:00	宣材撮影場所ピックアップ	↓
16:00	↓	打合せ
17:00	打合せ	移動
18:00	↓	
19:00	団体と顔合せ	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
1/20 (木)	1/21 (金)	1/22 (土)	1/23 (日)
		準備	準備
		場当たり	通し稽古
	準備	↓	↓
宮古着	昼食	昼食	昼食
打合せ	FOCUS 対応	場当たり	最終チェック
舞台仕込み	↓	↓	本番
↓	舞台稽古	テクリハ	撤去・掃除
↓	↓	↓	↓
場位置決め	明かり作り	部分稽古	↓
軽食・準備	夕食	夕食	退館
公募 WS	明かり作り	ゲネプロ	
↓	↓	↓	
退館	退館	退館	

## 公募ワークショップ

今回参加された方の多くは、「力を抜くこと」「空っぽになること」を普段の生活の中では経験することが無い  
ため、不思議で楽しい感覚を体験したのではないかと思われる。今回は感染症対策として接触を伴うワーク  
ショップは控えていただくとともに、間隔も十分に保った上でのものとしていただいた。対象者は高校生以上とし、  
チラシやHP、新聞折り込み広告での告知の他にも個人的に付き合いのある様々な団体や個人を訪ね、舞踏  
の魅力や事業意義などを説明しながらの募集を実施。また、東日本大震災の復興道路として整備を進めてき  
た三陸沿岸道路が全線開通したことから、沿岸地域間の交通アクセスが飛躍的に向上したため、今までポス  
ターやチラシの配布を依頼していなかった地域の施設に新たに依頼を行うことにより、多くの人の目に留まるよ  
う努めた。しかしながら、1月に入ってから当地域でもオミクロン株が急拡大したこともあり、感染を恐れてか参  
加者は5名に留まる結果となり、参加の確保には繋がれなかったことが悔やまれる。その一方で、参加者の中  
には県外から参加された方もおり、舞踏の人気を伺い知ることができた。また、初めての舞踏体験にも関わ  
らず、参加者の皆さんがしっかり踊っていたことから、改めて舞踏の面白さや楽しさを感じることもなった。





## 公演

大駱駝艦 田村一行 舞踏公演『宮古仄聞記』



当館では初めてとなる田村一行舞踏公演であり今回の『宮古仄聞記』は、かつて本州一の鮭の漁獲量を誇ったという津軽石川や、江戸時代に飢餓から人々を救うため前述した津軽石川から掬に背き鮭を分け与えたことにより処刑されたとされる人物「又兵衛」の伝説など、田村さんが実際に当地で感じた宮古の風土や文化をレパトリー作品に盛り込んだ舞台構成であった。

地域の昔話として朗読を取り入れるなど、子どもや初めての観客でもイメージしやすく親しみやすい作品に仕上がっていた。私の娘も観に来ていたのだが、初めて観たにも関わらずすっかりと舞踏の魅力に取りつかれたようであり、「他の公演にも行ってみたい！」などと声を弾ませていたのが印象的であった。

観客を異世界へと誘う独特の世界観、饒舌な身体表現による圧倒的かつ緻密な構成で素晴らしい作品となり、鳴りやまぬ拍手と共に終演を迎えた時点で事業担当者としての誇りと手ごたえを感じた。

また、事前に田村さんよりテクニカルの参考資料や、過去の公演映像を提供していただいたおかげで、舞台スタッフも早々にイメージを掴めたことから、仕込み作業もスムーズに行うことが出来たことも特筆すべき事項である。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・ 奇妙な動き、身体の芯から溢れるようなエネルギー。最初から最後まで目が離せませんでした。また機会があれば足を運びたいと思います。クセになりそうです。
- ・ 鍛え上げられた肉体と修練された舞踏で、宮古の風土・精神性を見事に表現したと思います。普段見ることのないアートに触れることが出来ました。ありがとうございます。
- ・ 驚きと多様性に満ちた踊る姿は、意のままにならずとも生き続けなければならない人の世そのものです。今日もたっぷり楽しませていただきました。
- ・ 恥ずかしながら、このような舞踏を観るのは初めてでしたので、雰囲気に対応するのに時間を要してしまいましたが、知らず知らずのうちに引き込まれて居りました。人間の体を「空の器」とみなし、そこへ自然的なエネルギーや感情等を取り込み表現されているといった印象を受けました。田村さまの感じた「宮古」を拝見し、宮古により愛着が湧いたように思います。
- ・ ワークショップに参加したので面白い動きに楽しめました。力の入れ方、抜き方で鮭の泳ぎの表現や法師の喜びや苦しみが伝わりました。もっと観ていたかったです。感性の鋭さを求められる舞台でした。

**●この事業への応募動機**

2019年度のAプロから3年連続での実施を予定していたが、コロナの影響により昨年のBプロ延期を経てのCプロ開催となった。市民を中心とした多くの方々に様々なジャンルの芸術に出会っていただく機会を提供することが我らのミッションの一つと捉えている。このダン活を通してコンテンポラリーダンスへの興味、関心を広げたいという想いで応募した。

**●事業のねらいと企画のポイント**

現代ダンスを通じた新たなコミュニケーションの形成を促すことで、新たな価値観との出会い、新たな仲間との出会い、そして劇場との新たな繋がりを作ることで若手世代と劇場が共創活動を行うことによって、最終的には地域の活性化に繋げることができたらと思い企画した。インパクトのある田村さんを迎えることで多くの方に興味を持ってもらえるものとした。

**●企画実施にあたり苦労した点**

何はともあれ長引くコロナ禍の影響は避けて通れない。チラシ・ポスターが出来上がり、いざこれからと意気込んでいたまさにその時、岩手県内及び宮古市でもコロナ感染者が急増したことにより県独自の緊急事態宣言が発令され、二週間以上の臨時休館となった。また、臨時休館中には某県にて、とある公演でのクラスター感染が発生した。不要不急の県外移動の自粛を県民に求めている中で、県外アーティストを招いての公演であったことから、かなりの批判を受けたことは想像に難くない。当館でもダン活を含めた事業に対する市民感情の悪化が懸念されたことから、大々的な広報を自粛せざるを得なくなった。結果として公演は1月へ延期したが、今回も全国的なおミクロン株急拡大の影響により、公演及び公募WSへの参加者獲得への重い足枷となるとともに、日々増えていく感染者数により再度緊急事態宣言が発令される可能性も考慮しながら進めなければならず、心労の絶えない日々を過ごした。

**●事業の成果と課題**

公演や公募WSに参加していただいた方からの評価はとても良かったのだが、やはり広報不足の感は否めない。自分がどれだけ「面白い」「楽しい」と思えるものでも、それをどうやって伝えていくかについては改めて考えさせられた。

**●今後の事業展開や展望**

来年度はR2年度から延期となったBプログラムを予定しているが、この事業は数年続けて初めてその地域に根付くものであると思われる。今回公演への来場や公演スタッフとして参加してくれた市民劇ファクトリーメンバー（会館のオリジナル劇団）が多数いるが、彼らのここ数年の活動により、いまやすっかり演劇は地域に根付いた感がある。同じように継続することでしっかりと根付いていくことが出来るという思いを強く持って臨んでいきたい。

**●この地域のダン活の特徴**

宮古市では、東日本大震災以降、少子高齢化が進み若者が市外へ移住するなど、人口減少が課題とのこと。会館から文化芸術を発信することで、そうした地域課題にアプローチしたいという担当者の想いを受けてのダン活だった。また、担当者が初めて大駱駝艦を観て衝撃を受けたということで、田村一行さんを希望されてのCプロとなった。

下見では、浄土ヶ浜や三王岩などの景勝地のほか、震災の痕跡を感じる場を巡るとともに、図書館にも足を運び、そこで田村さんが出会い、知った出来事などが作品の創作につながっていった。三王岩で宣材撮影をした時には、ちょうど近隣の小学生が遠足に来ていて、白塗りした田村さんを見ながら、「あれは人間？」「足があるから人間だよ」といった会話が交わされていた。その様子を見ながら、何でもない日常の中でふと異形のものに出会うこと、それに対して恐れや興味など様々な感情を抱きながらも受け入れていくこと（もちろん最終的にはみんなニコニコしていた）、そうした機会をつくることも、地域に文化芸術を届けるということなのだなと感じた。

そして公演本番は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、当初予定していた9月から、年が開けて1月に延期しての開催となった。その時点でも感染が急拡大している状況ではあったが、会館の万全の対策のおかげで、公募WSも公演も無事終えることができた。

作品は、田村さんが夢か現実か分からない世界を旅しながら、宮古の物語が描かれる構成。石を頭に乘せてコミカルな動きで魅せる宮古詣のシーン、二人の女性舞踏手の伸びやかな手足の動きが想像を掻き立てる絡新婦（じょろうぐも）のシーン、神々しくも見える田村さんソロの又兵衛の踊りなど、こうした物語が語り継がれてきた土地は、どんなに豊かで美しい場所なのだろうとイメージが広がる作品だった。また、緞帳には立派な鮭が施されているのだが、幕前で始まったオープニングから、三人の鮭の踊りにリンクするものもあり、このような状況でなければ、実際にどの場所にも足を運んでみたかったと思わずにはいられない、あつという間の一時間だった。

観客からは、「40年ぶりに舞踏を観たよ」「地方ではなかなか観られないので貴重だった」など好意的な感想のほか、その意義を問う意見などいろいろなお声をいただいたようだ。10歳未満のお子さんも来場されて楽しんでいただいていた様子も伺い、賛否両論どちらにしても、一つの作品を発端として人の気持ちが動いたことが、次へつながっていくのだと思う。

公募WSは、5名の参加と少なめではあったが、十分な広さの会場でのびのびと開催できた。舞踏の身体について「自分で動くのではなく、動かされる」「表現しよう、上手くやろうと思う必要はないこと」など田村さんの説明を聞きながら、頭と身体をほぐし、解放する時間になったと思う。ダンス教室の先生やダンサーの方も参加されていたそうだが、力を抜くといった、普段とは違う身体の動かし方を知る機会になったようだ。

**●課題とこれからに向けて**

広報については、宮古市のみならず、大駱駝艦や舞踏との縁がある八戸や秋田にも広報するなど、担当者の工夫が見られた。会館のテクニカルスタッフの方々とも、過去の田村さんの公演映像や資料を事前に共有して臨んだことで、最初は不安も持たれていたそうだが、稽古が進むにつれ、スタッフの方からの提案も増えて、田村さんたちも心強かったとのこと。若い世代と会館の結びつきを強めることや、舞踏やコンテンポラリーダンスが地域に根ざすまでにはまだ時間がかかるかもしれないが、今回のような難しい判断や対応が常に必要な状況の中でも、会館の皆さんとアーティストが一丸となって事業をつくり上げたこと、そしてそこに足を運びWSや作品を通して想いを共有した参加者や市民の方がいたことが糧となり、今後につながっていくことを期待する。

実施団体	酒田市
実施ホール	希望ホール（酒田市民会館）
実施期間	令和4年2月3日（木）～2月6日（日）
アーティスト等	アーティスト：中村蓉 共演者：田花遥、仙優奈 テクニカルスタッフ等：中瀬俊介（Baobab）
コーディネーター	宮久保真紀

■公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 2月3日（木）18：30～20：00 中学生以上、無料、15名、大ホール舞台上

■公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

■『ジゼル』

■ 2月6日、14：00（13：30）

■ 中村蓉、田花遥、仙優奈

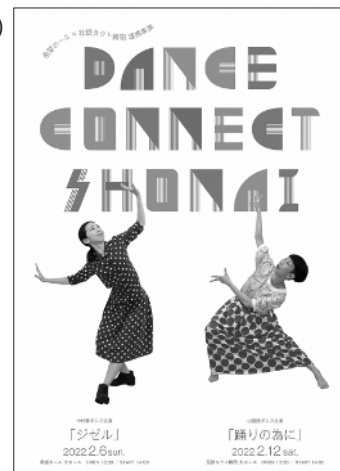
■ 一般 2,000円 U25 1,000円（荘銀タクト鶴岡セット券 一般 3,000円 U25 1,500円）

■ 大ホール舞台上

■ 60名（新型コロナウイルス感染拡大対策のため、当初予定していた席数を5割減して販売※完売）

《ダン活粹外》アウトリーチ 9月24日（金）酒田特別支援学校 参加 児童生徒 59名 教職員 30名

(表面)



A3 観音折り（中面）



(裏面)





# スケジュール

Cプログラム 山形県酒田市／希望ホール（酒田市民会館）

	下見	
	6/22 (火)	6/23 (水)
9:00		
10:00		荘銀タクト着合同 チラシ用写真撮影 広報計画等打合せ
11:00		↓
12:00	庄内空港着	移動
13:00	移動	昼食
14:00	昼食	酒田特別支援学校着 《ダン活枠外》OR 会場下見・打合せ
15:00	ホール下見 打合せ	↓
16:00	↓	移動
17:00	↓	庄内空港発
18:00	↓	
19:00	退館	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
2/3 (木)	2/4 (金)	2/5 (土)	2/6 (日)
舞台上舞台設営			
テクニカル 打合せ	照明・音響 仕込み	通し稽古	通し稽古
照明音響仕込み	照明・音響 チェック	↓	↓
中村氏他 庄内空港着	↓	通し稽古 振り返り	休憩
移動・昼食	休憩	休憩	開場
ホール入打合せ 位置決め仕込み 作業	舞台稽古 照明・音響確認	テクニカル修正	開演
↓	↓	↓	終演
↓	↓	ゲネプロ準備 ゲネプロ	振り返り
休憩	休憩	↓	↓
WS 受付開始 WS 開始	テクニカル修正 (舞台稽古)	休憩	終了
↓	↓	ゲネプロ 振り返り	
WS 終了・ 振り返り	↓	テクニカル修正	
照明・音響 仕込み	↓	退館	
退館	退館		

※テクニカルスタッフの中瀬氏は2/2に酒田入り

## 公募ワークショップ

当ホールの大ホール舞台上を会場に、中学生以上を対象としたWS。初めて会う者同士が、開放的な空間で身体全体を使って表現し、コミュニケーションを取り合い、コンテンポラリーダンスを体験した。

地域住民が一流のアーティストに間近にふれることで、身体表現の楽しさや素晴らしさを体感し、コンテンポラリーダンスの魅力と可能性を知ってもらうことを目的として実施した。定員20名に対して、15名の参加（参加申込者は19名。そのうち4名は新型コロナウイルス感染拡大の影響から行動制限等によりやむを得ず不参加）。そのうち半数はダンス未経験者、年齢層は高校生から60代と幅広く、また当ホールの事業に初めて参加する者が大半だった。ダンス未経験者がいる一方、経験者についてはヒップホップ、コンテンポラリーなどを経験している方、その他一輪車ダンス、フィギュアスケートを経験している方など多彩な顔触れであった。

最初に、会場の全員が車座になり、中村さんが参加者一人一人に話しかけながら、それぞれのダンサーネーム、ダンス経験の有無などを共有。参加者の緊張が一気にほぐれ、会場全体が和やかな雰囲気になった。お互いのポーズを真似ながら伝えていく「伝言ゲーム」、複雑に積み上げられた数脚のイスを表現する、「動と静」を自らのイメージで表現するなど、身体全てを存分に動かし表現することの自由性・創造性を楽しんだ。参加者はお互いの動きや中村さんら講師の多彩な表現に刺激を受け、どんどん独創的になり表現の幅が広がっていき、彼らが創る舞台上の空間が、一つのダンス作品のように感じられた。参加者の充実した表情が大変印象的なWSだった。

終了後、参加者からは、「ダンスは初めてだが、とても楽しかった。思い切って参加してみて本当に良かった」、「これまでダンスに興味はあったが、どこで体験できるのか分からなかった。今回の企画を知ることができて本当に良かった」、「コロナ禍でダンスをする機会、誰かと踊る機会が極端に減りとても悲しく感じていたが、今日は大ホールの開放的な空間で皆さんと踊ることができてとても嬉しかった。」、「新しい表現の形を知り、貴重で新鮮な体験ができた。」という声が聞かれた。



## 公演

## 中村蓉ダンス公演『ジゼル』



新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から座席数を半数に減らしての開催となったが、チケットは完売、立ち見客を含め 60 名が来場した。開場直後からホールのあちらこちらから熱気を帯びたコンテンポラリーダンス談義と、中村さんの公演を待ちわびる声が聞こえ、本公演に対する期待値の高さがうかがわれた。

中村さんが、2019 年よりコロナ禍において制作に打ち込んだ究極の愛と生と死の物語「ジゼル」が、大ホール全体を使って表現された。通常の客席も演出として独創的に使用し、舞台上に客席を組んでの上演となった。

1841 年にバレエ「ジゼル」が初演されてから今日まで、多くのダンサーが踊り継いできたジゼルとアルブレヒトの悲しみと切なさ、相手への思慕の念が、中村さんのダンスにより会場全体に広がる。イギリスの女流作家ヴァージニア・ウルフの代表作『ダロウェイ夫人』からの引用と彼女の最期を想像させるシーンも交えながら、生と死とその狭間の世界が、幾度となくステージ上で繰り広げられた。最後、Massive Attack「Teardrop」にのせて、苦しみながらも恋人を愛し続け、別れと共に必死に前に進もうとするジゼルを中村さんが表現。繊細さと力強さが混在する渾身の身体表現を繰り広げる中村さんと、その世界に魅了された観客がひとつとなった。

公演後のアフタートークでは、中村さんが酒田市の印象、当ホールについての感想を話した。また、コロナ禍でジゼルを演じたことについて「コロナによる別れ・悲しみが世の中に増え、いま生きていて踊ることができている自分と、ジゼルから助けられたアルブレヒトが深く重なり、残された者がどうやって生きていくのかを踊りのなかでアルブレヒトとともに探り続けている」と語った。最後に、中村さんから観客に向けて「今回の公演は、いろいろな理由で本当に実現できないと思った。このような状況にも関わらずお客様から集まっていただき、皆さんから『躍らせてもらった』と感じている。公演だけでなくアフタートークにまでお付き合いいただき本当に感謝している」とのメッセージをいただき、客席からは惜しめない大きな拍手が起った。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・ 演者の表情や筋肉の動きが間近で見ることができ、迫力を感じた。『生』の躍動が全身で表現されていた。
- ・ ステージの使い方に驚いた。演者の表現をととも近い距離で体感でき、幸せな時間だった。
- ・ ダンス公演を見るのは初めてだが、迫力に圧倒された。公演とアフタートークのギャップに少し驚いた。
- ・ コロナ禍で、生で本公演を見ることができ幸せに思う。コロナで疲れた心にアートの注入が必要だと実感した。
- ・ ワークショップと、同一人物でいらっしゃるのかと疑ってしまうくらい引き込まれた。今日の公演を見て、自分の中で何かが変わりそうな気がする。
- ・ 全身で感情を伝えてくる表現にととも魅かれた。また指先まで伸びるしなやかさがとても美しかった。

### ●この事業への応募動機

平成 29 年度に B プロ、平成 30 年度に A プロを実施した後、継続的・効果的なダンス事業を展開できなかった結果、近年、地域住民には気軽にコンテンポラリーダンスにふれる場が無く、その魅力・楽しさを知る機会が著しく乏しかった。また、ダンス事業に関する担当職員・当ホールテクニカルスタッフの育成も全く進んでいなかった。C プロ実施により、上質なダンスに間近にふれ自由な身体表現の楽しさを体感する機会、一流のダンス公演を鑑賞する場を創出することで、地域住民に改めてダンスの魅力を発信することを目的とすると共に、担当職員・ホールスタッフの育成の足掛かりすることを目指した。

### ●事業のねらいと企画のポイント

当ホールで初めてのコンテンポラリーダンスのレパトリー作品公演であることから、地域にいち早く情報を発信するため、派遣アーティストが決定すると同時にプレチラシの制作を開始、令和 3 年 3 月に県内の各ホール、公共施設、関係諸団体に配布した。本チラシについては、より幅広い市民から手に取り事業の詳細を知ってもらうため、当市で毎年 9 月、数週間に渡り開催されるアートイベント『Sakata アートマルシェ』で設置・配布できるようスケジューリングを行った。また今年度、17 年ぶりに当ホール HP を更新、新しくなった HP と SNS により本事業を分かりやすくタイムリーに情報発信するよう努めた。

隣市の公共ホール 荘銀タクト鶴岡（以下「タクト」）が 1 週間違いで C プロ実施であったこと、前年度タクトが実施した B プロの派遣アーティストが中村さんであったことから、市域を超えた庄内地域全体へのダンスの魅力発信、その普及を目指し、両館で広報・人材交流・事業運営等で連携（連携名『Danae Connect Shonai』）を図った。

C プロに応募した当初から、担当者としてダン活枠外で特別支援学校での WS 実施を希望。身体が存在そのものがアート表現になり得るダンスの魅力を知る機会の創出、個々の表現能力を高め、身体の可能性と自由性の気づきを得るための動機付けが目的であった。学校側の理解と中村さんの協力により、9 月に WS を実施することができたが、学校との信頼関係を築き、来年度以降の WS 継続への足掛かりとなる有意義なものとなった。

### ●企画実施にあたり苦労した点

公演目前の 1 月から、新型コロナウイルス感染の影響により、県内が自粛ムードとなり様々なイベントが中止・延期となった中で、当初予定していた広報活動が思うようにできず、事業の周知を図ることが難しかった。

### ●事業の成果と課題

WS については、広報開始から当日まで継続的に問い合わせ・申し込みがあり、当日は市外のみならず県外からの参加者もいた。参加したきっかけを聞いたところ、HP の画像やチラシ、ポスターに魅かれたという声が多く聞かれ、今回力を入れた視覚的情報発信が集客に大きく繋がったことが分かった。また参加者の半数がダンス初心者であったことから、ダンスにふれる機会を渴望する市民が一定数いることが判明した。

公演については、市内で新型コロナウイルス感染者が増加したことも影響し、事前の券売状況は芳しくなかったが、当日は多くのお客様から来場いただいた。公演後に『ジゼル』への感動、鑑賞できた喜びの声が数多く寄せられ、公共ホールにおいて上質なダンス鑑賞事業を実施する必要性と意義を強く感じた。

作品制作の過程で、中村さんから様々な提案をいただき、その実現のため中村さん、中瀬さん、ホールスタッフと幾度となく打合せ・試行を繰り返したが、妥協を許さず高みを目指し創作し続けるアーティストの真摯な姿勢と理念に直にふれ、共に制作できたことは、経験値の低いホールスタッフにとって、大変貴重で有意義な体験であった。この体験を生かし、今後はより上質な舞台芸術の提供を目指していく。

### ●今後の事業展開や展望

今後は、引き続き OR、WS 等でダンスの魅力の間近に感じてもらえる機会を創出するとともに、その経験を生かしながらその後のダンス活動に繋げてもらえるような事業展開を図る。また、上質なレパトリー公演や創造公演の実施により、鑑賞する機会を継続して提供していくとともに、『Danae Connect Shonai』の連携を継続し、両館で協力し合いながらダンスによる庄内地域の活性化、交流人口の増加につなげていきたい。



●この地域のダン活の特徴

アーティスト：中村蓉（H29年度：鈴木ユキオ [Bプロ] H30年度：田村一行 [Aプロ]）

公演観客数：60名

アンケート回収数：50枚

公募ワークショップ：15名（7才～62才）

日本海に面した酒田市は江戸時代、北前船が来航する商業の街として栄え、世界中で大人気となったテレビドラマの「おしん」に縁のある地。春夏秋冬どの季節も美味しいもので溢れる豊かな土壌を持つ。最寄りの空港はその名も「おいしい庄内空港」だ。

酒田市ダン活の最終年は、Bプロ、Aプロから少し間が空き、担当者や体制も新たに実施することになった。中村蓉氏のいくつかのレパートリー作品の中から6月末の下見打ち合わせの直前に発表したばかりの「ジゼル」を上演することが決定。舞台上舞台にし、通常の客席面を舞台背景として活かすアイデアを進めることになった。

今回特筆すべき点は、酒田市の隣に位置する鶴岡市の庄銀タクト鶴岡と広報面などを中心に手を携えることになったことだ。鶴岡市もCプロでさらに本番日が1週間違いという日程。2月6日に酒田市で中村蓉公演、2月12日に鶴岡市で長井江理奈／山猫団公演と、この地域にとって短期間に2つもコンテンポラリーダンスが楽しめる絶好のチャンスである。今後も継続していけるよう「Dance Connect Shonai」と名づけた。

上演作品の「ジゼル」はクラシックバレエに詳しくない方でもタイトルだけは聞いたことがあるほどのバレエの名作だ。2019年からコロナ禍を経て仕上げた中村氏の新解釈「ジゼル」は、元々のストーリーを深く深く考察し、イギリスの女流作家ヴァージニア・ウルフの生涯や、洋楽ポップスのアデルの名曲「Take It All」が折り込まれ、中村氏らしいユニークなシーンや言葉遊びが散りばめられた内容。もともとソロ作品だったところ、「ジゼル」作品でも重要なウィリーという死後の世界の妖精役として2名の出演者が加わるようになった。会場にあわせた巧みな演出の再構成、そして希望ホールのテクニカルチームの協力により、同じ作品がこんなに奥行きが出て印象までも変わるものかと、初演を拝見したものとして驚きと感動を覚えた。アフタートークはホール担当者の池田氏が見事な采配で取り仕切り、観客各自に「ジゼル」の正確な情報を届けつつ、中村氏がさらに観客に伝えたいことを引き出した内容だった。

レパートリー作品の上演は、出来上がったものをそのまま準備して出来るということはコンテンポラリーダンスにおいてはまずないといってよい。会場ごとにサイズや性質が違い、細かな調整作業が必須で、また準備を進めていくうちに、直前まで新しい前向きな修正プランが出てくることも多い。現地のそれぞれの担当者たちと時間を費やすことで、作品に強度が増し、観客へ伝わる熱量が高くなる。今回の酒田市でのCプロはその典型的な例を体感することができたように思う。

●課題とこれからに向けて

残念なことにDance Connect Shonaiがコロナ禍の影響で実施不可能になってしまった。元々のプランでは、公演準備や当日も職員の相互協力も行う予定だったが、市内感染者数の増加の時期と重なってしまったことも理由の一つだ。今回の公募ワークショップでもこの土地の方々のダンスのポテンシャルの高さは他の地域にないものを感じた。まだもうしばらくはコロナ禍の様子を見ながらの運営になると思うが、ぜひ小さな企画でも、1年に一回でもダンス事業を一緒に計画して庄内エリアのダンス魂を持つ方たちを惹きつけてもらいたい。

実施団体	一般財団法人こまき市民文化財団
実施ホール	小牧市市民会館 大ホール
実施期間	令和4年3月2日(水)～3月5日(土)
アーティスト等	アーティスト:長井江里奈 共演者:北園優、鈴木綾香 テクニカルスタッフ等:ニシハラ☆ノリオ
コーディネーター	中富勝裕

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

①3月5日(土)16時～17時、小学3年生以上、30円(保険料)、7名、小牧市市民会館 大ホール舞台上

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『それでも、踊る』
- 3月5日(土)14時開演(13時15分開場)
- 長井江里奈、北園優、鈴木綾香、ニシハラ☆ノリオ、劇場スタッフ
- 一般1,500円 高校生以下無料(要整理券) アートフレンド会員一般1,200円
- 小牧市市民会館 大ホール
- 45名

**それでも、踊る**

山猫団 出演:長井江里奈、北園優、鈴木綾香、ニシハラ☆ノリオ

2022. 3. 5 SAT 開演14:00 小牧市市民会館 大ホール (開場13:15) 〒485-0041 小牧市小坂2丁目107 TEL.0568-77-8205

料金: 一般 1,500円 高校生以下 無料 (要整理券) アートフレンド会員一般1,200円 高校生以下:無料(整理券要)

こまき市民文化財団 TEL.0568-71-9700 FAX.0568-39-5671

舞台と音律、現実と非現実の境界線を曖昧にし、触れられるような距離で踊ることを得意としていた私たちが、コロナ禍で手足を縛られたようになりました。それでも踊ると決めた時、できるのは本当にシンプルなことだけでした。最後の10分間を踊るためにせりから舞台作品を立ち上げます。(山猫団演目原簿)

**山猫団 YAMANEKODAN**

ダンサーの長井江里奈を中心に、音響師、作曲者、演出作家、美術、音響監修、衣装作家、舞臺照明など様々な職種の俳優、芸術家の集まりで、さまざまな才能の集結。メンバーに、公演前夜ワークショップ、アフタリースタックなどを企画提供して展開している。

山猫団と一緒にステージ「山猫団入!」を体験してみよう!ダンスを習いながら、演劇の面白さを実感。自分たちのダンス作品にも関わらせてもらう機会。

2022年3月5日[土] 16:00~17:00 (開演 15:30~)

観客数:小学3年生以上 定員:20名 会場:市民会館 大ホール舞台上 料金:300円(保険料) 持ち物:動きやすい服装、タオル、飲み物

12月11日[土] 9:00~ 電話または財団ホームページ(メールアドレス)にて申込み

12月17日[金] 9:30~ 12月17日[金] 13:00から電話予約をお願いします。

料金:お子連れ1人につき1,000円(3歳未満は無料) 対象:1歳以上の未就学児

新型コロナウィルス感染防止に必ずお読み! 会場内マスク、マスク着用、手洗い、手洗いの実施、換気等に十分ご注意ください。体調不良や発熱などの症状がある場合は、入場をお断りいたします。

こまき市民文化財団オンラインチケットサービス <http://www.komaki-bunka.or.jp>

チケット窓口 小牧市市民会館

〒485-0041 小牧市小坂2丁目107 市民会館 3階 TEL.0568-77-8205 FAX.0568-39-5671

# スケジュール

	下見	
	7/7 (水)	7/8 (木)
9:00		会場下見
10:00		打合せ
11:00		
12:00		昼休憩
13:00	小牧着	
14:00	打合せ	アウトリーチ先 打合せ
15:00	財団情報誌取材	
16:00		諸確認等
17:00		駅へ移動
18:00	インリーチ	
19:00	↓	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
3/2 (水)	3/3 (木)	3/4 (金)	3/5 (土)
美術仕込	準備	準備	準備
↓	明かりづくり	リハーサル	アップなど
↓	↓	↓	昼食
↓	昼食	昼食	こどもサポーターリハーサル
小牧着	明かりづくり	リハーサル	開場
打合せ	↓	↓	公演
舞台仕込	↓	↓	↓
↓	場当たり	↓	公募 WS
↓	↓	ゲネプロ	バラシ
↓	↓	諸確認	フィードバック
退館	退館	退館	退館

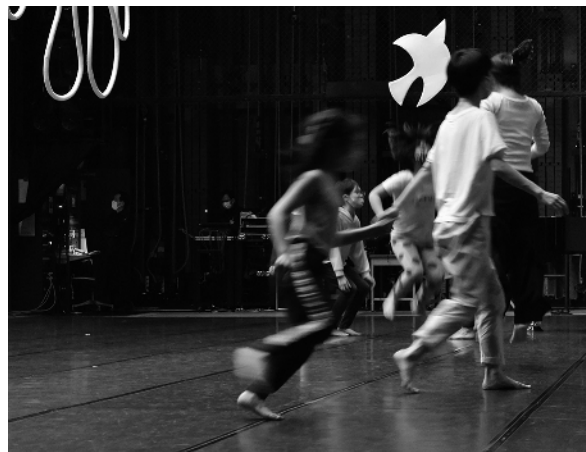
※美術スタッフとして参加したニシハラ☆ノリオ氏は 3/1 に小牧入り

## 公募ワークショップ

平成30年度にAプログラムを実施し、3か年計画で継続して現代ダンス活性化事業に取り組む予定でした。しかし、令和元年度、令和2年度と続けて新型コロナウイルスの影響で開催は延期となり、2年ぶりに公募型ワークショップを実施することになりました。そのため、「昨年度来た人にまた来てもらおう」といった事業を継続することで生まれる効果を期待することはできず、初心に戻り、このワークショップ事業を行いました。

できるだけ多くの人に気軽にワークショップを体験してもらうことを目的とし、参加条件は「小学3年生以上」のみ、参加費は保険料の30円にしました。また、事前申込制としていましたが、山猫団の公演を観た人が当日飛び入り参加もできるように、ワークショップの開催日時は公演終了後に設定しました。しかし結果は、事前の応募者が小学生から高校生まで4名、当日の参加希望が小学生2名の計6名と定員の20名になかなか届かず、参加者を集めることに苦心しました（当日2名キャンセルがあり、一般参加者4名と財団関係者3名の計7名が参加）。

会場を終演後の一部舞台美術が残る大ホールの舞台上にしたため、途中で照明をつけたり、本番の余韻さながらのワークショップになりました。子どもたちの参加が多かったので、舞台上を自由に走り回るような場面もありましたが、その間に動きを通して他者と向き合う時間もありました。保護者の方からは「この日娘が体で感じたものは、忘れられないものになりました。」というアンケートが寄せられました。スタッフを含めて多世代で体を動かすことができたこと、普段上がる機会のない上演後の舞台上でのワークショップ体験は貴重な機会になったと思います。





## 公演

## 『それでも、踊る』



山猫団はダンサー、音楽家、造形作家等のアーティスト集団であり、一人一人の溢れる個性にとっても魅力を感じていました。そのため、山猫団のコンテンポラリーダンス以外の側面にもスポットを当て、山猫団の作品やアートをより楽しんでもらう機会をつくることを考えました。

具体的には、美術を担当するニシハラ☆リオさんの「かぶりものワークショップ」を小学生対象として公演一週間前に開催しました。定員 20 名を上回る応募があり、色ガムテープと新聞紙でこの世に一つしかない「かぶりもの」を作り上げました。そして、ワークショップ参加者のなかから希望者を募り、作ったかぶりものを被って公演前のアナウンスを舞台上で行う「子どもサポーター」として活躍してもらいました。アーティストの魅力を様々なかたちで体験し、それらと公演をゆるく繋げるという試みを行いました。

また、公演は「素舞台からダンス作品が立ち上がるまで」を作品にするもので、スタッフワークも「見せるもの」として舞台スタッフも演出をつけて出演するといったような特異なものになりました。そしてダンス公演としては（演劇でも）珍しくアンコールを用意し、そこで小牧市のご当地ソング・小牧市民まつり讃歌「青春の街」を山猫団のメンバーとスタッフ全員で踊りました。作品に関わった人が一堂に会し「踊る」という出来事は、後にも先にも今回限りかもしれません。役割や立場を一旦外して「みんな一緒に踊っちゃえ」という長井さんの心意気はとて楽しく貴重な時間を生み、次年度の B プログラムにもいい影響をもたらす予感がしています。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・「すばらしい舞台でした。フィナーレ泣きました。踊り続けてほしいです。」
- ・「舞台が創り上げられていく過程はもちろん、最後のお二人のダンスは素晴らしかったです。情熱の凄さに感動して泣いてしまいました。素敵でした！おかしな「かぶりもの」のワークショップ、舞台、その後のダンスワークショップと、何もないところから創り上げることの素晴らしさ、楽しさを教えてもらいました。親子共に素敵な時間を本当にありがとうございました。また是非山猫団を観たいです。」
- ・「ステキなワークショップに、素晴らしいダンスを観ることができて、楽しい時間を過ごせました。現実から、夢の世界であるステージが出来上がるまでの過程を分かりやすく体感できて、また、素晴らしい音楽も感じる事ができて、とても幸せな時間でした。この日娘が体で感じたものは、忘れられないものとなりました。幸せな時間をありがとうございました。」

●この事業への応募動機

小牧市にはプロオーケストラ「中部フィルハーモニー交響楽団」があり、クラシック音楽事業が充実しています。また、平成 29 年に（一財）こまき市民文化財団が設立され、文化の振興が更に求められるなか、クラシック音楽以外のジャンルの文化事業も積極的に取り入れていく必要がありました。そのため、小牧市ではまだ手掛けたことのないコンテンポラリーダンス事業の実施に関するノウハウを得ることも含め、新しい事業を行うため、応募しました。

●事業のねらいと企画のポイント

山猫団の作風やキャラクターに触れると「何かおもしろそうなことに出会えそう！」という期待が生まれます。山猫団の魅力を契機に、小牧市の皆さんに「こういうおもしろいこともあるんだ」という、新しい喜びを味わってもらいたいというのが事業のねらいです。また、既に企画されている参加型ワークショップの他に、ニシハラ☆リオさんの工作ワークショップや、公演前アナウンスを市民の子どもたちにも願うするなど、事業の枝葉を増やし、新しい取り組みへの入り口を複数用意したことが企画のポイントです。

●企画実施にあたり苦労した点

集客に苦労しました。この事業は令和元年度に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で延期になったものです。令和元年度の際には「小さな牧のサーカス」という演目でした。「小牧にサーカス団がやってきた」というキャッチーで内容を想像しやすかったこともあり、300 枚以上のチケットが売れていました。しかし 2 年が経過し、上演環境や世の中の様子も一変したため、以前と同じことはできなくなりました。そして演目が変更になったのですが、「それでも、踊る」という力強くも踊ることにストレートなタイトル、「素舞台からダンス作品が立ち上がる場所を見せる」という特異な作品であることは、その紹介方法や対象者を考えるのに悩みました。地域の芸術系の大学に赴いてゼミで紹介してもらったり、電車広告を掲示したり、市の LINE で希望する人に情報を提供したり、様々な手を尽くしましたが、なかなか結果に結びつけることができませんでした。しかし、それらの広報努力は今後も使える手段・方法として財団の財産になったと感じています。

●事業の成果と課題

お客様のなかで終演後に涙を流しながら出演者に感動を伝える方がいました。また、「学校でポスターを見て、おもしろそうだったから来た」という中学生の男子 3 人組が終演後にポスター前でアーティスト写真と同じポーズをとって撮影して帰るなど、これまでの公演では起こったことのない反応がありました。劇場として新しい表現を提供することで、新しい感動と出会ったということは、成果の一つだと感じています。また、事業スタッフと舞台スタッフは役割分担が明確で、それぞれの業務をそれぞれの場所で行うことが通常ですが、今回は一緒に舞台上で踊るなど、進行を共にする機会があり、連帯感が強まったと感じています。これをチームワークに繋げ、来年度の B プログラムの成功に結び付けていけたらと思います。

●今後の事業展開や展望

令和 4 年度は初めて市民参加型公演の創作（B プログラム）に取り組めます。こまき市民文化財団として新しい経験をひとつずつ重ね、今後実施する事業の幅を広げていくことで、市民の方に芸術文化との様々な出会いと喜びを提案していきたいと考えています。

●この地域のダン活の特徴

名古屋市の北に位置し、東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道の三大ハイウェイ結節点となる交通の要所として内陸工業都市として発展する15万人都市。小牧市内中心部には織田信長が初めて築城し、豊臣秀吉と徳川家康の天下分け目の合戦の「小牧・長久手の戦い」の舞台となった小牧山は、小牧の歴史的なシンボルとなっている。この小牧市において、芸術文化の専門性を体得するため、ダンス活性化事業に着手して、平成30年10月にAプログラムを実施。令和2年3月にCプログラムを予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言により延期となり令和4年3月実施となった。

長井江里奈率いる山猫団の作品は、ダンス、音楽、映像、美術の構成により、一つの作品で多様なアートと劇場を体感できることが特徴である。「公演の開催や作品づくりは一人ではなしえない」、「劇場そのものを知る」というコンセプトから、今回はまったく何もない素の舞台から作品を立ち上げるまでが作品となる『それでも踊る』を上演した。舞台スタッフ、劇場のスタッフまで出演者、演出となり、劇場に関わる人もスタッフワークそのものも作品の要点である。そこに小牧の馴染みある曲など、レパートリー作品に開催地域の要素を取り入れ、観客をより引き込むポイントも生み出された。アンコールも用意されたこの作品では、スタッフ一同がその曲に振り付けられたダンスを踊って、締めくくった。舞台機構やスタッフが動き、舞台美術が仕込まれ、ダンサーの動き、生演奏と徐々に作品が立ち上がって行く様子に観客は高揚感を覚えるとともに、作品に込められた想いを感じ取っていた。

令和元年度では『小さな牧のサーカス』を上演予定で、タイトルに小牧の名前や「小牧にサーカス団がやってきた」というキャッチコピーが、初めてダンス公演に観る若年層やファミリー層にも響き、予想を上回る販売数であったが、延期した今回は社会的状況から観客との触れ合いがある同作品を断念し、緊急事態宣言中に生み出された『それでも踊る』に変更された。作品が変わり、広報ターゲットの見直しや手段など模索や試行錯誤が続いた。早い段階から市内の学校などへのチラシ配布や、コロナ禍の状況ではあるが“顔の見える広報”を意識して、地域の大学や教育・福祉団体など地域で活動している方々にアプローチするなどの試みは、新たなネットワークの形成となったのではないだろうか。公演1週間前には山猫団の魅力や世界観に触れる美術家ニシハラ☆リオ氏のワークショップの開催、そして公演の来場者をもてなす子どもサポーターの募集など、公演に向けてタッチポイントもしっかりと考えられていた。子どもサポーターは今後も自主事業などにも活かせる取り組みとしても楽しみである。

公募ワークショップは、ポスト・パフォーマンス・ワークショップとして終演後に、作品の余韻が残る舞台で実施。作品上演から照明などの舞台演出あるワークショップを通して参加者は「劇場空間」を感じられたのではないだろうか。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、集客など難しい場面が多いCプログラムの実施であったが、小牧市市民会館として、大きな財産となる出会いを生み出したプログラムでもあった。スタッフのつながり、そして、学校で見かけたポスターをきっかけに来場した男子中学生3人がロビーでチラシと同じポーズでの撮影する姿などこれまでの公演では見られなかった光景に加え、作品から伝わる舞台の熱量や公募ワークショップに参加した子どもの様子から感銘を受けた保護者・来場者の涙ながらのメッセージがこの舞台とプログラムの素晴らしさと満足度を表していた。

●課題とこれからに向けて

難しい状況での実施で得られた、スタッフの連帯感、新たな地域のネットワークと観客と参加者のフィードバックは、次のBプログラムに繋がるものであり、このダン活に応募した際に掲げた目的と目標実現に向けて、その先の財団事業にも活かして欲しい。広報、制作面でも丁寧なコミュニケーションと取組姿勢はこの小牧市市民会館の魅力でもあるので、市民と芸術文化の出会いから新しい観客を創り出す展開を期待したい。

**あわぎんホール 徳島県郷土文化会館 実施データ**

Cプログラム

実施団体	公益財団法人徳島県文化振興財団
実施ホール	藍住町総合文化ホール（あわぎんホールは改修工事のため別会場となった）
実施期間	令和4年3月2日（水）～3月5日（土）
アーティスト等	アーティスト：セレノグラフィカ 共演者：大村太郎（コントラバス）、鶴澤友輔（義太夫） テクニカルスタッフ等：岩村原太
コーディネーター	中西麻友

**■公募ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）**

① 3月2日（水）18:00～19:30、一般（どなたでも）、7名、藍住町総合文化ホール 小ホール

**■公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）**

- コンテンポ太夫『たとへ火の中、水の底。』（壺坂観音霊験記より）
- 3月5日（土）14:00開演（13:30開場）
- 【ダンス】セレノグラフィカ【コントラバス】大村太郎【義太夫】鶴澤友輔
- 一般1,000円 学生500円
- 藍住町総合文化ホール 大ホール
- 127名

**共鳴し 合う三つの力**

水、火、たとへ  
の、の、ど  
底、中、へ

大村太郎  
セレノ  
鶴澤友輔

令和4年 3月5日(土)  
open 13:30 start 14:00  
藍住町総合文化ホール

入場料 一般 1,000円 | 学生(18歳以下) 500円

※学生は学生証を提示してください。学生割引は当日受付にて。学生証の提示がない場合は一般料金となります。

コンテンポラリーダンス+義太夫で「コンテンポ太夫」  
そこにコントラバスが加わり新たな世界へ

コンテンポラリーダンス×義太夫×コントラバス  
三者が織りなす異次元音楽劇況をモチーフにした  
新作ダンス公演「たとへ火の中、水の底。」

令和4年 3月5日(土)  
open 13:30 start 14:00  
藍住町総合文化ホール

入場料 一般 1,000円 | 学生(18歳以下) 500円  
※学生は学生証を提示してください。学生割引は当日受付にて。学生証の提示がない場合は一般料金となります。

あわぎんホール 徳島県 藍住町 藍住町総合文化ホール  
電話 089-422-8122 089-47808 | インターネット 藍住町総合文化ホール

お問い合わせ先  
あわぎんホール 徳島県 藍住町 藍住町総合文化ホール  
電話 089-422-8122 089-47808 | インターネット 藍住町総合文化ホール

コンテンポラリーダンス  
Selenographic  
大村太郎  
義太夫  
鶴澤友輔  
コントラバス  
大村太郎

子どもも大人も楽しめるコンテンポ太夫ワークショップ！  
二階大会場コントラバスの生演奏に合わせて  
楽しく踊りたい人を募集します！

3月2日(水) 18:00～19:30迄

【会場】 藍住町総合文化ホール（小ホール） 観覧席（無料）【対象】 小学生以上  
【講師】 セレノグラフィカ（ダンス）、鶴澤友輔（義太夫）、大村太郎（コントラバス）【申し込み必須】 氏名、住所、連絡先を記載した用紙を、お申し込みの際に提出してください。【定員】 15名程度

あわぎんホール（徳島県徳島市）  
電話 089-422-8122  
メール info@awagin-hall.jp  
FAX 089-422-8122

阿波銀行  
阿波銀行徳島支店（徳島市）



# スケジュール

Cプログラム 徳島県/あわぎんホール 徳島県郷土文化会館

	下見	
	9/1 (水)	9/2 (木)
9:00		会館入り
10:00		実施会場下見
11:00	会館入り	↓
12:00	公募 WS・公演 打合せ	↓
13:00	↓	
14:00	クリエイション	クリエイション
15:00	↓	↓
16:00	↓	↓
17:00	↓	↓
18:00	↓	終了
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
3/2 (水)	3/3 (木)	3/4 (金)	3/5 (土)
	会館入り	会館入り	会館入り
	クリエイション	クリエイション	打合せ
	↓	↓	通し
			↓
		↓	
会館入り		通し	本番
テクニカル 顔合せ		↓	↓
打合せ		クリエイション	
↓	↓	↓	振り返り
公募 WS	通し・進行確認	↓	↓
↓		通し	終了
↓	クリエイション	↓	
音だし・稽古	↓	打合せ	

## 公募ワークショップ

身体を使って自由に表現しながらコミュニケーションできる「コンテンポラリーダンス」と阿波人形浄瑠璃の語りや伴奏として用いられる「義太夫」、そして義太夫三味線とともに物語のメロディーやリズムを紡ぐ洋楽器「コントラバス」とのコラボで公募ワークショップを企画。人形浄瑠璃作品の1つである『壺坂観音霊験記』をモチーフにしたダンス公演である本公演の参加者増や「義太夫」や「コントラバス」で踊ることを体験してもらう目的から実施、大人から子どもまでを対象にした公募ワークショップで5歳から60歳までの7名が参加した。

身体を使った自己紹介などのコミュニケーションワークを行った後、義太夫三味線で踊ること、コントラバスのリズムで踊ることの両方を体験できるプログラムを行った。

参加者の多くは洋楽器で踊ることに馴染みがあったと思う。洋楽器（コントラバス）と義太夫三味線を比較することで、そのギャップを感じた方もたくさんいたようだった。しかしながら、日本人として流れる身体のリズムからか、義太夫三味線で踊ることに「何故かほっとする」という感想があったのは新たな発見であった。こうした新たな発見や感覚を持って、参加者が本公演も観に来てくれると嬉しく思う。

本編では、義太夫節で艶やかに踊ったり、洋楽器のジャズの要素が入っていたり、古典作品をモチーフにしながら、とても挑戦的な作品となっている。

今回のワークショップに参加してくれた方は『古くて、新しい』そして『シリアスでポップな』本作の魅力を全力で楽しんでもらうための準備ができたのではないかと思います。



## 公演

コンテンポ太夫 『たとへ火の中、水の底。』



セレノグラフィカさんと地元の義太夫奏者である鶴澤友輔さん、高知県梶原在住のコントラバス奏者である大村太郎さんの三者でA・B・Cプログラムの3ヵ年かけて取り組んだ「ダンス」「義太夫」のコラボの集大成となる公演を実施した。当初は令和元年度に実施する予定のものであったが、新型コロナウイルスの影響により、今年度改めて実施することとなった。令和元年度から期間が空いたため再度作り直しの期間を要するかと思っただけ、出演者が月に1回はメッセージで交流を続けてくれていたこと、当館主催の人形浄瑠璃フェスティバルにおいて、本公演のショートプログラムを上演したことなどが上手く作用し、期間が空いたことはむしろ良い方向に働き、作品に深みが増した。

本公演は人形浄瑠璃の古典作品「壺坂観音霊験記」をモチーフにした作品で、物語の有名なセリフなどが随所に用いられている。義太夫三味線の古典のリズムがあったり、コントラバスによるジャズの進行があったりと音色やリズムは様々で、両方の音で踊るコンテンポラリーダンスの多様性を発揮した、古典的であり前衛的な作品となった。

#### ●来場者アンケートより（感想）

- ・ 惹きこまれた。こんなに夢中になったのはとても久しぶり。
- ・ 照明が落ちる前に始まったり、客席ドアからはけたりと常識にとらわれない感じが面白かった。
- ・ 最後みんなで手を叩いて、リズムにのったのがすごく良かったです。また機会があれば観たいです。
- ・ ニッチものの組み合わせで素敵な化学反応が起きていました。
- ・ コロナ禍で1時間と短時間だったと思いますが、演者の方、それぞれのパートがあって1時間半ぐらいの形も観たかったです。
- ・ 何か不思議な感じの舞台でした。
- ・ 初めて観るコラボでも、違和感なく作品となっていたのが面白かった。生の演奏と機材で録音した音を重ねると聴いたことのない重厚感のある音になっていた。
- ・ 激しいダンスでも、足取りが静かでプロの踊りを観られて良かったです。三味線とコントラバスの本物の音が胸に響きました。感動をありがとうございました。
- ・ 初めて観たジャンルで、とても新鮮で面白かったです。

**●この事業への応募動機**

現在の当館では、特定の関心のある方の利用が大半であり、公立文化施設としての役割を十分に活かしきれていない現状があった。そのような現状を打開するべく、コンテンポラリーダンスを含む実演芸術の派遣を、補助金等を活用しながら質・量ともに充実を図っているが、今劇場に求められている役割のひとつである「社会包摂機能」を活かしているとは言いがたい。そこで、当該事業に申し込むことにより、ダンス事業の企画・制作のノウハウを学ぶことは当然のことながら、ワークショップ・アウトリーチ活動におけるノウハウを活かし、様々な障がいの有無に関わらず集まれるような劇場作りを行うべく応募した。

**●事業のねらいと企画のポイント**

事業のねらいとして、ダンス事業を通して障がいや年齢、性別の有無に関わらず集まれる場所を作ることと、徳島の「あわ文化」を活用することで、この取り組みが一過性のもので終わらないように企画を進めていきたい。

企画のポイントとなるのは、3ヶ年同じアーティストであわ文化を使った企画をすることにより、1年目のAプログラムから2年目のBプログラム、3年目のCプログラムまで、3ヶ年通しての企画となっており、長期的なビジョンで企画することで上記事業のねらいを実現させたい。

**●企画実施にあたり苦労した点**

集客面に苦労した。広報が出遅れたことも大きな要因だが、それに加えてコロナの影響が強く、公演時期は小中学校などの休校が相次いでおり、ダンスなどに関わっていた学校や児童施設系への集客もできず、県外客も同じく見込めなかった。公募ワークショップなどの身体が触れあうような要素があるものはもっと如実で、少人数での実施となった。特に子どもなどの場合、本人は前向きでも保護者の反対などで来られないケースもあった。

**●事業の成果と課題**

ダン活のプログラムの中で、1年目のAプログラムでは、児童養護施設へのワークショップの実施を、2年目のBプログラムでは3歳～70歳までの男女で県民参加プログラムを、3年目のCプログラムでは、集大成となる新作ダンス公演の上演を実施することができた。特に本年のCプログラムは、令和元年度にコロナの影響により中止になり、今年度実施することになったので3年がかりのプログラムになった。自主事業等を活用して、ダン活のレギュレーション外でのクリエイションも多く実施したが、その分、完全に新しい作品として提示できるクオリティを持った作品ができた。トータルで5年間の事業となったダン活も今年度を持って完結となったが、この期間中に得た成果を今後どう活用するかが大きな課題だと考えている。

**●今後の事業展開や展望**

A・B・Cの3ヶ年を通して、コンテンポラリーダンスと義太夫とのコラボをやり切ることができた。徳島にダンスが根付いたとは言いがたいかもしれないが、それでも、創造の余地が生まれる公演を鑑賞したいという層が増えつつあると思っている。今回生まれた作品は単なるコラボではない新たな作品だと思う。この取り組みを一過性のもので終わらせるのではなく、今後も展開していきたいと思う。



●この地域のダン活の特徴

徳島のダン活は、コンテンポラリーダンスと義太夫のコラボレーションを謳った「コンテンポ太夫」というコンセプトで3年目を迎え、集大成としてCプロに臨むはずだったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた延期を経て、足掛け5年のプロジェクトとなった。

最初の下見では、Bプロの反省をふまえて作品の方向性を検討した。Bプロをご覧になった観客の中には、コンテンポラリーダンス、もしくは義太夫を初めて観て、作品を面白いと思う人も、「分からない」と感じる人も、賛否両論あったことから、作品や「コンテンポ太夫」に対する理解を深められる機会をつくることが課題として挙げられた。集客の懸念もあり、ダン活枠外で、ホール側が阿波十郎兵衛屋敷でのレクチャーワークショップを企画した。作品や、人形浄瑠璃と身体をつながりをレクチャーして、実際に身体を動かす機会もつくることで、作品理解を深めることや集客への効果が期待された。

演目は、Bプロに続き『壺坂観音霊験記』。同じ作品をモチーフにすることで、親しみやすさと本格的な作品であることのバランスを保ちながら、「コンテンポ太夫」の新しい解釈で実験を繰り返した。また、三味線以外で独奏できる共演者を入れる案が浮上し、コントラバス奏者が加わることとなった。

クリエイションは、延期を挟んだこともあり、ダン活枠外で演者が集まる機会を何度か設けられた。延期実施年度には、浄瑠璃フェスティバルで一旦上演の機会をつくることもでき、その度に、ダンスと義太夫、コントラバスをどう融合させていくか、演者同士の理解や作品への理解を深める時間を持つことができた。

延期後の本番期間は、あわぎんホールの改修に重なったため、新しく開館した藍住町総合文化ホールをお借りして実施。何度目かの感染拡大の最中、広報も難しい時期だったが、ホール担当者はもちろん、各方面のご協力を得て実施することができた。

公募WSは、幅広い年齢層の参加者が集まり、直接的なふれあいができなくても、人と人とのつながりが感じられる内容だった。接触到に制限はあったが、参加者の感想で述べられた「他の人のことを考える」という言葉通り、身体を通したコミュニケーションが生まれていた。上演と同じメンバーと一緒に参加して生演奏で動く場面もあり、音楽を感じることで身体の動きも変化していくことが体感できる贅沢なWSだった。

作品は、身体と音楽で物語を贅沢に紡ぐ構成となった。夫婦二人がお互いを深く想い合い、それゆえ疑ったり試したりする心の動きや、何気ない日常の所作、観音様の神々しい浄土の風景など、時にコミカルに、時に切実に、様々な想いや情景が、ダンスや義太夫、コントラバスの音色により豊かに描かれた、あつという間の60分間だった。

今回のコラボレーションがどう受け止められたか、難しさや違和感もあったかもしれないが、アンケートからは、新しい挑戦であったことが観客に伝わり、新鮮さや面白み、可能性を感じてもらえたことが読み取れた。ダンスと義太夫、コントラバスが融合していく過程を目撃した者としては、どんなジャンルの表現にも通じる、踊ることや歌うこと、奏でることへの人間の根源的な欲求や、昔から人々が営んできた芸術文化との共通点を見つけられた時間でもあり、伝統的なものと、そこにふれることからこそ生まれる、今までに見たことのないモノに心踊らされる幸せな時間だった。

●課題とこれからに向けて

公演が一旦中止になったことは、誰にとっても辛い決断ではあったが、義太夫という歴史ある文化に対して、コンテンポラリーダンスやコントラバスという音楽でコラボレーションする時、十分なクリエイションの時間が必要であり、二年間をかけて公演に臨めたことは結果的に大変有意義であったと思う。共に過ごす時間が増えれば増えるほど、お互いと作品への理解が深まり、何を知らないのかが明らかになり、課題に気づくこともできた。

その過程で、様々な方が創作を支えてくださり、テクニカルの方々も、浄瑠璃やダンスだけの時とは違うことに戸惑いもあっただろうが、作品の意図を理解して舞台上で実現しようと、本番期間中ずっと舞台についてくださり、一緒につくり上げてくださるとも心強いチームだった。徳島という地で、そこに根付いている芸術文化を、そこに縁のある人たちと共に、新しいアプローチで一つの作品という形にして劇場から発信できたことは大きな成果であり、今後も「コンテンポ太夫」の挑戦が続いていくことを心から期待している。

実施団体	タクトつるおか共同企業体
実施ホール	荘銀タクト鶴岡
実施期間	令和4年2月9日(水)～2月12日(土) ※新型コロナウイルス(COVID-19)の感染が拡大している状況を受け事業中止
アーティスト等	アーティスト:長井江里奈 共演者:北園優、鈴木綾香 テクニカルスタッフ等:ニシハラ☆ノリオ(舞台美術)
コーディネーター	中富勝裕

■公募ワークショップ(実施日時、対象、参加料、会場)

① 3月7日(土) 15:30～17:00、中学生以上、チケット代+500円、荘銀タクト鶴岡 大ホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場)

■【Dance!Dance!TACT!】山猫団ダンス公演「踊りの為に」

■ 2月12日(土) 14:00開演(13:30開場)

■ 長井江里奈、北園優、鈴木綾香

■ 全席指定 一般2,000円 U-25 1,000円(未就学児不可) ※当日500円増

酒田・鶴岡セット券 一般3,000円 U-25 1,500円

■ 荘銀タクト鶴岡 大ホール

(表面)



A3 観音折り(中面)



(裏面)



# スケジュール

Cプログラム 山形県鶴岡市／荘銀タクト鶴岡

	下見	
	6/7 (月)	6/8 (火)
9:00		宣材撮影・インタビュー
10:00		↓
11:00		↓
12:00	移動・昼食	昼食
13:00	打合せ	打合せ
14:00	↓	↓
15:00	↓	↓
16:00		↓
17:00	インリーチ	移動
18:00	↓	
19:00	↓	
20:00	顔合わせ	
21:00		
22:00		

実施期間			
2/9 (水)	2/10 (木)	2/11 (金)	2/12 (土)
※新型コロナウイルス (COVID-19) の感染が拡大している状況を受け事業中止			





# 事業資料



フェニーチェ堺

A4 両面 (4色)

ふとした時に  
かたくなる からだや心も、  
まろく やわらかく  
なれる時間

# まろくをかく

おどるワークショップ

2022  
1/23日 10:00~12:30  
フェニーチェ堺 大スタジオ

参加料/大人1,000円 子ども500円(小児(中学生以下) 高校生以上は別途参加料)

寒い体でも、運動不足でも、動きかしらも、疲れていても  
多いから、止まったり、ゆるくゆっくり、どんがたたり〜  
あなただけの「ダンス」をさがしにきてください。

2022年 1月19日 〇まで  
20名 事前申込制

有記WEBワークー  
参加はすべて有記WEB  
※参加費はメール・お申し込み  
※参加費はメール・お申し込み  
※参加費はメール・お申し込み

ワークショップナビゲーター  
マニシア MANIZIA ダンス  
DAI パーカッション

主催/お興会社 / 公益財団法人堺市文化振興財団 TEL: 072-228-0880 (受付 9:00-17:30) FAX: 072-228-0115 MAIL: jgyo@sakai-bunkai.or.jp

まろくをかく  
おどるワークショップ

決まった振付も、正しい間違えも、  
やったことある・ないも関係ありません。  
ちょっと体で「楽しく遊んでみたい」  
そんな気持ちがあれば、あそびにきてください。

2022  
1/23日 10:00~12:30  
フェニーチェ堺 大スタジオ (受付:30分前)

募集期間  
2022年1月19日 〇まで  
※延長になり次第更新

### F A X 参加 申込書

フリガナ	年齢 (学年)
参加者氏名	
e-mail	
T E L	
F A X	
住 所	※任意(MAIL・FAXがない場合はのみ)
備 考	※未読郵便が参加される場合は氏名・年齢をご記入ください。 ※反対に配慮が必要な方はご記入ください。

公益財団法人堺市文化振興財団 FAX: 072-228-0115

※お申し込みの際はご参加ください。(緊急ではありません) ※お申込みのワークを予定しています。  
※当日は無断(7時5分以降)の参加者、体調の悪い方は、参加をご遠慮ください。  
※マスタは参加したまま、ワークを行います。 ※来校學員は、事務局の方と一緒に参加してください。  
※異学年や休みの日は、入室できません。(職員等のある方の参加はご入室いただけます)

茅ヶ崎市民文化会館

A4 片面 (4色)

会社帰りに、放課後に、  
アートの、自分磨きにetc.  
気楽に参加してみてくださいね!  
いつもとちょっと違った  
アナタに出会えるかも!!  
さあ、みんなで踊りまSHOW!!

# ヒトとオドル モノとオドル ココロオドル ダンスワークショップ 参加者募集

日時: 2022年2月5日 (土) 14:00~16:00  
場所: 茅ヶ崎市民文化会館 大ホール舞台上

ダンスで開かれたダンスカンパニー  
/ ヌノカウガとアタマで  
落ちていく喜びを味わいます!  
運動が苦手でも、自信がなくても大丈夫!  
入場料が無料も、お楽しみグッズも  
みなさま無料です!  
お楽しみグッズも、お楽しみグッズも  
お楽しみグッズも、お楽しみグッズも  
お楽しみグッズも、お楽しみグッズも

講師: 藤田 清菜 (あじた まい)

茅ヶ崎市民文化会館  
TEL: 0467-85-1125 (受付 9:00-17:30)  
FAX: 0467-85-1125 (受付 9:00-17:30)  
MAIL: jgyo@sakai-bunkai.or.jp

お申し込み先  
茅ヶ崎市民文化会館  
TEL: 0467-85-1125 (受付 9:00-17:30)  
FAX: 0467-85-1125 (受付 9:00-17:30)  
MAIL: jgyo@sakai-bunkai.or.jp







白河文化交流館コミネス

A4 両面 (2色/4色) (出演者募集)

**康本雅子と一緒にダンス公演を創ろう!**  
@コミネス

あなたに反響するわたしのカラダに・・・

**「Taiwanwan」**  
・・・に反響するあなたのカラダ

コミネスでは、今年1月に康本雅子ダンス公演「子うすら」を上演し、様々な方にダンスの魅力を感じて頂きました。今回は、皆さんと一緒に「コミュニケーション」をテーマにした作品を創ります。公演名の「Taiwanwan」には、身体どうしの「対話」によって、お互いの身体が反響していくイメージが込められています。

**メンバー募集!**

**出る人**  
ダンス・歌・音楽など表現に関わることをやってみたい人

**公演スタッフ**  
広報、プログラム作成、舞台設営、衣装等に興味がある人

合計7日間で創ってコミネスで発表!

**一緒にダンス公演を創るメンバーを募集します!**

(クラス) ①出る人 (8~15人程度)  
②公演スタッフ (5~10人程度)  
(対象) 中学生、高校生  
(条件) 企画に興味があり、すべての日程に参加できる方(都合のわるい日がある場合はご相談ください)  
(会場) 白河文化交流館コミネス 小ホール  
(参加費) 無料

クリエイション前半	2021. 12/3 (金)	18:00~21:00	クリエイション①
	12/4 (土)	13:00~18:00	クリエイション②
	12/5 (日)	13:00~18:00	クリエイション③
クリエイション後半	2022. 1/12 (水)	18:00~21:00	クリエイション④
	1/13 (木)	18:00~21:00	クリエイション⑤
	1/14 (金)	18:00~21:00	クリエイション⑥
	1/15 (土)	13:00~18:00	クリエイション⑦
		19:00~21:00	リハーサル
ダンス公演 当日	1/16 (日)	10:00~16:30	リハーサル 本番 振り返り

①「出る人」と一緒に創るアーティスト

**康本雅子 (やすもと まさこ)** ダンサー・振付家  
舞臺の裏面の裏の裏の裏。2児の母。自身のダンス作品を国内外で発表するほか、多岐に渡るジャンルにて活動している。ダンス・ミュージック・映像・パフォーマンスの舞台への演出、MV、音楽、Soyuのミュージックビデオやコンサートでの演出、TV番組や広告への演出など。19年には長久山監督「オーバー・アクト」(ダンス)に出演。今夏公開の映画監督「俺とぼやの娘」の演出も担当。また全国各地の劇場や小学校にてワークショップや作品制作も多数行っており、現在は「マシな性教育プロジェクト」も活動中。

**奥野博希 (おくのまさのり)** 舞台制作者  
1992年大塚生まれ。湘南学院大学。早稲田大学にて建築とアート・マネジメントを専攻。在学中から広告代理店にて働き、アート・デザインが得意な中、2004年、友人に誘われ「創」を持ったダンス公演に観学を受け、その公演の制作をしていた舞台美術のプロダクション「Freeze」に入る。以降、国内外に多数のダンス・演劇・音楽公演の企画・制作を手掛ける。また、海外アーティストの国内外公演の制作なども担当。2015年に独立。現在は父の事業を継ぎ社経営をしながら、舞台美術の企画・制作を続ける。

【お問合せ】白河文化交流館コミネス 事務局 0248-23-5300 jgyou@cominess.jp

野々市市情報交流館カメラリア

A4 両面 (4色)

野々市市情報交流館カメラリア コンテンポラリーダンスワークショップ

野々市オリジナル **ダンス** をつくろう!

2021. 12/16 (木) 18:00~20:00  
野々市市情報交流館カメラリア 第一ホール

講師 藤田善宏氏  
振付家・演出家・ダンサー・デザイナー、ダンスカンパニー CAT-A-TAC (キャットアタック) 主宰、コンドルズメンバー、第72回文化庁芸術祭実行委員会事務局、福井県立元氣県民体育会式典実行委員会委員、群馬大学非常勤講師、身体表現と道具を使った台詞のない物語、柔軟な発想を生かした異ジャンルとのコラボが得意。三世代目で楽しめるダンス界の伝説的振付家として活躍中のコトバや現象演出、幼児教育教材の提供、小塚和子特選ダンスアカデミー、ダンス・カミ、主催舞台芸術祭THE MIMICRYへの制作チーフ・演出、NODA・MAP、山形大学演劇演出ユニットへの出演、NHK 舞臺芸術の演出・演出者、MV、CM、舞台演出、演出指導等。障がい者対象のWSなど多岐に亘る活動にも力を入れている。奨励賞、プロレス・仏像愛好家、メカ・アンティーク収集家。

「ひらめきとおもしろさを大切に」  
振付家・ダンサーの藤田善宏がナビゲート!

自由に身体をつかって自分の中に眠っている動きを引き出しながら、まだ見ぬあなたに出会ってみませんか?  
運動神経、柔軟性、ダンス経験、一切問いません。  
この場だけで生まれる物語(野々市オリジナルダンス)と一緒に作りましょう!

対象 小学5年生以上から大人まで 20人程度  
参加費 500円  
申込方法 カメラリアホームページの専用フォーム  
申込締切 11/30(火)17:00 申し込み多数の場合は抽選  
申込先 野々市市情報交流館カメラリア 0276-227-6200  
申込先 カメラリアホームページの専用フォーム  
お問い合わせ 0276-227-6200  
主催 白河文化交流館、野々市市情報交流館カメラリア  
共催 一般財団法人 地球楽園

野々市市情報交流館カメラリア コンテンポラリーダンスワークショップ **野々市オリジナルダンスをつくろう!**

野々市のみなさんこんにちは!

ワークショップではもっとも一般的に気軽にコンテンポラリーダンスというものに触れていただけたらと思っています。  
でも、コンテンポラリーダンスって何? ムジカ? ショウ?  
ノンノン! カラダとアタマを使ってとにかく遊びます!  
初心者歓迎、経験者も歓迎。人見知りさんでも、みなさまワークカム!  
運動が苦手でも、自信がなくても大丈夫。  
会社帰りに、放課後に、デートに、自分磨きに、気軽に参加してみてくださいね!  
いつもとはちょっと違ったあなたに出会えるかも!!

か〜いキモチで、か〜いカラダで。  
どんなダンスが生まれるか。ドキドキワクワクのひとときを一緒に!  
さあ踊りまSHOW!!

藤田善宏 (ふじたよしひろ)  
振付家・演出家・ダンサー・デザイナー、ダンスカンパニー CAT-A-TAC (キャットアタック) 主宰、コンドルズメンバー、第72回文化庁芸術祭実行委員会事務局、福井県立元氣県民体育会式典実行委員会委員、群馬大学非常勤講師、身体表現と道具を使った台詞のない物語、柔軟な発想を生かした異ジャンルとのコラボが得意。三世代目で楽しめるダンス界の伝説的振付家として活躍中のコトバや現象演出、幼児教育教材の提供、小塚和子特選ダンスアカデミー、ダンス・カミ、主催舞台芸術祭THE MIMICRYへの制作チーフ・演出、NODA・MAP、山形大学演劇演出ユニットへの出演、NHK 舞臺芸術の演出・演出者、MV、CM、舞台演出、演出指導等。障がい者対象のWSなど多岐に亘る活動にも力を入れている。奨励賞、プロレス・仏像愛好家、メカ・アンティーク収集家。

福徳での公演情報!

絵本のような世界観をカラフルに演出するユーモアたっぷりのよびり不思議な物語 **こどもも大人も楽しめるダンス劇公演** **クリスマス** ニヴァンテ 野々市市文化会館福徳ホール 大ホール  
2021. 12/19 (日) 14:00~15:30

(チケット料金) 全席自由 当日料金は300円増し  
ステージオンステージ (50~100名程度に限定して販売いたします)  
●一般...1,000円 ●高校生以下 (4歳以上入場可)...500円  
●ファミリーペア割 (一般と子ども)...1,300円  
●フリースポット割 (2名以上同時購入)...500円  
●その他...お問い合わせください。入場料は別途です。  
(チケット取扱) 野々市市情報交流館カメラリア/野々市市文化会館福徳ホール

# ワークショップ

さんかしゅ びしゅうちゅつ  
参加者募集中!

### 工作ワークショップ かぶりもの ワークショップ

独創的な発想で子どもたちにも人気の「かぶりもの作家」ニシハラタノリオによる工作ワークショップです！  
新聞紙とカッターでカブトムシを切り出して、貼って、顔に貼るオリジナルの「かぶりもの」を作ります。  
世界に一つだけの「かぶりもの」をみんなで楽しんでみましょう！

日程 2022年2月26日(土) 14時～16時

場所 小牧市公民館 講堂

対象 小学生(1年生～6年生) 定員 20名

料金 200円(材料費・保険料)

持ち物 汚れてもいい服装



講師：ニシハラタノリオ

みんなで作って楽しく！  
世界にひとつだけの  
かぶりものを作ろう

### ダンスワークショップ 山猫団ス!

舞台芸術団「山猫団」のダンサー一帯が率えて、各地の学校等で身体を動かす楽しさ、美しさを感じている長井江里奈氏によるワークショップです！  
ダンスを触れたい、運動がちょっと苦手という方大歓迎！楽しいことは何もありません！  
市民会館大ホールのステージで、美しくカラダを動かしてみよう！

日程 2022年3月5日(土) 16時～17時

場所 小牧市市民会館 大ホール舞台上

対象 小学3年生以上 定員 20名

料金 300円(保険料)

持ち物 動きやすい服装、タオル、飲み物

講師：長井江里奈

はじめてでもOK!  
一生にカラダを  
動かしましょう



◆お申込み◆



工作ワークショップ  
TEL: 0568-71-9700  
0568-71-9700

こまき市民文化財団 (tel 71-9700) ※22

ホームページ内メールアドレスにて  
お申込みください

※申込み要



ダンスワークショップ  
TEL: 0568-71-9700  
0568-71-9700

お問合せ **こまき市民文化財団** TEL 0568-71-9700

MAIL info@komaki-bunka.or.jp

〒485-0041 小牧市小牧2-07 市民会館内 HP: http://www.komaki-bunka.or.jp

主催：(一財)こまき市民文化財団 共催：小牧市・小牧市教育委員会





A4 観音折り 両面 (4色)

振付・演出 康本雅子

出演 〈高校生〉及川心音、紺野陽奈、鈴木美羽、鈴木留奈、角田涼葉、藤島美優、丸山はるか

康本雅子、小山まさし

音楽 ミウラ1号

制作 〈高校生〉鈴木美緒、中田智隆、奥野将徳、中沢千早、佐々木郁哉\*

制作協力 寛久舞美苑 (Dance New Air) 奥島美穂、栗林礼也 (一般財団法人 地域創造)

舞台監督 後藤弘人\*

照明 吉川穂子\*、鈴木純奈\*

音響 鈴木大樹\*

\*白河文化交流館コミネススタッフ

主催：白河文化交流館コミネス (指定管理者NPO法人カルチャーネットワーク)

共催：一般財団法人地域創造

後援：白河市、白河市教育委員会、福島県民福祉福島民友新聞社、ふくしまFM

協力：コミュニケーションカフェEMANON

高校生と一緒に創るダンス会社

あなたに反響するわたしのカラダに...  
Taiwanwan  
...に反響するあなたのカラダ

2022.1.16(日) 14:00開演  
白河文化交流館コミネス 小ホール

### お前はもろ 踊っている

～プロジェクトの概要～

コミネスの理念である市民共創に基づき、今日のダンス公演も市民参加を目的としています。その中でも、あまり馴染みのない若者に新しい体験や交流をもらい、互いに新しい笑顔を添って欲しいという思いから、今回の公演が生まれました。

今回の公演は、高校生9名が参加し7日間のワークショップを行いました。ダンスチームと制作チームに分かれ、高校生主体でのダンス制作を行いました。ダンスチームでは、康本さんが決めたルールに守られ、自由に自分の体を動かすワークを行いました。相手との対話をテーマにした、2人組で行うものも多かったです。その中で、高校生一人一人が体の対話について考えていきました。制作チームでは、舞台に変わる様々なことの話し合いを重ねました。コミネスの場や当コメンタリーの内容、SNSを使った広報を共に担当しました。

～作品のテーマについて～

今回の作品のテーマは「コミュニケーション」です。タイトルの『Taiwanwan』には、身体同士の「対話」によって、お互いの身体が反響していくイメージが込められています。

私たちの言う身体同士の「対話」は、ダンスやパフォーマンス、表情、声のトーン、ダンス、歌、姿勢、距離などです。この対話によって、私たちの一度きりのダンスが生まれ、変化し、広がっていきます。私たちのダンスは、みなさんが見ているようなものではないと思います。リズムや音楽に合わせて踊ることもダンスですが、互いあちこちに行っている仕事や行動、相手とのコミュニケーションもダンスだと私たちは考えます。そこで、作品のキャッチコピーに「お前はもろ踊っている!」という言葉を導きました。

この時間では、身体同士の「対話」を知ることができます。また、相手の感情を身体を通して知ることもできます。お祭りは遠く「対話」を見つければいい。公演後は、いろいろな人と「対話」や「ダンス」について話し合ってみてください。

### 出演者・スタッフ紹介

〈ダンスチーム〉

今回は、対話ということで漢字一文字で作者紹介を行いました。みんなから見た出演者の個性を感じていただけたら嬉しいです。


 <b>包</b> 明るく気配りができ、とても積極的な性格。もちもちしていて包容力がある。	 <b>突</b> ツッコミ上手で優しい。冷静。決まったことは最後までやり通す。
 <b>光</b> ポジティブで明るく、どんなことでも一生懸命やる。周りを明るくする。	 <b>照</b> 静かな性格だが、何に対しても一生懸命。時々照れて、顔が赤くなる。
 <b>波</b> ノリが良く、面白い、優しい。一緒にいて楽しい存在。子供心がある。	 <b>聡</b> 聡明で何に対してもよく考える努力家。自分を持っていて真っ直ぐだが、時々謙みがある。

### 制作チーム

 <b>芯</b> 明るく、フレンドリーで穏やかな性格。自分の志を持っている。声が優しい。	 <b>虎</b> 話しやすい気ままな性格。でも、どこか本能的で強さを持っている。本当に真年!
 <b>前</b> ポジティブ思考で、何事にもとことん楽しく向き合う。後ろは向かない。	 <b>熱</b> 音楽に対して、熱く、深い思いを持っている。何に対しても熱心な性格。
 <b>浮</b> みんなが考えられないようなアイデアを出す。浮世離れしている。	 <b>鷹</b> 鷹のように、上から冷静にみんなをまよく見て考える。無邪気な場面もあったりする。

アイム・ユニバースてだこホール

A3 二つ折り 両面 (1色/4色)



アイム・ユニバースてだこホール  
AIM UNIVERSE TEDAKO HALL

Tel: 099-942-4360 FAX: 099-942-4335  
E-mail: tedakohall@tedakohall.jp  
http://www.tedakohall.jp

※本館の貸し出しは事前予約が必要です。

# アンババダンス

北尾巨タンズカンパニー Baobab 沖縄公演

2021/7/4 (Sun)  
開演 14:00 (開場 13:30)  
アイム・ユニバース てだこホール  
小ホール

演出・構成・演出 北尾巨  
出演 北尾巨 [Baobab]、米田沙織 [Baobab]、伊藤まこと [Baobab]  
河内優太郎、山田家暉  
快活・ドラマトール 中瀬俊介 [Baobab]  
振り付け 米田沙織

チアリーダー 伊藤まこと (OZU-デザインと制作の「5」)  
主催 アイム・ユニバース てだこホール  
共催 一般財団法人地域創造

本日は、北尾巨・ダンスカンパニー「Baobab」沖縄公演「アンババダンス」にご来場いただき誠にありがとうございます。本日は、北尾巨・ダンスカンパニー「Baobab」沖縄公演「アンババダンス」にご来場いただき誠にありがとうございます。

「まぶらない」「大層をださない」「好きと愛は似てない」などなど、人の生活において必要不可欠なものを表現されて、もう一歩上になります。劇中やスタジオが休演・閉演し、ダンスをはじめとするパフォーマンスにおいては、上達の過程・中止・復帰の壁を乗り越え、とてもしんどい時代だとなしひしと愛しています。ライブも、もちろん楽しいです！「まぶらない」「好きと愛は似てない」を、舞台、同じ空間で体験なくともあるのが嬉しい！「まぶらない」は、観客の心を揺るがすことと愛のかけがえのないものです。

先行のまぶらないが売れていないこのコロナ禍においては、誰もが何かしら不安や苦しさを、ネガティブな感情を抱えているのではないかと感じます。この「アンババダンス」を通じて、そんな苦しみや不安を表現し、振り切って、受け止めてほしいという思いで「まぶらない」を制作しました。その思いが伝わるように、カンパニーの皆さまの思い、届ける、観る、ご来場の皆さまの心まで届きますように。

最後に、おのれを思い起こしていただき、カンパニー、関係スタッフの皆さまに感謝申し上げます。

みなさま、どうぞ楽しんでいただければ幸いです！

アイム・ユニバース てだこホール 企画担当

### ■出演ダンサー



**米田 沙織** よねだ・さおり / Baobab  
千葉県出身。幼少よりクラシックバレエを習い、大学にてコンテンポラリーダンスに出会う。これまでに国内外の舞団、舞踊家などの作品に出演。Baobabは舞臺からそのスタイルとして数々の作品に出演している。



**伊藤 まこと** いとう・まこと / Baobab  
子どもの頃にジャズダンスを学び、大学時代から始めるコンテンポラリーダンスに現在もなお月を欠かない。北尾巨、長瀬麻由の作品などに出演。2018年頃から活躍するなど共同制作の作品を積極的に発表。Baobab若手メンバー。



**河内 優太郎** がわち・ゆうたろう  
神奈川県出身。大学でバレエを専攻。後、演劇の世界へ飛び込む。ダンスカンパニーCo. 山田さん / Afternoon 所属。これまでに山田さん、伊藤まこと、北尾巨、長瀬麻由、小野田太、奥村龍生等の作品に出演。



**山田 家暉** やまだ・まりん  
3歳よりヒップホップを始め、その後ジャズダンスや現代ダンスを学ぶ。舞臺からコンテンポラリーダンスを本気で目指す。これまでに北尾巨、長瀬麻由と共同制作の作品に出演。

### ■快活・ドラマトール



**中瀬 俊介** なかせ・しゅんすけ / Baobab  
1983年、東京生まれ。大学時代からライブパフォーマンスの経験があり、企業での仕事も始める。2017年にBaobabに加入。快活のみならず、ドラマトールとして北尾巨とも共同制作の作品を作る。



**上原 なつき** うへはら・なつき  
5歳の頃から、バレエを学ぶ。2007年よりCompany Dream Artに所属し、2012年以降の同カンパニーにおける作品の演出・演出も担当する。クラシックバレエをベースに、コンテンポラリーダンス、ミュージカルのダンス指導も行う。

### ■アフタートーク ゲスト登壇者



**大見 剛一** おおみ・たかのり  
2009年より琉球大学にてミュージカル、舞臺活動を開始。2010年よりクラシックバレエを学ぶ。2012年以降の同カンパニーにおける作品の演出・演出も担当する。クラシックバレエをベースに、コンテンポラリーダンス、ミュージカルのダンス指導も行う。



**大見 剛一** おおみ・たかのり  
2009年より琉球大学にてミュージカル、舞臺活動を開始。2010年よりクラシックバレエを学ぶ。2012年以降の同カンパニーにおける作品の演出・演出も担当する。クラシックバレエをベースに、コンテンポラリーダンス、ミュージカルのダンス指導も行う。

-108-

A4 片面 (4色)

野々市市情報交流館 11月 14日 14:00~ 野々市市情報交流館 フォルテ 大ホール

### クリスマス

2021.12/19 (日) 14:00~

野々市市情報交流館 フォルテ 大ホール

～お楽しみグッズ～

※当日は会場にお渡しするグッズがございます。

「クリスマスとスヌース」は、当館が主催の祭りに合わせて作成したオリジナルのキャラクターです。このキャラクターは、野々市市情報交流館のシンボルキャラクターとして登場し、皆様と一緒にクリスマスを過ごすためのイベントを開催いたします。

本日はお楽しみグッズをご用意しております。

※当日は会場にお渡しするグッズがございます。

「クリスマスとスヌース」は、当館が主催の祭りに合わせて作成したオリジナルのキャラクターです。このキャラクターは、野々市市情報交流館のシンボルキャラクターとして登場し、皆様と一緒にクリスマスを過ごすためのイベントを開催いたします。

本日はお楽しみグッズをご用意しております。

### ニヴァンチとは?

野々市市情報交流館のシンボルキャラクターとして登場し、皆様と一緒にクリスマスを過ごすためのイベントを開催いたします。

本日はお楽しみグッズをご用意しております。

「クリスマスとスヌース」は、当館が主催の祭りに合わせて作成したオリジナルのキャラクターです。このキャラクターは、野々市市情報交流館のシンボルキャラクターとして登場し、皆様と一緒にクリスマスを過ごすためのイベントを開催いたします。

本日はお楽しみグッズをご用意しております。

### 藤田 善宏

イラストレーター

代表作：『おとぎ話』『おとぎ話』『おとぎ話』

野々市市情報交流館のシンボルキャラクターとして登場し、皆様と一緒にクリスマスを過ごすためのイベントを開催いたします。

本日はお楽しみグッズをご用意しております。

### 村田 正樹

DJ

代表作：『おとぎ話』『おとぎ話』『おとぎ話』

野々市市情報交流館のシンボルキャラクターとして登場し、皆様と一緒にクリスマスを過ごすためのイベントを開催いたします。

本日はお楽しみグッズをご用意しております。

A3 二つ折り 両面 (1色)

田村一行 (舞踏家・振付家)

日本大学芸術学部卒。1998年大駒駝艦入艦、麻赤兒に師事。以降、大駒駝艦全作品に出演。02年、『雑踏のリベルタン』を発表。同作品により第34回舞踏批評家協会新人賞受賞。08年、文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。地域の文化や風土を題材とした作品の創作にも意欲的に挑み、独自の世界を発表し続けている。小野寺修二、宮本聖門、白井見、渡辺えり、笹井敷、ジョセフ・ナジ、小松原麻子の舞台など客演も多数。また、子供から高齢者まで幅広い対象者への舞踏ワークショップ・アクトリーチを各地で展開し、好評を得ている。11年より (一財) 地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」登録アーティスト。

大駒駝艦

麻赤兒主宰。1972年創設。その様式を“天賦典式”(てんふてんしき:この世に生まれ人したことこそ大いなる才能とする)と名付け、忘れ去られた「身振り・手振り」を採集・構築し、数多くの作品を生み出している。1982年、舞踏カンパニーとしては初のフランス・アメリカ公演を行い、鮮烈なインパクトを与えて広く「Butoh」を浸透させた。また、麻赤兒の考え方である「一人一派」を実践し、山海塾や室伏鴻など多彩な舞踏グループ及び舞踏手を多数輩出している。現在、東京・吉祥寺にあるスタジオ「宙中天」(ちゆうてん)を拠点とし、様々なユニットを内蔵、大駒駝艦・天賦典式公演等を精力的に行っている。毎夏恒例となった長野県白馬村での舞踏体験合宿には、国内外から多数の参加者が集まる。1974年、87年、96年、99年、07年、12年、19年舞踏批評家協会賞受賞。

オフィシャルサイト: <http://www.dairakudakan.com>

令和3年度公共ホール現代ダンス活性化事業

大駒駝艦 | 田村一行 | 舞踏公演

みやこそくぶんき  
宮古仄聞記

令和4年1月23日 (日) 14:00

宮古市民文化会館

主催: 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

共催: (一財) 地域創造・宮古市・宮古市教育委員会

企画・制作: 宮古市民文化会館 (令和3年度芸術文化事業)

ごあいさつ

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。このような大変な状況の中、宮古市での公演を実施できますこと大変光栄に存じます。

昨年5月にはじめて宮古市を訪れ、その時に聞き触れることのできた宮古の様々な風景・物語に多くのことを感じさせていただきました。以来今日まで部屋にこもらねばならない陰鬱な時間も、この作品のことを構想する時だけは、宮古の海と風に包まれながら美しい景色の中を自由に旅することができました。「宮古仄聞記」はその体験を一つの作品にまとめあげた次第です。

最後となりましたが、本公演は多くの方のお力によって実現しました。この場をお借りしてお礼申し上げます。本日は折りと願いを込め誠心誠意舞台に立つ所存です。どうぞ最後までお見届けください。

[振付・演出・美術] 田村一行

スタッフ

[テクニカルスタッフ] 阿蘇 尊 (大駒駝艦)

[コーディネーター] 中西 麻友 (芸術家と子どもたち)

[地域創造スタッフ] 田中 舞

[写真・動画撮影] 井田 裕基

[舞台] 藤村 勝好

[音響] 岩間 美紀

[照明] 須賀原 丈二

[ポスター・チラシデザイン] 大原 愛

[制作] 成田 邦敏・島香 英美

出演者

田村 一行

高桑 晶子

ヤン ジョンエ  
梁 鐘譽

場面表題

1. 旅のはじまり
2. 深き淵より汝を呼べり
3. 小石の想い出
4. 宮古詣で
5. 津軽石川の鮭
6. 絡新婦
7. オシヤラクの祈り
8. 又兵衛さまへ

アンケートのお願い

本日の公演はいかがでしたでしょうか?今後の事業に活かして参りますので、アンケート用紙または下のQRコードからアンケートにお答えください。どうぞよろしくお願いたします。





## 希望ホール（酒田市民会館）

A3 二つ折り 両面（1色）



令和3年度アーティスト・イン・レジデンス事業  
中村蓉ダンス公演

*Giselle*

ジゼル

ジゼル、教えてほしい。  
この身を越える愛の選択を。

振付・構成・出演／中村蓉

2022.2.6 sun.

希望ホール（酒田市民会館）大ホール 舞台上ステージ

  
<https://www.kibou-hall.sakata.sanomatsuri.jp/>

主催：酒田市／酒田市民会館 共催：文化芸術推進部「ジゼル」会館 共演：1-01/地蔵堂 監修：宮崎サトシ

### ARTIST MESSAGE

2019年、私と「ジゼル」の永い付き合いは始まりました。その年の秋に「ジゼル短編」を発表。翌年の春に長編「ジゼル」の上演を予定していましたが感染症の影響で中止となり、配信公演を経て、2021年5月ようやく舞台上で完成版「ジゼル」を観ることが出来ました。

創作当初、ロクでもない男に引かれてしまったジゼルの自壊と墜落を盛大に描くことを考えていました。けれども、当たり前に在った人・物・事が劇的に姿を消す現実の日々の中で、物語の焦点は「アルバムレヒトの中で生き続けるジゼル」そして「その先を生きるアルバムレヒト」に移っていききました。

見違せば、ジゼルはあらゆる場所に潜んでいます。テレビ番組や、洋楽ポプスのヒットチャートの中、「ジゼルの愛」について、私に手触りと質感をもたらしてくれたのは英国女流作家ヴァージニア・ウルフが綴る言葉たちです。彼女が水自殺を遂げる前、夫に書き置いた遺書には「あなたのおかげで私の人生は幸せだった」とあります。

（あなたと居た時間は最高に楽しかったのよ）その傷りない輝きが、後悔で苦しむアルバムレヒトをこの先何度も救うでしょう。

私の中にある（ジゼル）、皆さんの中にある（ジゼル）に、今日の輝りが属しますように。

本日は、ご来場いただきまして本当にありがとうございます。

中村蓉

### 中村蓉 / Yo Nakamura

Choreographer, Dancer

### PROFILE

早稲田大学卒業後、ルーマニア・シドゥ国際演劇祭、夏アジアカ文化都市式典（韓国・全州・韓国）など国内外で作品を上演。ロウパンFamiskal[MAGIC]MVの振付や、二期生ニューフェイス劇場「セルセ」では演出と振付を担当。龍ひらみ「笑顔にかんぱい」、アパルチヴァーン「Hello Kitty」MVにも出演。第1回セッションベスト賞(2012)、横浜ダンスコレクション-EX審査員賞(2013)、第5回ダンスフェスティバル(2016)なども受賞。

<b>田花遙 / Haruka Tabana</b> Dancer	<b>仙優奈 / Yuna Sen</b> Dancer
--------------------------------------	---------------------------------

12歳の時にダンス部に入部し、ストリートダンスを始める。18歳の時にコンテンポラリーダンスと出会う。日本女子体育大学舞踊学専攻卒業。これまで大田ゆかり、鈴木ユキオ、中村蓉、大橋可也らダンサーとしての振付作品に出演。

3歳の頃からクラシックバレエを始める。17歳の時コンテンポラリーダンスに魅了され、2016年桜美林大学芸術文化学部演劇専攻入学。コンテンポラリーダンスを志す舞踊子に指導。卒業後、舞臺芸術センターのスタジオ「21」でダンス、劇場JOJOなどでダンサー活動を行っている。

### 中村蓉ダンス公演 「ジゼル」

2020年の春、私の「生」には音楽なく「踊る」ということがあった。  
バレエ「ジゼル」の二幕、死んで蘇ったジゼルと恋人のアルバムレヒトは  
（共に生きた過去・死が別つ今・ひとり生きていく未来）を繰り返す中で、再び蘇り出す。  
一瞬でも永遠でもないその時が私の身体に生まれたなら、それは彼女の、後の、私の、蘇りとなる。

「私は、私の生は、限りなく遠くへ広がっていく。」  
—It spread ever so far, her life, herself.—

振付・構成・出演／中村蓉	映像／中村蓉 (Bazooka)
出演／田花遙 仙優奈	
演奏／田村香織 (HARU-GI)	美術／柳貴男 石原謙吾 音楽協力／長谷川ミチ

A3 二つ折り 両面 (4色)

**山猫団「それでも、踊る」**  
にお越しのお客様へ  
★アンケートご協力をお願い★

本日はご来場いただき、誠にありがとうございました。  
今後の事業をより充実させるために、下のQRコードより、  
アンケートにご協力ください。

※受付期限：3月12日(土)まで



<https://www.komaki-bunka.or.jp/event/8559.html>

Twitter @komaki\_bunka  
Facebook @bunka.komaki




共催：(一財)地域創造 協力：荘銀タクト鶴岡

# 山猫団

## 「それでも、踊る」




令和4年3月5日(土) 14時 開演

小牧市市民会館 大ホール

## 「それでも、踊る」

何も無い舞台から、設営、美術、音響スタッフ総動員で  
ゼロからダンスステージを作り上げます！  
皆さんの目の前で少しずつステージが作り上げられ、  
そこで自由に踊るダンサーと、弾むピアノ。  
そして山猫団の繰り広げる奇想天外な演出の数々。  
こんな状況下でも、ダンスの力を信じて。私たちにできることを。  
山猫団が贈る感動のフィナーレをお楽しみに。



本日はご来場いただき誠にありがとうございます。この定型文のような挨拶を体の奥底から発しています。世の中がどれだけ変化しようとも、生で、劇場でしかできないことがあり、それは誰かに見てもらわなければ存在しないのと同じです。この状況で足を運んで下さったあなたがいるから、ダンスが、舞台芸術が、明日に繋がります。全ては踊りのために。そして踊りはあなたのために。どうぞゆっくりお楽しみください。  
(長井 江里奈)

ダンス公演を見た後は…  
山猫団と一緒にステージで身体を動かそう！  
ダンスワークショップ「山猫団入！」  
最終に受け付けてスタッフを鑑入たり、巻のりと動きを味わってほしいという思いで、新しいことばかりです。観客のご参加お待ちしております！


当日飛び込み参加OK！  
15時30分より市民会館入口にて受付を行います！

3月5日(土)16時～17時(受付15時30分～)  
参加対象：小学3年生以上 会場：市民会館 大ホール舞台上  
参加費：30円(保険料として)

やまねこだん


### 山猫団

ダンサーの長井江里奈を中心に、音楽家、絵描き、造形作家、照明家、音響、舞台監督、衣装作家、写真家で構成される舞台芸術団体。「どこかの誰か、ではなく、あなたのため」をテーマに、公演活動やワークショップ、アウトリーチなどを全国各地で展開している。




ながい

### 長井




えりな

### 江里奈




きたその

### 北園




まさる

### 優



すずき


### 鈴木



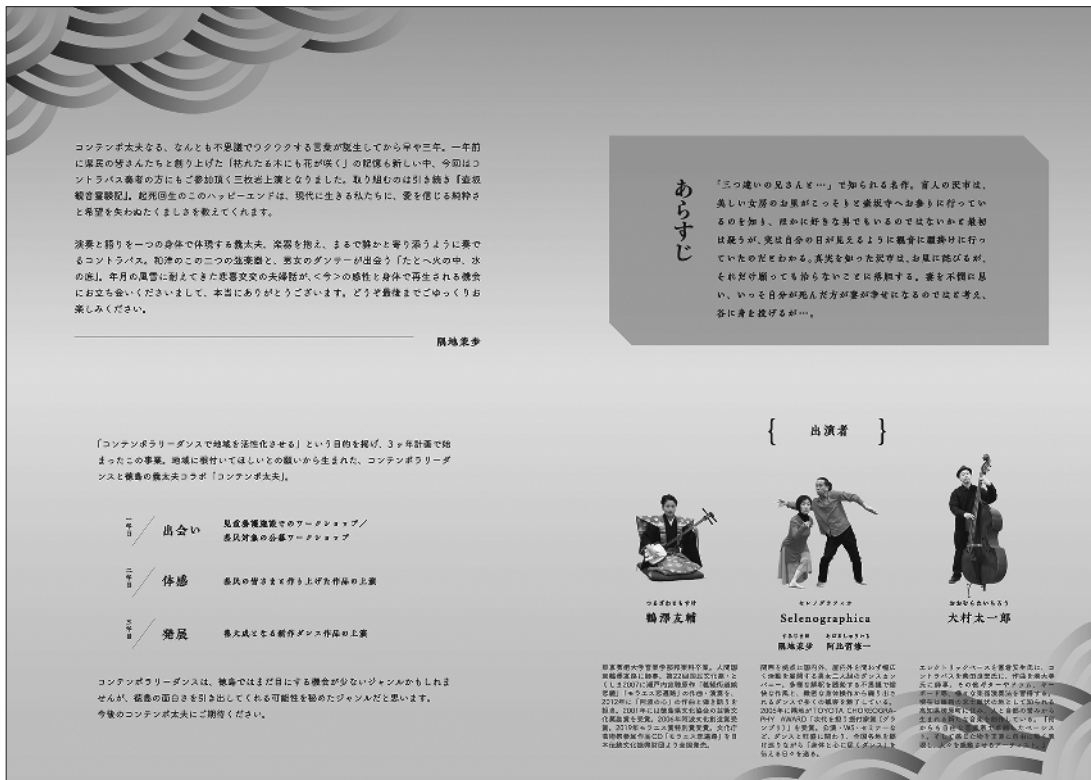
あやか

### 綾香

## ニシハラ☆ノリオ



A3 両面（4色） ※延期前の当日パンフレットへ出演者挨拶を挟み込み配布



A4 片面（1色）（出演者挨拶）

本公演は令和2年2月29日(土)に実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、一度は中止となった公演です。この度、徳島県総合文化センターの協力を得て本日上演の運びとなりました。当日パンフレットはその当時のものですが、今日、新たに上演するにあたり、出演者よりメッセージを預かっておりますのでご紹介します。

出演者挨拶

Selenographica セレングラフィカ

黒地歩 くろぢほ

コテンボ太夫、「それって何？」と尋ねたくなる言葉です。この言葉が誕生して早や5年になります。取り巻くのは一貫して『重宝観音霊験記』。起死回生のこのパロディは、現代を生きる私たちに、愛ゆえの弱さと強さの両方を教えてくれます。悲劇と喜劇の両極を併せ持つ作品に、和洋の二つの張楽師と男女二人の身体で寄り添いながら創作しました。昨年度の浄瑠璃フェスティバルでの30分版を経て、今回このフルバージョンを上演できますことに感謝と感謝が止まりません。歌舞楽界でのこの機会を、かけがえのないものに感じています。原作を大切にしつつ、今今の感性と身体でどのような再生が叶うのか。ご興味くださった皆さまの心に、何か響く瞬間があればうれしく思います。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。本日はここまで足をお運びくださったこと心から感謝しております。

阿比留修一 あひるしゅういち

2017年9月、ここ阿波の国徳島で、「コテンボ太夫」は産声をあげました。もしかしら本日も来場の方さんの中にも、ご覧くださった方、ご参加くださった方がおられるかも知れません。あれから、私たるも約4年という時間を重ね、今日の本番を超えています。新型コロナという大きな出来事をお互いに体験して2年。舞台芸術関係者も劇場関係者も、活動の仕方や根本を深く問い直され続けている今『たどへ次の中、本の底。』は誕生しました。この度、このような製作上演の機会を頂いて、改めて人が生きていく上で大切なことは何なのか？たった一つでも、たどへ次さやかであっても、身体で、語りで、音楽でお伝えできれば心から願っております。

輪澤友輔 りんざわともすけ

出会いがあり、感性の交流が生まれ、コテンボ太夫が出来上がりました。私にとっても様々な未知との遭遇がありました。新しい可能性を求め自分自身への挑戦でもありました。求めるものは、人々との繋がりが、相手を思い遣る心。世代を超えて、ジャンルを超えて生み出されるものがあるのあれば、それを背景にも感じて貰える瞬間があることを願っております。この時代にこの公演を困難でございましたこと、ご来場いただいた皆様、困難にくださった全ての皆様は感謝を込めて御みます。

大村太一郎 おむらたいいちろう

日本の古典音楽にコントラバスでどのようにアプローチするか。私にとって、この数年で取り組んだ「コテンボ太夫」プロジェクトの集大成が本目です。ジャンルや表現形式にとらわれず、人間であること、日本で育ったということ、徳島のこの地で出会ったということ、この2022年に生きるということ。現代の皆さんに喜んでいただきたいのもあるが、江戸時代の人々が観ても感動できる内容であると思います。これを機会に、ぜひジャズや阿波人形浄瑠璃にも触れていただければ幸いです。





## 1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

## 2 対象団体

- (1) 地方公共団体
- (2) 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2)を除く）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

## 3 実施団体の決定

地域創造は、上記団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。決定に当たっては、下記4の各プログラムを継続して実施する団体及び当該事業を実施したことがない団体を優先するが、過去に当該事業を実施した団体であっても、市町村合併の有無、公共ホールの管理者の変更、当該事業についてのスタッフの習熟度等の事情を考慮して、予算の範囲内で決定する。

## 4 事業内容

実施団体は、以下のいずれかのプログラムを実施する。

なお、実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョン（※1）に基づいて選択することとし、事業実施の翌年度以降に他のプログラムを継続して実施することができるものとする。

（※1）ビジョンとは、別紙様式1-2の「事業実施後の事業展開・ビジョン等」のことをいう

### (1) Aプログラム（地域交流プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程で、学校や福祉施設等でのアウトリーチと公募型のワークショップを4～6回実施する。ただし、アウトリーチは3回以上、公募型ワークショップは1回以上実施する。

なお、原則として、事業の実施に向けて、コーディネーター等による現地における個別研修（現地見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、地域創造が決定する。

### (2) Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

原則として、全9日間の事業日程を連続する3日間及び連続する6日間などの2回に分けて、市民参加作品を創作し1回上演する。公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による現地における個別研修（現地見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

### (3) Cプログラム（公演プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程でコンテンポラリーダンスの公演（レパトリー作品（新たに演出されるリ・クリエーション作品含む））を1回上演する。

---

公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

## 5 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。下記以外の経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した経費については、実施団体の負担とする。

### (1) 登録アーティスト等派遣経費

#### ① Aプログラム

登録アーティスト及びアシスタント（ソロの場合1名まで）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

#### ② Bプログラム

登録アーティスト及びクリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※2）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

#### ③ Cプログラム

登録アーティスト及び共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※2）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料  
（※2）テクニカルスタッフ等は、公演準備のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手や制作者及びその他地域創造が認めた者で、個別研修（現地下見）及び実施時に派遣する。

### (2) 公演負担金

Bプログラム及びCプログラムについては、実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、別紙2の対象経費の2/3以内で、50万円を上限に実施団体に対して負担する。

## 6 事業実施に対する支援

### (1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

### (2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターをアドバイザーとして派遣する。

コーディネーターの派遣は、原則として、個別研修（現地下見）及び実施時に行う。

## 7 提出書類等

### (1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2、1-3（1-3はBプログラム及びCプログラムのみ）

令和3年度に本事業の実施を希望する対象団体は、「事業申し込みにあたっての留意事項」を参照のうえ、必要書類を添えて、令和2年7月10日（金）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

---

なお、2(2)及び(3)に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式1-4）。

- (2) 事業実施計画案 …別記様式2-1、2-2  
全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。
- (3) 事業実施計画書 …別記様式3-1、3-2、3-3（3-3はBプログラム及びCプログラムのみ）  
事業実施2か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。
- (4) 事業実績報告書 …別記様式4-1、4-2、4-3（4-3はBプログラム及びCプログラムのみ）  
事業終了後30日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ、パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。  
ただし、令和4年3月15日（火）以降に事業が終了する場合にあつては、令和4年4月15日（金）までに提出すること。
- (5) 公演負担金請求書 …別記様式4-4（Bプログラム及びCプログラムのみ）  
該当する経費がある場合は、事業終了後30日以内に、別途指定する関係書類を添えて当該書類を提出すること。  
ただし、令和4年3月15日（火）以降に事業が終了する場合にあつては、令和4年4月15日（金）までに提出すること。
- (6) 変更承認申請書 …別記様式5-1、5-2  
実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。  
なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

## 8 その他

- (1) 共催に関する表示  
実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。  
**【表示例】** 共催：一般財団法人地域創造、共催：（一財）地域創造
- (2) 損害賠償の免責  
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。
- (3) 関係書類の提出  
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。
- (4) 情報提供  
地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。
- (5) その他  
事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。  
また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。



## 登録アーティスト

令和3年度登録アーティスト（8組）

北尾亘、白井剛、田村一行、長井江里奈、中村蓉、藤田善宏、マニシア、康本雅子

## 参考

## 事業の流れ・手続き等

## ●令和2年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月下旬 ～7月10日	申し込み受付 申込書締切：7月10日（金）	事業申込書
8月下旬	事業内定通知	
10月5日 ～10月7日	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）の開催 開催場所：横浜赤レンガ倉庫1号館	
10月中旬	事業実施計画案の作成	事業実施計画案
12月上旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

## ●令和3年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月上旬	事業決定通知	
4月～	個別研修（現地地下見）の実施	
事業実施 2か月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の作成 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書
事業終了後 30日以内	・実績報告 ・負担金の請求	事業実績報告書 公演負担金請求書 (Bプログラム及びCプログラムのみ)

## 公演負担金対象経費（対象経費の 2/3 以内で上限 50 万円）

※ Bプログラム及びCプログラムのみ対象

## 1 対象経費

文芸費	現地舞台監督料、現地における照明・音響プラン料、調律料、著作権使用料など
設営・舞台費	現地舞台仕込等人件費、現地照明・音響等オペレーター人件費、照明・音響等機材費、舞台設営費、リノリウム借上料、市民参加作品に関わる経費（衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費など）など
会場費	会場借上料
謝金・旅費・通信費	地元出演者等謝金、会場整理等賃金、地元出演者等交通費・宿泊費・日当費、通信費など
宣伝・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター・プログラム・チケット製作費、チケット販売手数料など
記録費	録画費、写真費、記録映像作成費ほか
消耗品費	事業に係る消耗品費
保険料	ワークショップ参加者等保険料ほか

※対象経費としての判断が困難な項目等は、関係者間で協議し決定する。

## 2 対象外経費

- ① 事業実施団体以外の者が支出した経費
- ② 事業実施団体及び申請者が請求者となっている経費（例：利用料金（地方自治法第 244 条の 2 第 8 項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
- ③ 地域創造負担を超えるアシスタント・共演者等に係る経費
- ④ 打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）
- ⑤ 手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
- ⑥ 事務局経常費（事務所維持費、職員給与等）
- ⑦ 登録アーティスト等の現地移動にかかる交通費
- ⑧ その他、対象経費として適当でないと地域創造が判断したもの

### ●小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

1977年岩手県出身。郷土芸能「鹿踊」伝承者。（公社）全日本郷土芸能協会（東京都）に入職し、芸能の魅力発信や災害復興支援、コーディネートに携わる。東日本大震災を契機に、出身者・首都圏在住者が芸能でつながる「東京鹿踊」プロジェクトならびに東北仙台にて「縦糸横糸合同会社」を立ち上げる。地域に伝わる“縦糸”の文化を選び出し、他分野他視点の“横糸”が交差する場のコーディネートと、次世代への伝達方法を検討・実践する企画提案を東北内外で行っている。東北と東京の二拠点で活動中。

### ●神前沙織（NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN） チーフ・コーディネーター、ディレクター）

2005年よりJCDNにて「踊りに行くぜ！！」等のプロダクション・マネージャーを担当。2009年より、子供から大人まであらゆる人を対象とした「コミュニティダンス」の全国的な普及に携わり、多数の市民参加公演をコーディネート。2012年より、沖縄・大阪・滋賀など各地の小中学校にダンスアーティストを派遣。高齢者／児童福祉施設、少年更生機関などと連携しダンスプログラムの企画・コーディネート。ほか、振付家、ファシリテーター育成事業など、京都を拠点にダンスと社会をつなぐ様々なプログラムを行っている。

### ●坂田雄平（NPO法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

宮古市民文化会館館長補佐・プロデューサー、岩手県文化芸術コーディネーター（県央・沿岸）、三陸国際芸術祭のディレクター、調査・コンサルティング事業などを担当。2003年より桜美林大学パフォーマンス・アーツ・インスティテュートに所属、芸術地域通貨ARTSを開発・運用や附属劇場の企画・運営などを行う。2007年より財団法人地域創造にて演劇事業や調査研究事業に携わる。2012年より北九州芸術劇場にて演劇・ダンス事業や領域横断型の文化芸術プロジェクトを担当し、現職。

### ●中富勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

2006年より横浜赤レンガ倉庫1号館にて、国際的なダンスフェスティバル「横浜ダンスコレクション」を始め、海外との共同制作や数々のダンス公演を担当。アーティストの育成、発信や活動場所拡充のため、国内外の劇場やフェスティバル等のネットワーク構築、連携に力を入れている。また舞台芸術の新たな観客創造を目指し、地域・企業と劇場をつなぐ事業を手がけている。Seoul Choreography Contest 審査員（2010年韓国）、WIFI Body Festival New Choreographers Competition 審査員（2014年フィリピン）も務めた。

### ●中西麻友（NPO法人芸術家と子どもたち 事務局長）

1980年大阪生まれ。成安造形大学デザイン科写真クラス卒業。2006～2008年大阪市内の小学校に教諭として勤務。その後1年半のイギリス留学を経て、2011年3月より「NPO法人芸術家と子どもたち」に勤務。ワークショップ・コーディネーターとして、学校（特別支援学級含む）や幼稚園、保育園、児童養護施設、障害児入所施設等での事業を担当。

### ●宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

1997年～2015年、スパイラル／榊ワコールアートセンターに勤務。パフォーマンスアーツを担当する他、スパイラル内外の展覧会やイベント企画に携わる。2年に一度、東京・青山を中心に開催している国際ダンスフェスティバル「Dance New Air」には前身のダンスビエンナーレトーキョー2004から参画。劇場空間をはじめ、屋外スペースやサイトスペシフィックな空間、映画館、書店、プラネタリウムなど、様々な場所を舞台にダンスを通して新たな可能性を提案している。15年8月より（一社）ダンス・ニッポン・アソシエイツ代表理事。

令和 3 年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階

Tel.03-5573-4077、4079 Fax.03-5573-4060

発行日／令和 4（2022）年 6 月